WEBGATE
HD CCTV

ユーザーマニュアル

(JP Rev 3.8)

Control Center

インストールおよび操作マニュアル

本ユーザーガイドは Control Center の使用方法を説明するものです。製品をご使用になる前に本ガイドをよくお読みください。本ガイドおよび本書で説明するソフトウェア・ハードウェアは著作権法により保護されています。著作権法の範囲内での通常使用のための複製を除き、製造元の許可なく本書の一部または全部を複製すること、他言語へ翻訳することは禁止されています。

製品保証および責任の制限

製造元は本製品の販売について責任を負わず、製造元に代わって責任を負う権限を第三者に委任しません。本書は一般的な情報提供のみを目的としており、本情報の使用に伴うリスクはすべてユーザーに帰属し、本書の内容はいずれも保証されません。

本書の内容はソフトウェアのアップグレードや製品設計により異なる場合があり、仕様はユーザーへの事前通知なく変更されることがあります。

Copyright ©2025 WEBGATE Inc. All rights reserved

目次

製品概要 4

基本情報 4 主な機能 5

インストール 7

システム要件 7

インストール前の注意事項 7 インストールプログラム 8

はじめに 11

プログラムの起動/ログイン 11

ユニット登録 11

ライブビューア(モニター) 16

画面構成と機能名 16

サイトモード 22

ビューセットモード 36 マップモード 39

再生ビューア 43

画面構成と機能名 43

ユニット接続とファイルを開く 46

基本操作 48 検索 52

設定ツール 60

旧モデルの設定 61

ツール 65

スケジュールバックアップ 65

MiniPlayer 69

DVR HDD Manager 70

付録 71

WESP SDK の紹介 71

製品概要

基本情報

Control Center は、遠隔地に設置された最大 1,024 台のユニットを制御できる管理ソフトウェアです。

リアルタイム監視、録画映像の検索・バックアップ、設定などの機能を提供します。また、144 分割画面のデュアルモニターに対応し、最大 288 チャンネルを同時に監視できます。指定したモーション領域での検索やテキスト検索も可能です。

マルチストリーミングによりマルチチャンネル映像を最適に監視できます。分割画面に合わせてストリームを自動選択できます。

マルチストリーミング対応製品の利点を活かし、分割画面に応じてストリームを自動選択する機能により、マルチチャンネル監視でも最適な監視を実現します。この機能により、シングル画面モードでは HD(1080p、720p)~4K UHD(2160p)ストリームを、多分割画面モードでは SD ストリーム(nHD、D1、Half、CIF)を表示できます。ネットワークリソースの消費を抑え、CPU リソースを効率的に使用するための機能です。自動で動作するため、設定や映像伝送の待ち時間は必要ありません。

この技術を分散接続管理に適用することで、CPU とネットワークの負荷を抑えながら多数のユニットをリアルタイムで管理できます。

ハードウェアデコードにより、HD ストリーム 25 チャンネルまたは nHD ストリーム 64 チャンネルをリアルタイムで監視できます。他のプログラムにより PC の性能が一時的に不足した場合は、システムの安定性を確保するため最小限のチャンネルのフレームレートを下げます。性能が回復すると元の監視フレームレートに自動的に戻り、常に最適な監視環境を提供します。

登録ユニットで発生した状況をリアルタイムで通知・対処するさまざまな方法を備え、発生したイベントの保存・検索機能も提供します。イベント発生時には関連映像をポップアップ表示します。

Control Center は、多数のユニットを効率的かつ便利に管理するためのビューセットおよびマップのグループ化機能を提供します。ビューセット機能は、複数のユニットから任意のチャンネルを選択して新しい名前で管理する機能です。マップ機能は、カメラ・センサー・マイク・リレーをマップ上に配置してユニットを管理する機能で、各デバイスのアイコンを操作して映像の表示や制御ができます。

さらにデュアルモニターに対応しているため、ユニットの監視と制御を同時に行い、イベントやアラームログなどのユニット状態をリアルタイムで確認できます。

主な機能

FULL HD 映像に対応

本製品は、SD CIF/HALF/D1 の通常映像に加え、UHD 2160p(3840x2160)、QHD 1440p(2560x1440)、HD 1080p(1920x1080)、720p(1280x720)、nHD(640x360)の高画質映像のライブ監視および再生/バックアップに対応しています。また、RTSP プロトコル対応カメラのライブ監視にも対応しています。

- ✓ **ライブリアルタイム監視で 4K(UHD)および 4M(QHD)を 30fps で表示 ライブリアルタイ**
- ✓ **ム監視で 1080p・各チャンネル 30fps で最大 30ch に対応 ライブリアルタイム監視で**
- ✓ **nHD・各チャンネル 30fps で最大 90ch に対応**

ライブ監視

多様な監視画面と、チャンネルごとの遅延のない高画質映像表示に対応。

✓ モニター 2 台接続に対応
✓ 多様な画面分割「1/4/6/7/8/9/10/13/16/25/36/49/64/81/100/121/144」に対応
✓ フルスクリーンモード
✓ マウスのドラッグ&ドロップで映像を任意の位置に追加可能
✓ グループビューセット管理機能
✓ 階層マップ機能
✓ 自動シーケンススイッチャー、イベントポップアップ
✓ リアルタイム音声出力
✓ マイク対応

再生

検索と再生のための便利な機能に対応。

✓ 64 分割画面の同時再生に対応
✓ フルスクリーンモード
✓ カレンダー/タイムライン/テキスト/スマート/サムネイル/ブックマークによる検索
✓ 時刻・日付・チャンネル別の再生
✓ イベント映像の個別再生
✓ 多段階の速度での再生(最大 64 倍速)
✓ ウォーターマーク確認に対応
✓ チャンネル別の映像調整に対応
✓ デジタルズームイン/アウト
✓ DVR の HDD を PC に直接接続して再生/検索/バックアップ

録画とバックアップ

映像の録画やリアルタイム映像監視の保存、ユニットの録画データのスケジュールバックアップおよびリアルタイムバックアップ機能に対応。

✓ 監視映像のクイック録画と画像保存に対応
✓ ユニット録画映像のリアルタイムバックアップ
✓ スケジュールバックアップによる自動バックアップ
✓ イベントログの記録/検索/バックアップ

その他

✓製造元のすべての IP カメラ、SD DVR、HD DVR、NVR、WinDVrS、WinRDS に対応
✓熱検知カメラ、炎検知カメラと連携可能
✓TLS ユニットとの連携に対応
✓AI カメラに対応
✓リモート DVR に対応
✓RTSP ストリーミングに対応
✓最大 1024 台のユニットを接続可能
✓ユーザー権限、ユーザー操作制限、ユーザーログインに対応
✓ユニット設定情報の保存に対応
✓設定情報のインポート/エクスポート
✓キーボードホットキーとジョイスティックに対応
✓再生用ジョグ/シャトルデバイスに対応
✓最大 90 チャンネルのリアルタイム監視(帯域調整 OFF)
✓最大 288 チャンネルの同時監視

インストール

システム要件

Control Center を実行するための推奨システム要件です。

項目	推奨
CPU	Intel® Core i7-14700 2.1GHz
メインメモリ	16GB 以上
ディスプレイ	NVIDIA Geforce RTX 3050 以上
ネットワーク	100/1000 Ethernet NIC
OS	Windows 8(x64)、Windows 10(x64)、Windows 11(x64)
その他	DirectX 12 以上

インストール前の注意事項

Control Center は Microsoft Windows 11(x64)オペレーティングシステムに最適化されています。ウイルスや悪意のあるコードから保護するため、Windows Update とウイルス対策プログラムのインストールを強く推奨します。

Control Center の登録デバイスで大量のイベントが発生すると、PC のリソースが低下します。PC のパフォーマンスを向上させるため、不要なイベントが発生しないようユニットの設定を変更してください。

Microsoft 提供の標準ビデオドライバーを使用している場合、画面が激しくちらつき、グラフィック性能が低下することがあります。DirectX を使用しない(ツールバー – 設定 – ディスプレイ – DirectX Draw – Off)か、ビデオカードメーカー提供の最新ドライバーに更新してください。

<注意>

1. 書き込み権限のないフォルダーをパスに設定しないでください。
2. 1 つのシステムで複数のユーザーアカウントを切り替えてプログラムを実行すると、正常に動作しない場合があります。プログラムのインストールと使用は 1 つのアカウントのみで行うことを推奨します。
3. v3.x 以前のバージョンからアップグレードすると、サブログの保存方式が変更されます。アップグレード後の初回ログイン時は、検索に時間がかかります。
4. PC で使用中のプログラムとの競合を避けるため、実行中のプログラムをすべて終了してからインストールを進めてください。
5. インストール前に、製造元が提供するすべてのプログラムまたは Web ビューアを終了してください。

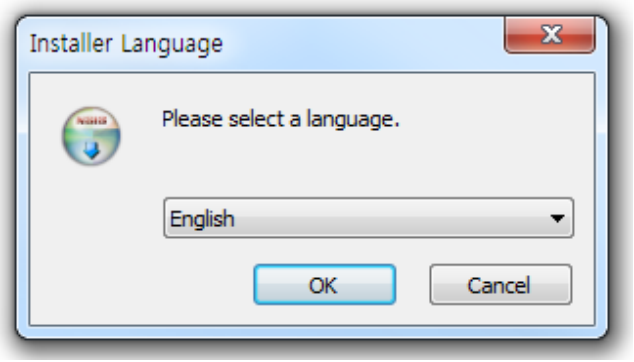
インストールプログラム

インストール

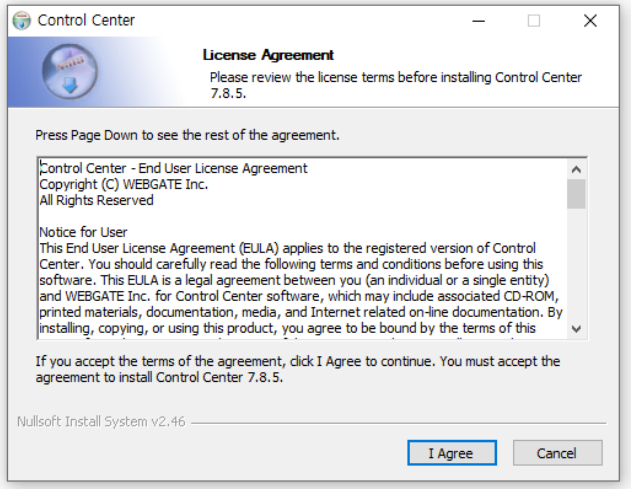
インストールプログラムを実行して PC に Control Center をインストールします。

1) Control Center セットアップ CD または PC から「Control Center x.x.x.x Setup.exe」ファイルを実行します。

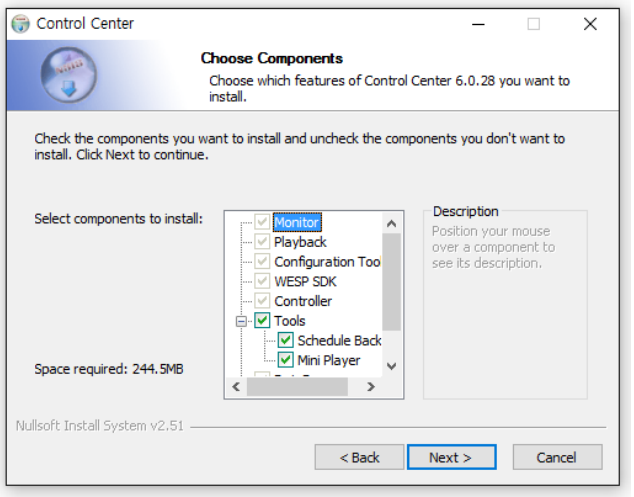
2) インストールする言語を選択し、[OK] ボタンをクリックします。



3) [同意する] ボタンをクリックしてインストールを続行します。

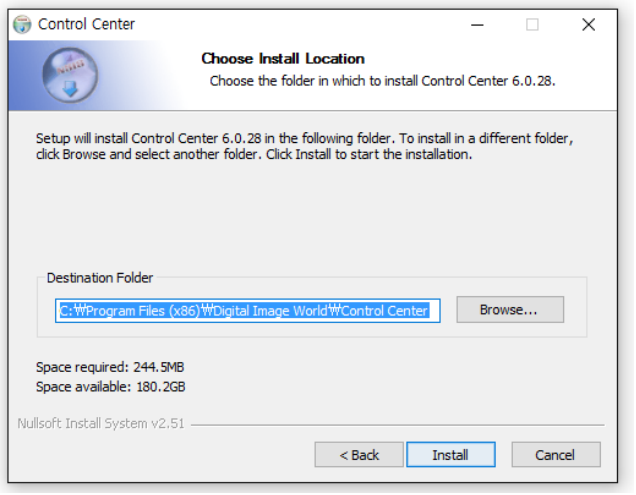


4) 基本プログラムと一緒にインストールする追加プログラムを選択し、[次へ>] ボタンをクリックします。

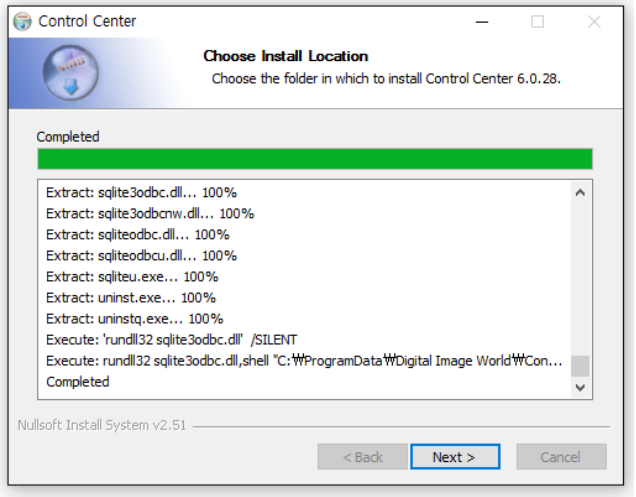


5) フォルダーを選択し、[インストール] ボタンをクリックします。

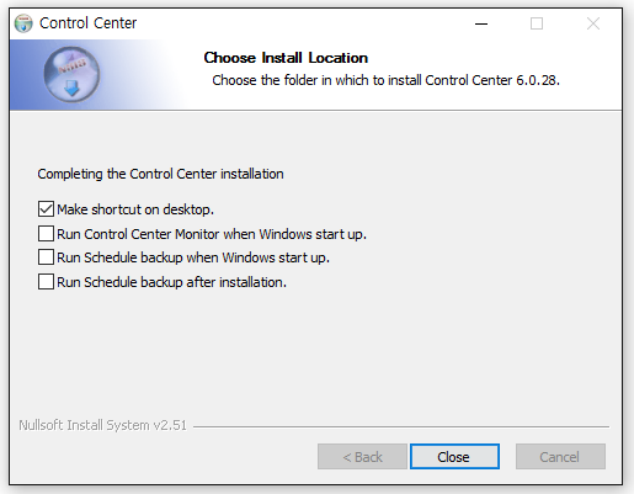
<注意> 既定のフォルダーへのインストールを推奨します。



6) インストールが完了したら [次へ>] ボタンをクリックします。



7) 追加オプションを選択し、[閉じる] ボタンをクリックしてインストールを完了します。



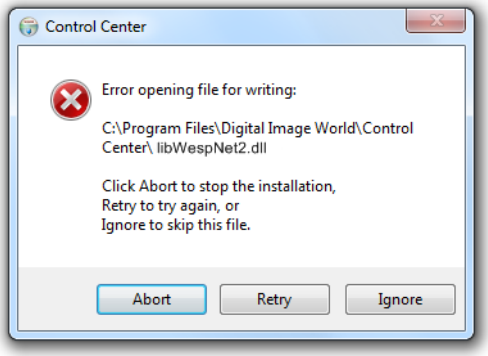
アップグレード

PC に Control Center がすでにインストールされている場合、プログラムファイルを削除せずにそのままアップグレードできます。インストール手順は「新規インストール」と同じで、アップグレード中も既存の設定は保持されます。

インストール中に発生した問題の解決方法

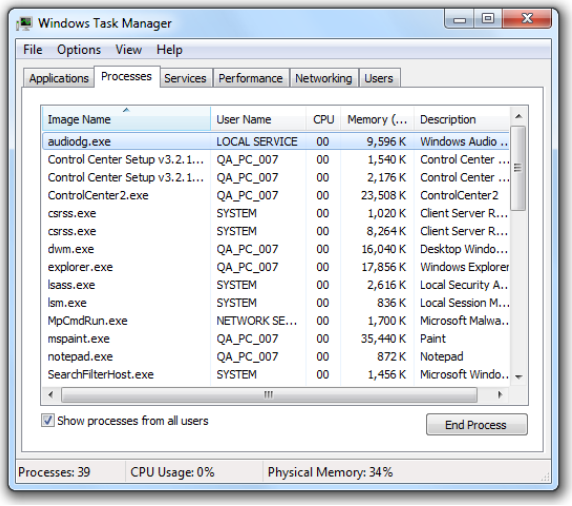
PC で他のプログラムが使用中の場合、Control Center のインストール中にインストールが停止しエラーが発生することがあります。Windows システムでプロセスの競合が発生する場合があるため、その際は以下の手順で該当プロセスを終了すると、正常にインストールを進めることができます。

1) 図のようなエラーが表示されたら [中止] や [無視] をクリックせず、「Windows タスクマネージャー」を開きます。



2) Windows タスクマネージャー下部の「すべてのユーザーのプロセスを表示」オプションを選択します。
3) 「ControllerService.exe」と「Controller.exe」を選択し、[プロセスの終了] をクリックしてプロセスを終了します。
4) [再試行] をクリックしてインストールを続行します。

<注意> プロセスを終了しても Control Center をインストールできない場合は、PC を再起動して再度インストールしてください。

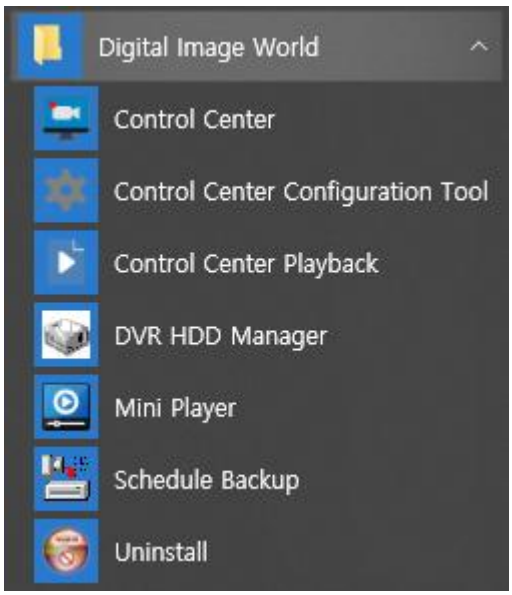


インストール結果の確認

インストール完了後、Control Center が正しくインストールされたか確認します。

1) スタート → すべてのプログラム に移動します。
2) Control Center が正しくインストールされていれば、「Digital Image World」フォルダーに「Control Center」およびその他の関連プログラムが表示されます。

<注意> Windows のバージョンによって表示が異なる場合があります。



はじめに

プログラムの起動/ログイン

PC のデスクトップにインストールされた「Control Center」アイコンをダブルクリックします。

ユニット登録

SD DVR、IP カメラ、NVR、WinRDS など製造元のすべての製品を Control Center Monitor に追加できます。本プログラムで監視、検索(再生)、設定を行うことができます。

ユニット追加

Control Center Monitor プログラムにユニットを追加する方法は 4 つあります。ユニット登録後、監視・再生・設定が可能になります。

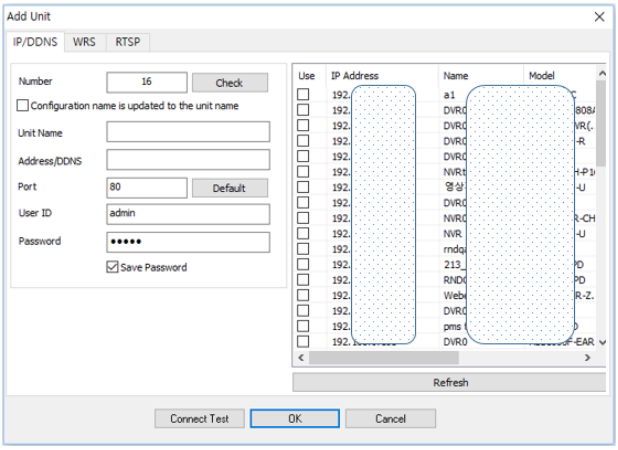
1. ユニット追加アイコンをクリック (上部ツールバーにあります)
2. 登録するユニットを右クリックし、[ユニット追加] をクリック
3. 「未登録ユニット」リストでユニットを選択し、「登録ユニット」へドラッグ
4. 「未登録ユニット」リストでユニットを選択し、右クリックして [ユニット追加] を選択

<警告>

1. ユーザー名とパスワードの初期アカウント
   1) **ユーザー名:V3 – Administrator / V4 以降 – admin**
   2) パスワード:admin
2. Administrator 以外のユーザーが PC にアクセスできる場合は、「自動ログイン」オプションを使用しないでください。
3. [設定-オプション-表示] メニューの「自動ログイン」を選択しない場合、プログラム起動時に毎回ログイン画面が表示されます。
4. 初期パスワードはセキュリティ上非常に脆弱なため、初回使用時にパスワードを変更し、定期的に変更することを強く推奨します。初期パスワードの使用により発生した問題はユーザーの責任となります。
5. ウイルスや悪意のあるコードから保護するため、Windows Update とウイルス対策プログラムのインストールを強く推奨します。

URL アドレスでユニット追加

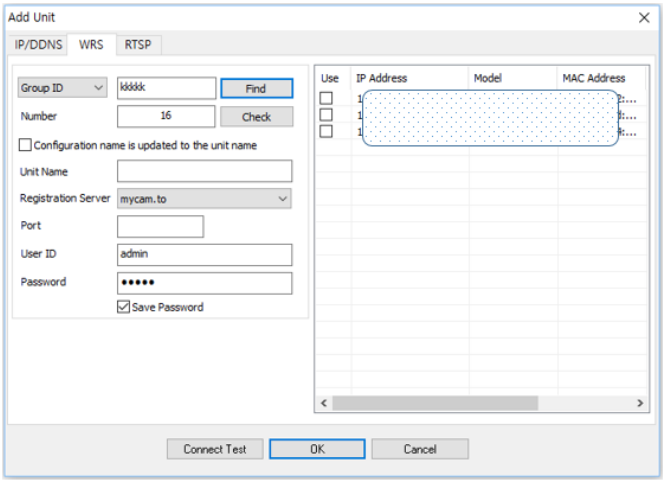
1) 「ユニット追加」を実行後、「IP/DDNS」タブを選択します。
2) ユニット名、IP アドレスまたは DDNS アドレス、ポート番号、ユーザー ID、パスワードを入力し、[接続テスト] ボタンをクリックします。(「アドレス/DDNS」の形式:「192.168.0.100」または「aaa.mycam.to」)
3) 「接続成功」メッセージが表示されたら [OK] をクリックします。
4) 登録したユニットがサイトツリーに表示されます。



<注意>
1. ユニットがローカルネットワーク内にある場合は、[更新] ボタンをクリックするとユニットを自動検出します。
2. [接続テスト] ボタンをクリックして「ログイン失敗」が表示された場合は、PC またはユニットのネットワーク接続状態を確認してください。
3. DDNS 登録ユニットの検索/追加には、インターネット接続が必要です。

サーバー(WRS)でユニット追加

1) 「ユニット追加」を実行後、「WRS」タブを選択します。
2) 「グループ ID」を選択して WRS グループ ID を入力するか、「シリアル番号」を選択してユニットのシリアル番号を入力し、[検索] ボタンをクリックします。
3) 同じグループ ID を持つユニット、または同じシリアル番号を持つユニットが右側の表に表示されます。登録するユニットを選択します。
5) 選択したユニットの情報が自動的に入力されます。
6) ユーザー ID とパスワードを入力し、[接続テスト] ボタンをクリックします。
7) 「接続成功」メッセージが表示されたら [OK] をクリックします。
8) 登録したユニットがサイトツリーに表示されます。



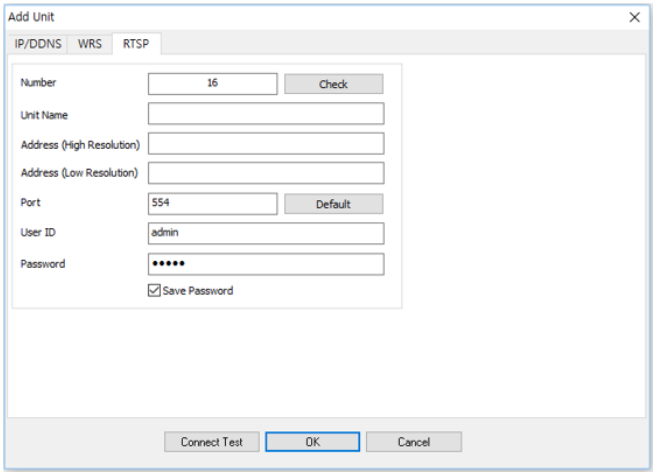
<注意>
1. DDNS サーバー www.mycam.to を使用できます。
2. [接続テスト] ボタンをクリックして「ログイン失敗」が表示された場合は、PC またはユニットのネットワーク接続状態を確認してください。
3. WRS 登録ユニットの検索/追加には、インターネット接続が必要です。

RTSP でユニット追加

1) 「ユニット追加」を実行後、「RTSP」タブを選択します。
2) 高解像度/低解像度に応じてユニットの RTSP アドレスを入力します。
3) ユーザー ID とパスワードを入力し、[接続テスト] ボタンをクリックします。
4) 「接続成功」メッセージが表示されたら [OK] をクリックします。
5) 登録したユニットがサイトツリーに表示されます。

<注意>

1. [接続テスト] ボタンをクリックして「ログイン失敗」が表示された場合は、PC またはユニットのネットワーク接続状態を確認してください。

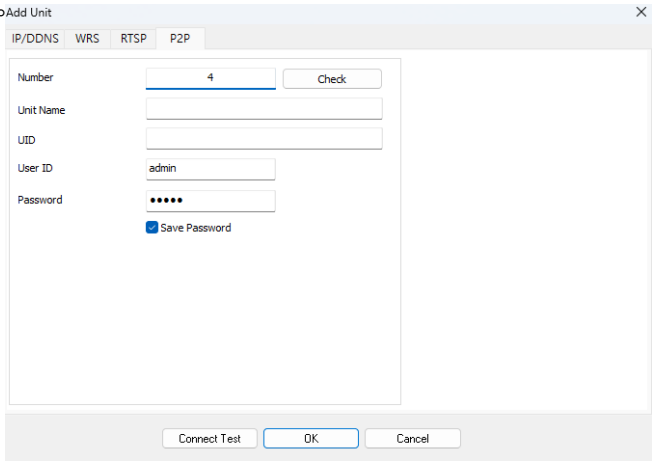


P2P でユニット追加

1) 「ユニット追加」ウィンドウが開いたら P2P を選択します。
2) P2P ユニットの UID を入力します。
3) 「ユーザー ID」と「パスワード」を入力し、「接続テスト」をクリックします。
4) 「接続成功」メッセージが表示されたら「OK」をクリックします。
5) 登録したユニットが「登録ユニット」ウィンドウに表示されます。

<注意>

1. P2P 対応の DVR/NVR ユニットを追加できます。
2. P2P ユニットの検索/追加には、インターネット接続が必要です。



ユニット監視

ユニットを監視する方法は 4 つあります。ユニットのライブ映像は右側の映像ウィンドウに表示されます。

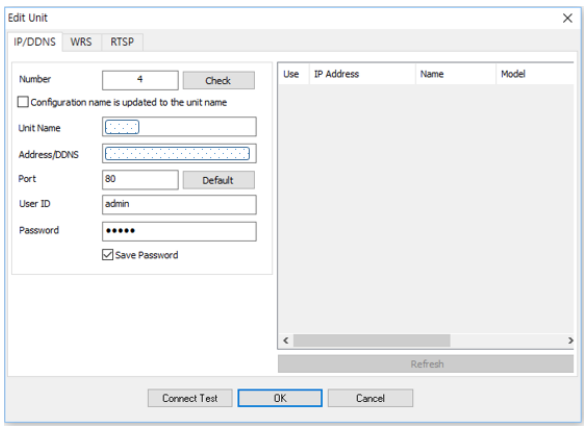
1. 「登録ユニット」リストの「ユニットアイコン」をクリック
2. 「ユニット名」をダブルクリック
3. ユニット名をクリックして映像ウィンドウへドラッグ
4. リストを展開した状態で登録ユニットの下に表示されるカメラアイコンをドラッグ&ドロップ



ユニット編集

「登録ユニット」に登録されたユニットの番号、ユニット名、IP アドレス、ポート番号、ユーザー ID とパスワード、RADIUS キーを編集できます。ツールバーの [ユニット編集] アイコンをクリックするか、「登録ユニット」のユニット名にマウスカーソルを置いて右クリックし [ユニット編集] メニューを選択すると、「ユニット編集」ウィンドウが表示されます。

1) 変更する情報を編集し、[OK] ボタンをクリックします。
2) 編集した情報がユニットに保存されます。



ユニット削除

「登録ユニット」リストのユニットを削除できます。削除したユニットはいつでも制限なく再追加できます。ユニットを削除するには、[ユニット削除] アイコンをクリックするか、「登録ユニット」のユニット名にマウスカーソルを置いて右クリックし [ユニット削除] を選択します。[はい] で削除、[いいえ] でキャンセルします。

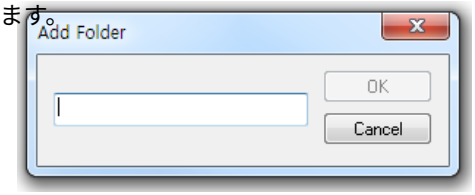
ユニット情報の更新

ツールバーのアイコンを使用するか、ユニット項目ウィンドウで右クリックして [更新] オプションを選択すると、ユニット情報を更新できます。情報の編集やネットワーク状態の確認に使用できます。

フォルダー追加

「登録ユニット」上で右クリックし、[フォルダー追加] オプションを選択します。

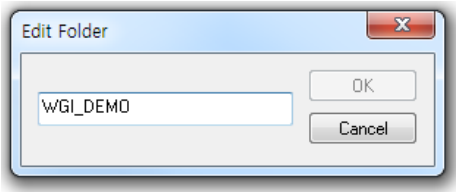
1) フォルダー名を入力し、OK ボタンをクリックしてフォルダーを追加します。
2) フォルダーが「登録ユニット」に表示されます。



フォルダー編集

フォルダーを選択して右クリックし、[フォルダー編集] オプションを選択するとフォルダー名を編集できます。

1) フォルダー名を編集し、OK ボタンをクリックします。
2) 変更したフォルダー名が「登録ユニット」に表示されます。



フォルダー削除

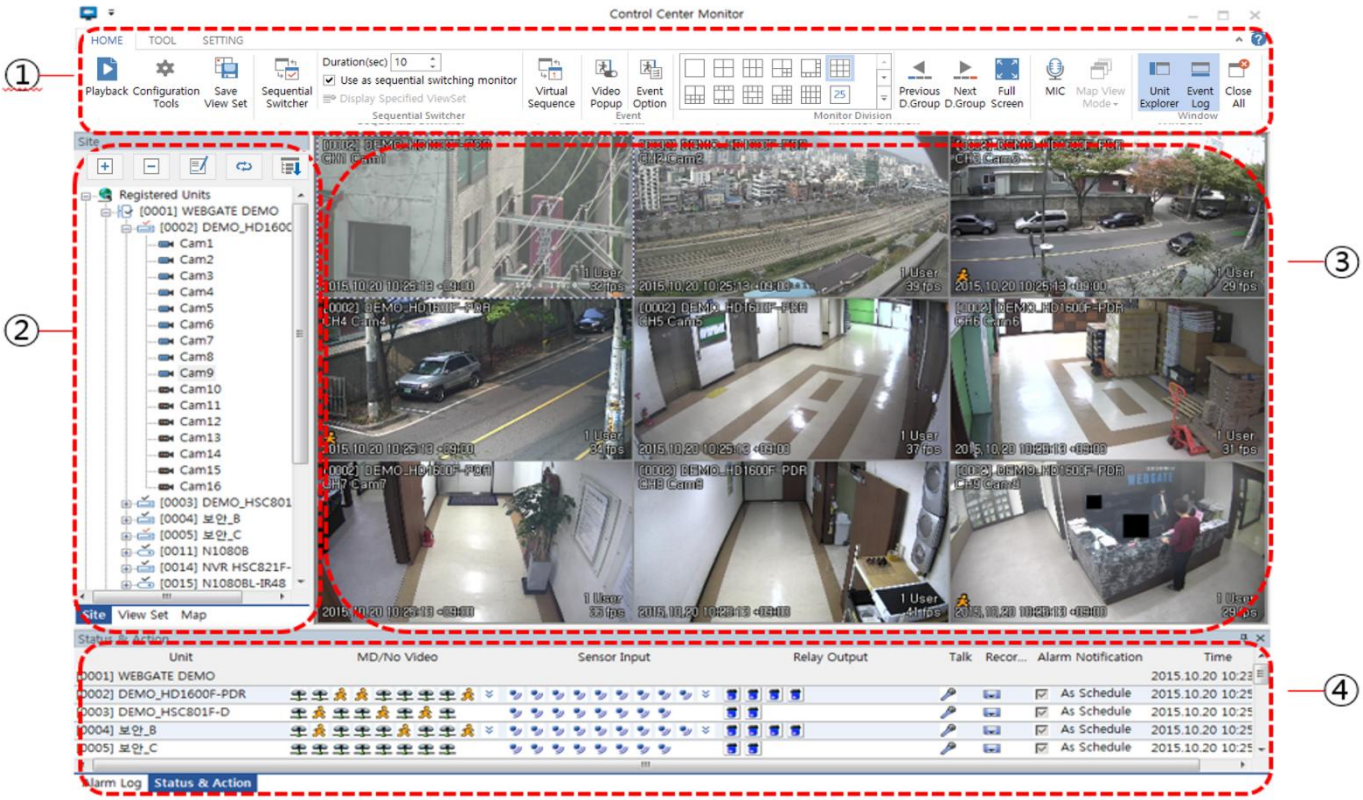
「登録ユニット」に登録されたフォルダーを削除できます。フォルダーを削除すると、サブフォルダーに登録されたユニットも一緒に削除されますのでご注意ください。削除したフォルダーはリストから消え、後からいつでも制限なく登録できます。フォルダーを選択して右クリックし [フォルダー削除] を選択すると、削除確認ウィンドウが表示されます。[はい] で削除、[いいえ] でキャンセルします。

ライブビューア(モニター)

Control Center のモニタープログラムでは、接続したユニットのリアルタイム映像の監視、サイトやユーザーの管理ができます。また、リアルタイムのイベント情報やシステムログを確認でき、キーボード・ジョイスティックなどの外部機器による便利で簡単な操作にも対応しています。

画面構成と機能名

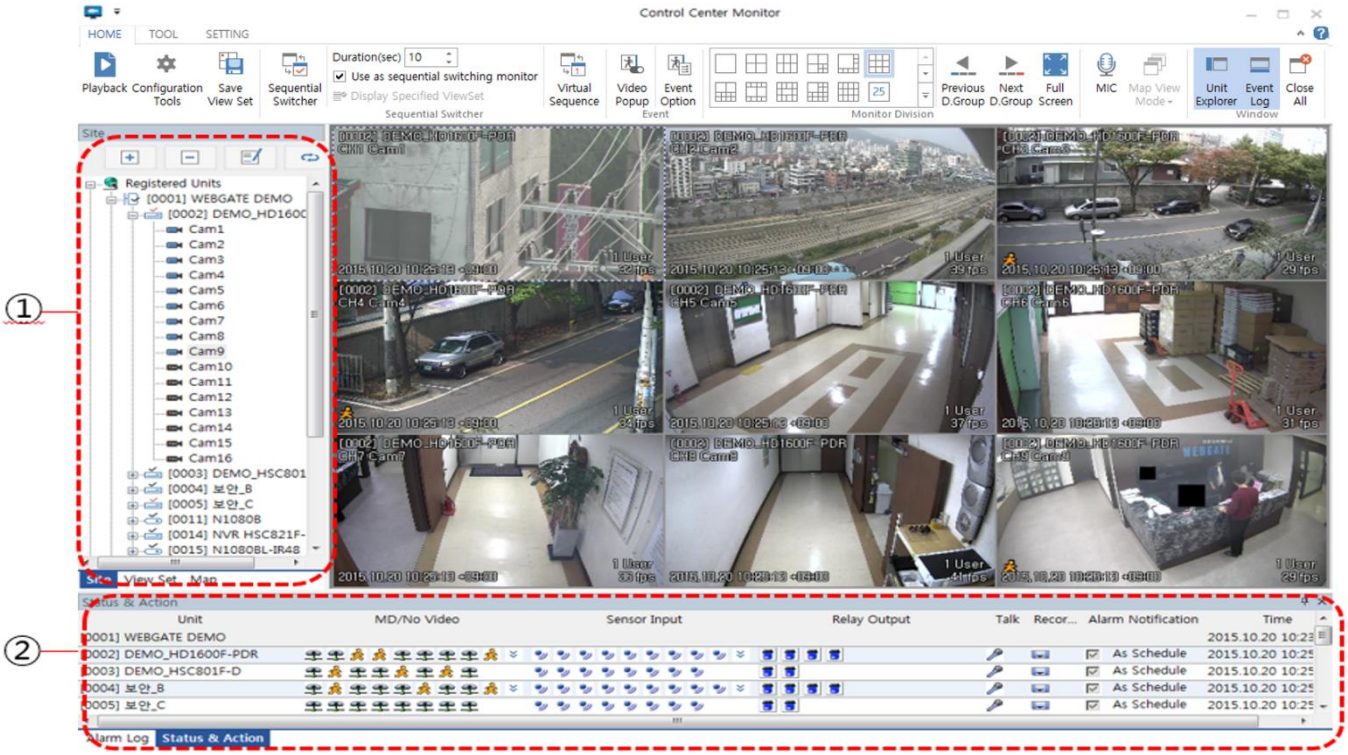
画面構成



項目		説明
1	メニュー/ツールバー	プログラムで使用するメニューと機能ボタンです
2	ユニットリストウィンドウ	1. ユニットの追加/削除/変更、ユニットリストの更新ができます。 2. プログラムに登録されたユニット/ビューセット/マップを表示します。リストをクリックすると映像を表示します
3	映像ウィンドウ	ライブ監視映像を表示します
4	状態&アクションウィンドウ	ユニットの状態、イベント情報、アラームログを表示します

コントロールパネルの位置移動

Control Center は各コントロールをマウスで自由に移動・ドッキングできる動的 UI に対応しています。ライブビューアの内部構成を変更して最適な画面を構成できます。

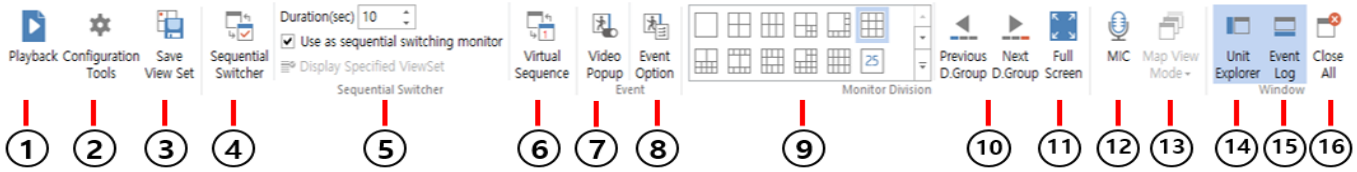


1) ①、② のコントロールのタイトルバーをドラッグするとドッキングガイドアイコンが表示され、アイコン上にタイトルバーをドロップするとコントロールを移動・配置できます。

2) ライブビューアプログラム内で上下左右に移動でき、ビューアプログラムの外に切り離して個別に配置することもできます。

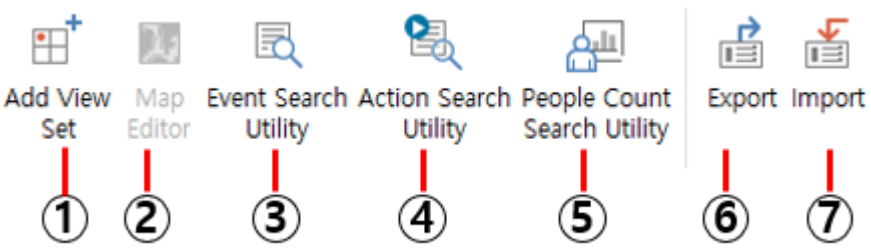
アイコン機能の説明

ツールバー - ホーム



項目		説明
1	再生	Control Center 再生を実行
2	設定ツール	ユニットの設定を実行
3	ビューセット保存	現在の監視状態をビューセットに保存
4	シーケンススイッチャー	自動シーケンス機能のオン/オフ
5	シーケンスオプション	1. 間隔(秒):自動シーケンス機能の切替間隔(秒)を設定します。 2. 切替使用:マルチモニター使用時に、 各モニターで自動シーケンス機能を使用するかどうかを設定します。 3. 指定ビューセット表示:ビューセットモードでの自動シーケンスを設定します。
6	仮想シーケンス	選択したビューセットのすべてのチャンネルを、選択したチャンネル位置に順番に表示します。このアイコンをクリックすると、仮想シーケンスに使用するビューセットを選択するポップアップが表示されます。
7	映像ポップアップ	映像ポップアップ機能のオン/オフ
8	イベントオプション	映像ポップアップオプション、およびアラームソース、イベントログ保存期間、ブザー、炎/熱検知オーバーレイ、AI イベントオーバーレイ、切断検知時間などのイベントオプションを設定します。
9	モニター分割	モニター画面の分割を 1/4/6/7/8/9/10/13/16/25/36/49/64/81/100/121/144 分割で制御します。多分割には現在選択中のチャンネルが含まれます。
10	前の分割グループを選択 次の分割グループを選択	多分割モードで前または次の分割グループに移動します。例えば、現在選択中のチャンネルが ch6 で 4 分割モードの場合、ch5~ch8 が表示されます。「前の分割グループ」をクリックすると ch1~ch4、「次の分割グループ」をクリックすると ch9~ch12 が表示されます。
11	フルスクリーン	PC モニターをフルスクリーン表示します。
12	マイク	PC のマイク音声を、現在選択中の非常ベル IP カメラのスピーカーに送信します。
13	マップ表示モード	マップモードで有効になり、マップを垂直/水平の角度で表示できます。
14	ユニットエクスプローラー	ユニットリストウィンドウを非表示にします。
15	イベントログ	イベントビューアウィンドウを非表示にします。
16	すべて閉じる	監視接続やマップ、ウィンドウを閉じます。

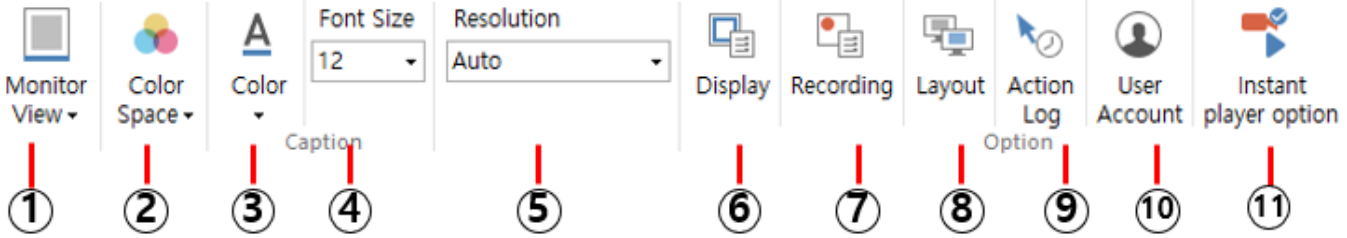
ツールバー - ツール



項目		説明
1	ビューセット追加	ビューセット追加ウィンドウを実行します。登録ユニットの映像を自由に構成し、その構成状態をビューセットに保存できます。
2	マップエディター	マップモードで実行します。マップの追加・編集・削除に対応します。

3	イベント検索ユーティリティ	保存されたイベントを日付・ユニット・カテゴリで検索します。
4	アクション検索ユーティリティ	保存されたイベントをアクションログで検索します。
5	人数カウント検索 ユーティリティ	日付・チャンネル(ユニットまたはビューセット)別に人数カウント情報を検索し、保存します。
6	エクスポート	Control Center Monitor の設定をエクスポートします。
7	インポート	Control Center Monitor の設定をインポートします。

ツールバー - 設定



項目		説明
1	モニター表示	1. フル:映像をフルサイズで表示します。 2. 比率:映像の比率に合わせて表示します。 3. キャプション領域:キャプション領域を含めて表示します。
2	色空間	色表現を YUV/RGB から選択します(YUV 推奨)。
3	色	映像ウィンドウに表示される文字の色を変更できます。
4	フォントサイズ	映像ウィンドウに表示される文字のサイズを調整できます。
5	解像度	1. 自動:映像サイズ、ネットワーク状態、FPS などを分析し、 最適な解像度で自動的に表示します。 2. 高解像度:映像を高解像度に固定して表示します。 3. 低解像度:映像を低解像度に固定して表示します。
6	ディスプレイ	表示に関する設定を行います。 1. DirectX Draw 使用:DirectX Draw で映像を描画する機能です。(既定:ON) 2. デインターレース:アナログ信号のインターレース映像をノンインターレース形式に変換する機能です。(既定:OFF) 3. 自動ログイン:Control Center 起動時にログイン画面なしで実行する機能です。(既定:ON) 4. プログラム終了前に認証:権限のあるユーザーのみが Control Center を終了できます。(既定:OFF) 5. ウォッチドッグ使用:Control Center が異常終了した際に自動で再起動する機能です。(既定:OFF) 6. 検出で応答した IP アドレスに接続:ユニットの IP が変更された場合、検出されたアドレスに自動接続する機能です。(既定:OFF) 7. ハードウェアデコード使用 1) グラフィックカード(GPU)のデコード性能を使用して映像を表示する機能です。ハードウェアデコード使用時は、より多くのチャンネルをリアルタイム(フルフレーム)で監視できます。(既定:OFF) <注意> - ハードウェアデコードが ON の場合、色空間は YUV に固定され無効になります。 8. バッファリング:設定時間分の映像を保存し、均一に表示して滑らかに表示する機能です。(既定 ON、200ms) 9. 帯域調整:ネットワーク使用性能を設定する機能です。自動

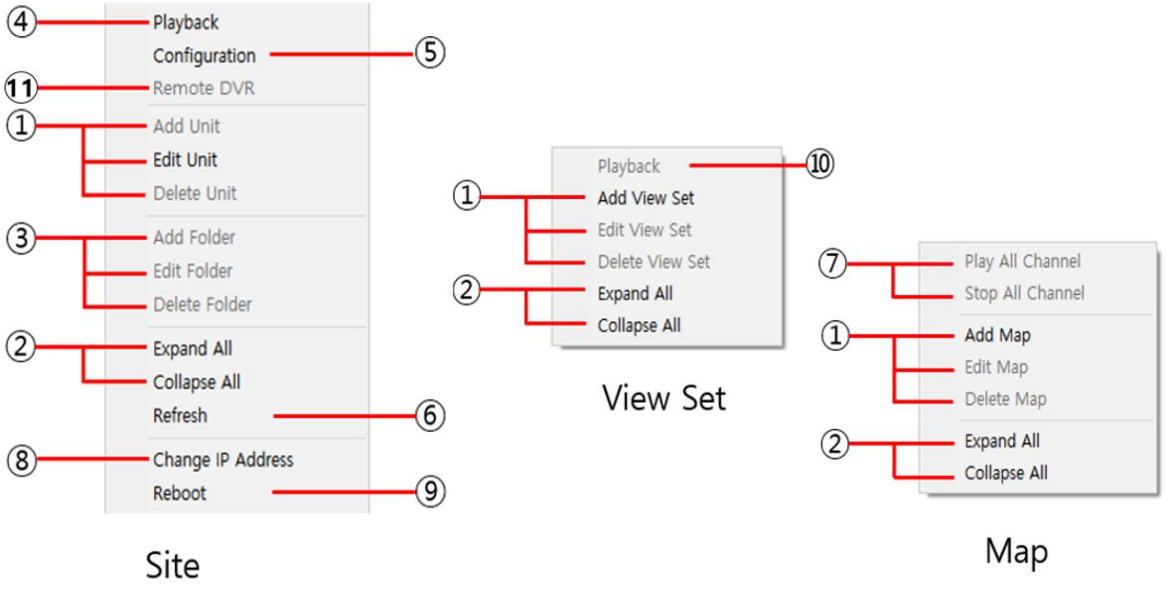
		モードではネットワーク状態に応じて自動調整されます。低帯域モードはネットワーク速度が遅い環境で使用します。オフモードでは帯域調整を行わず、最大限のネットワークを使用します。(既定:自動) 10. 定期再起動:設定した時刻に Control Center を再起動します。 1) 再起動の 30 秒前にポップアップウィンドウが表示されます。 a. 今すぐ再起動:クリックするとすぐに再起動します b. 延期:「次回通知」で設定した時間(5 分/10 分/30 分/1 時間/2 時間)後にポップアップを表示します。 c. キャンセル:次の定期時刻まで再起動を取り消します。 d. 操作がない場合は 30 秒後に再起動します。 11. キャプション:ユニット名、時刻、ハードウェアデコード、チャンネル番号、イベント、AI オブジェクト、チャンネル名、伝送速度、タイムゾーン、ログインユーザー数、テキスト入力、人数カウントをチェックすると、チェックした各項目が映像上に表示されます。 12. サービスチャンネルのキャプション表示:サービスチャンネル映像のキャプションを表示します。(既定 ON) 13. 自動シャットダウン:設定時間後に Control Center を終了する機能です。(既定:OFF) 14. PTZ オプション(既定モード):PTZ 有効時の既定モードを設定できます。(既定:通常 PTZ モード)
7	録画	録画・画像保存時のファイル保存パスやその他各種設定を行います。
8	レイアウト	Control Center Monitor のモニター構成を設定できます。
9	アクションログ	アクションログに記録する項目を選択できます。選択した項目はアクションログに表示され、アクション検索ユーティリティで検索できます。項目を選択しない場合、アクションログには何も表示されません。
10	ユーザーアカウント	Control Center Monitor のユーザーを追加・編集・削除します。
11	インスタントプレーヤーオプション	インスタントプレーヤーの映像再生開始・終了時間を設定します。

ユニットリストウィンドウ

アイコン	説明
	登録ユニットのフォルダー管理ユニットです。
	ローカルネットワークで検出されたが「登録ユニット」に登録されていないユニットを表示します。
	登録ユニットをサブフォルダーで管理できます。
	ユニットとの接続失敗状態(接続失敗)
	ユニットとの通信は可能だがログインに失敗(ログイン失敗)
	ログイン成功
	アラーム受信時に 5 秒間点滅します。
	ユニットのすべての映像チャンネルを監視中です。
	WinDVrS、WinRDS ユニット
	映像チャンネル
	センサー
	リレー出力
	音声出力(通話)
	ビューセット
	マップ
	マップのサブフォルダー(チャンネル、リレー、センサー、音声出力)

ユニットリストウィンドウのポップアップ説明

サイト/ビューセット/マップモードの各ユニットリストウィンドウで右クリックするとメニューが表示されます。
ユニットの登録・編集・削除、フォルダー管理、ユニットリストを開く機能などを使用できます。



項目		説明
1	ユニット/ビューセット/マップ追加	サイト/ビューセット/マップモードで使用する各デバイスの登録状態を管理できます
	ユニット/ビューセット/マップ編集	
	ユニット/ビューセット/マップ削除	
2	すべて展開	ユニットリストウィンドウに登録されたすべてのデバイスのツリーを開きます
	すべて折りたたむ	ユニットリストウィンドウに登録されたすべてのデバイスのツリーを閉じます
3	フォルダー追加	サイトモードでユニットをグループ管理するためのフォルダーを作成します
	フォルダー編集	
	フォルダー削除	
4	再生	Control Center 再生プログラムを実行します
5	設定	ユニットの設定を実行
6	更新	ユニットリストウィンドウを更新します
7	全チャンネル再生	マップに登録されたすべてのチャンネルの映像をライブビューアで表示します
	全チャンネル停止	マップに登録されライブビューアに表示中のすべての映像を閉じます
8	IP アドレス変更	選択したユニットの IP アドレスを変更します。
9	再起動	選択したユニットを再起動します。
10	再生	選択したビューセットを再生します。
11	リモート DVR	DVR のサービスストリーミングが「Remote DVR」に設定されている場合に有効になります

サイトモード

サイト接続

「登録ユニット」リストの「ユニットアイコン」をクリックするか「ユニット名」をダブルクリックすると、ユニットのライブ映像を表示できます。既定では DVR の全チャンネルを表示する分割画面になります。チャンネルを個別に選択したり、「ユニットアイコン」や「カメラアイコン」をドラッグ&ドロップすることもできます。この操作はビューセットモードやマップモードでも同様です。



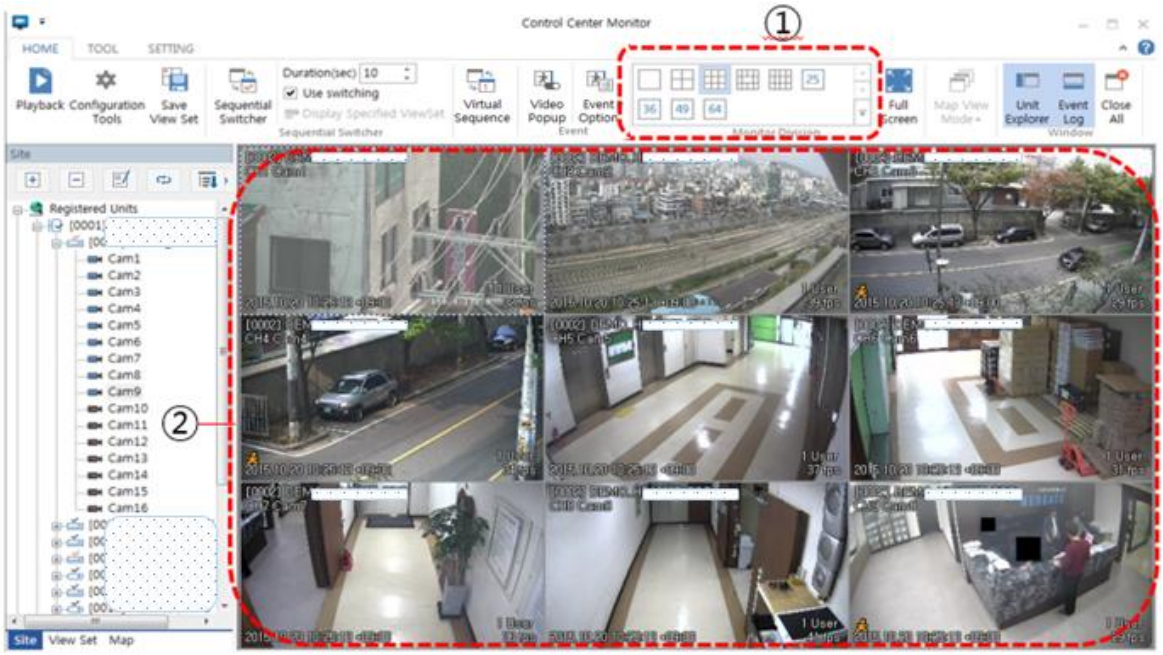
上図のように、① ユニットをクリックまたは ② 領域へドラッグすると、映像ウィンドウに映像が表示されます。

映像接続の終了

アイコンをクリックすると接続を終了します。

映像分割モードの変更

分割モードは 1~144 分割で、分割モードアイコンのクリックまたは映像ウィンドウのダブルクリックでチャンネルを切り替えます。



上図のように、① 分割モードアイコンをクリックするか ② 映像ウィンドウをダブルクリックして、シングル/マルチチャンネルを切り替えます。

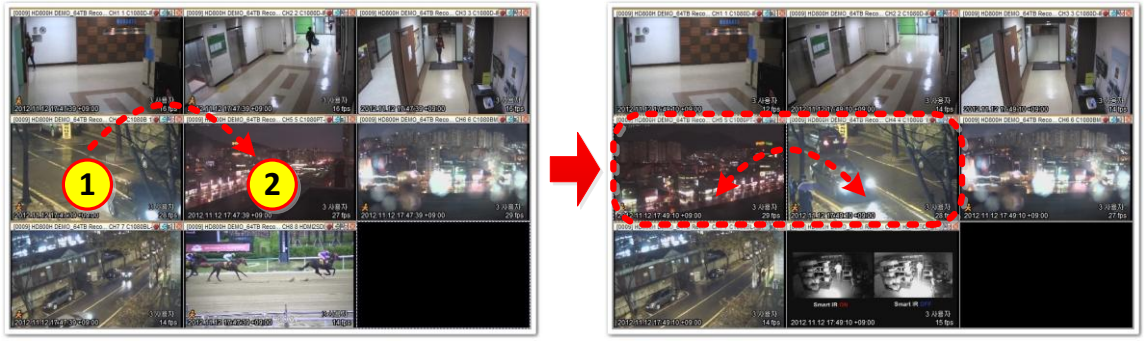
フルスクリーンモード

Control Center のコントロールを非表示にするフル分割画面に対応しています。[フルスクリーン] をクリックするとフルスクリーンモードになり、[ESC] キーで終了します。



映像位置の移動

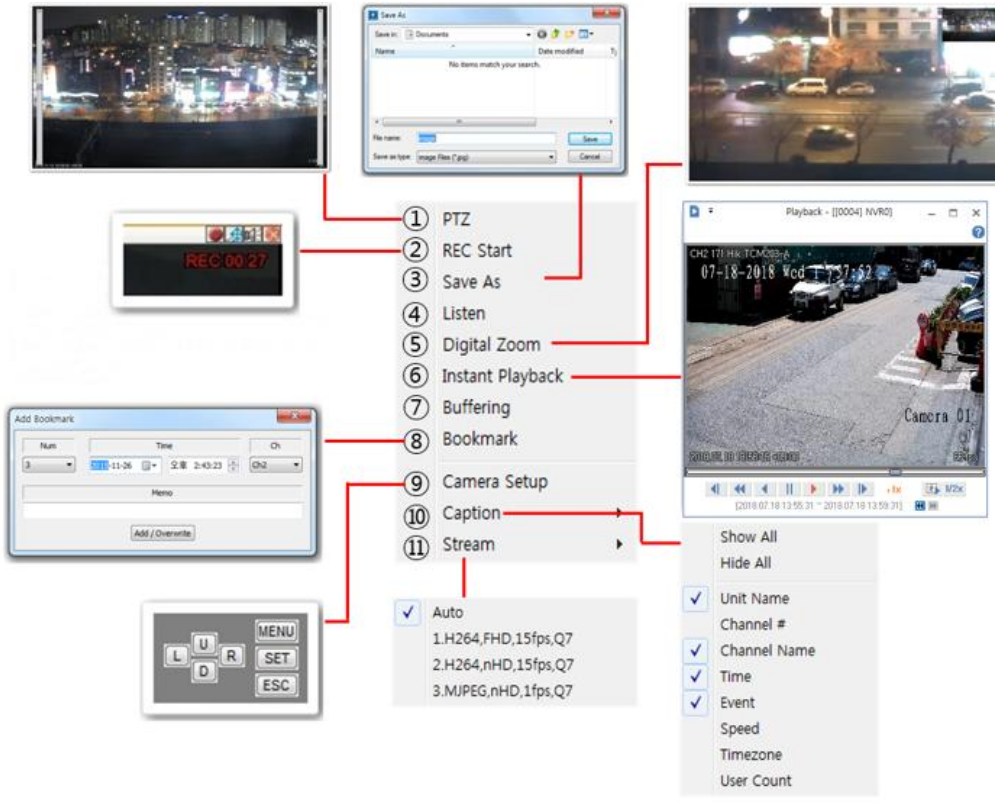
映像をドラッグして任意の位置にドロップすると映像位置を移動でき、別のモニターの映像位置へも自由に移動できます。



上図のように ① を ② の位置へドラッグすると、① と ② の映像位置が入れ替わります。

映像ウィンドウのポップアップメニュー

映像上で右クリックするとポップアップメニューが表示され、映像に対する主要機能をすばやく使用できます。この機能は該当チャンネルにのみ適用されます。



項目		説明
1	PTZ	マウスで PTZ を制御できる PTZ 制御モードに入ります。
2	録画開始	リアルタイム映像を RE4 形式で録画し、C:\CCQuickRecording フォルダーに保存します
3	画像保存	リアルタイム映像を JPEG、BMP 形式で保存できます。
4	音声を聞く	音声出力のオン/オフ
5	デジタルズーム	デジタルズームを使用するには「設定」>「表示」>「DirectX Draw 使用」をチェックし、画面モードをシングルチャンネルモードにする必要があります。マウス操作で映像をズームできます。全体映像はミニマップに表示され、ミニマップ領域をクリックしてズーム領域を移動できます。
6	インスタント再生	インスタントプレーヤーウィンドウが開き、「インスタントプレーヤーオプション」の設定に従って選択チャンネルの映像を再生できます。
7	バッファリング	ネットワークが遅く監視映像が不自然な場合、バッファリングにより映像を自然に表示できます。
8	ブックマーク	時刻・チャンネル・メニューでブックマークを保存します(ブックマーク機能対応の DVR でのみ有効)。
9	カメラ設定	カメラメニューを設定するコントロールメニューを表示します。
10	キャプション	映像上に表示するキャプション項目を設定します。映像が再接続されると、キャプション設定は既定値に戻ります。
11	ストリーム	映像のストリームを変更します。映像が再接続されると、映像ウィンドウのサイズに応じてストリームが自動選択されます。

<注意>

1. システム性能が低い場合、伝送フレームレートが低下することがあります。その場合はポップアップメニューのキャプションのチェックを外すと、伝送フレームレートが改善されます。

PTZ 制御

通常 PTZ モード PTZ 対応チャンネルを選択し、右クリックしてポップアップメニューから「PTZ」を選択します。十字マークが表示されている間、マウスクリックでパン・チルトを制御できます。中心から左右方向をクリックするとパン、上下方向をクリックするとチルトを制御します。中心から離れた位置をクリックするほどパン/チルトが速くなります。



ズームインモード 通常 PTZ モードで右クリックし、ポップアップメニューから「ズームインモード」を選択します。カメラがズームインモードに対応していない場合、「ズームインモード」メニューは表示されません。「ズームインモード」を選択すると中央に点線の枠が表示されます。ズームインして見たい映像領域をマウスでクリック&ドラッグするとズーム動作が行われます。Shift キーを押している間は一時的に通常 PTZ モードに切り替わります。制御モードを変更するには、ポップアップメニューで「通常 PTZ モード」を選択します。

ズーム・フォーカス制御 マウスカーソルを表示ウィンドウの左端または右端に移動すると、ズーム・フォーカスの制御バーが表示されます。 Z – ズームイン/ズームアウト制御 F – フォーカス制御 Z0 - 最大ズームアウト状態へ即時移動

プリセット移動 プリセットリストを選択すると、カメラの画角が選択したプリセット位置に移動します。

プリセット設定 Set – 選択したプリセットリスト
にプリセットを保存します。 Clear – 選択したプ
リセットリストを消去します。

補助機能 プリセットが設定されると、ポップアップメニューに「補助機能」メニューが表示されます。適切な動作を選択すると、その動作が実行されます。

音声聴取

映像チャンネルに音声が関連付けられている場合、ポップアップメニューの「聞く」が有効になります。「聞く」を選択すると音声を聞くことができます。複数チャンネルの音声をミックスして聞くこともできます。

シーケンススイッチャー

「シーケンススイッチャー」アイコンをクリックするとシーケンススイッチャー機能をオン/オフできます。また「シーケンスモニターとして使用」をチェックすると、現在のモニターをシーケンスモニターとして使用します。シーケンススイッチャーがオンの場合、サイトツリーの全登録ユニットを設定した間隔で順番に監視します。この機能はビューセットモードとマップモードでも使用できます。

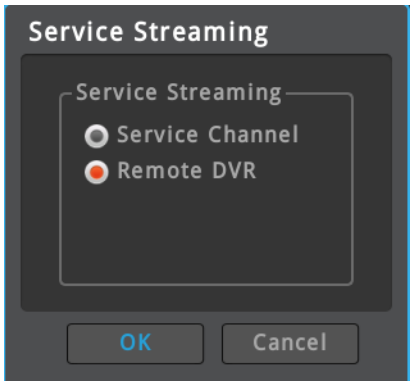
映像ポップアップ

各モニターでアラームが発生したチャンネルの映像をポップアップ表示できます。サイト/ビューセット/マップモードのいずれでも、該当モードで登録されたチャンネルでイベントが発生するとポップアップが表示されます。

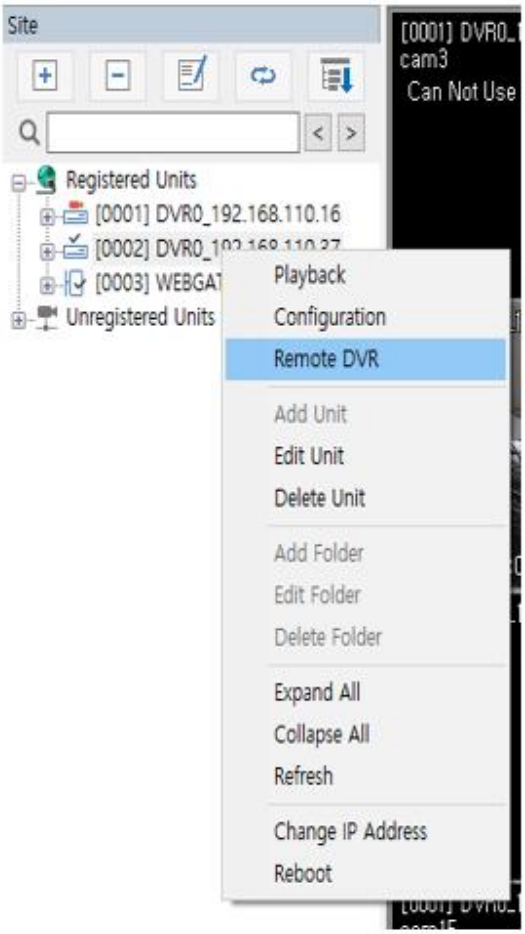
1) シーケンススイッチャーモードで使用するモニターの [映像ポップアップ On/Off] を選択します。選択しない場合、そのモニターはイベントポップアップオプションで動作しません。(使用中のモニターが合計 2 台の場合に、イベントポップアップモニターとしての使用が有効になります)
2) [映像ポップアップ On/Off] アイコンをクリックすると映像ポップアップが開始され、イベントが発生したチャンネルが表示されます。イベントポップアップオプションのイベントリストにあるイベントが発生すると、「表示時間」の間、映像ポップアップが動作します。
3) 映像ポップアップ動作中に他のチャンネルでアラームが発生すると、そのチャンネルが画面に追加され既存の映像と一緒に表示されます。表示時間は最後のアラーム時刻に合わせられます。

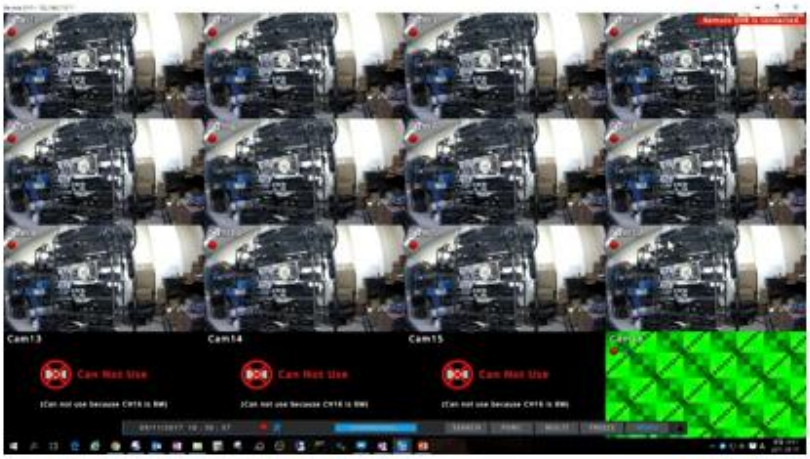
リモート DVR

PC のリモートデスクトップと同様に、リモート DVR 機能を使用して遠隔地から DVR を制御できます。Control Center SW が必要です。PC(Control Center)上で DVR のメインモニター出力を確認し、マウス操作できます。リモート DVR 機能を使用するには以下の手順に従ってください。



1. [メニュー – ネットワーク – サービスストリーミング] で「Remote DVR」を選択します。
2. Control Center に DVR を登録します。
3. 登録ユニットを右クリックし、[リモート DVR] メニューを選択します。
4. リモート DVR のポップアップウィンドウが表示され、DVR のメインモニター出力を確認して DVR を操作できます。





<注意>

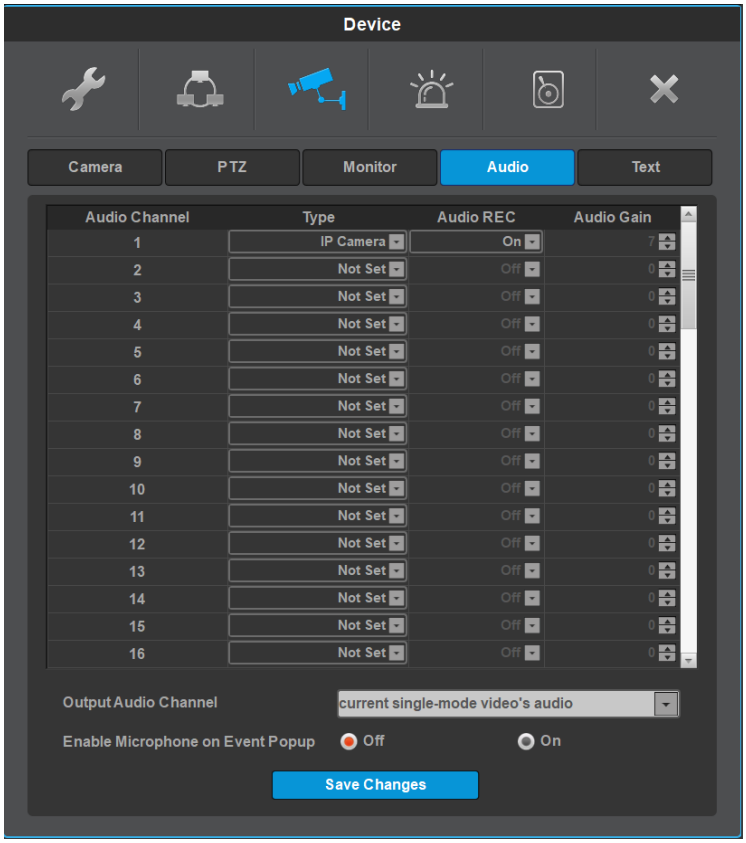
1. 「リモート DVR」を使用するには Control Center 6.6 以降を使用してください。
2. DVR が「リモート DVR」に対応している必要があります。
3. DVR のサービスストリーミングを「Remote DVR」に設定する必要があります。

非常ベル

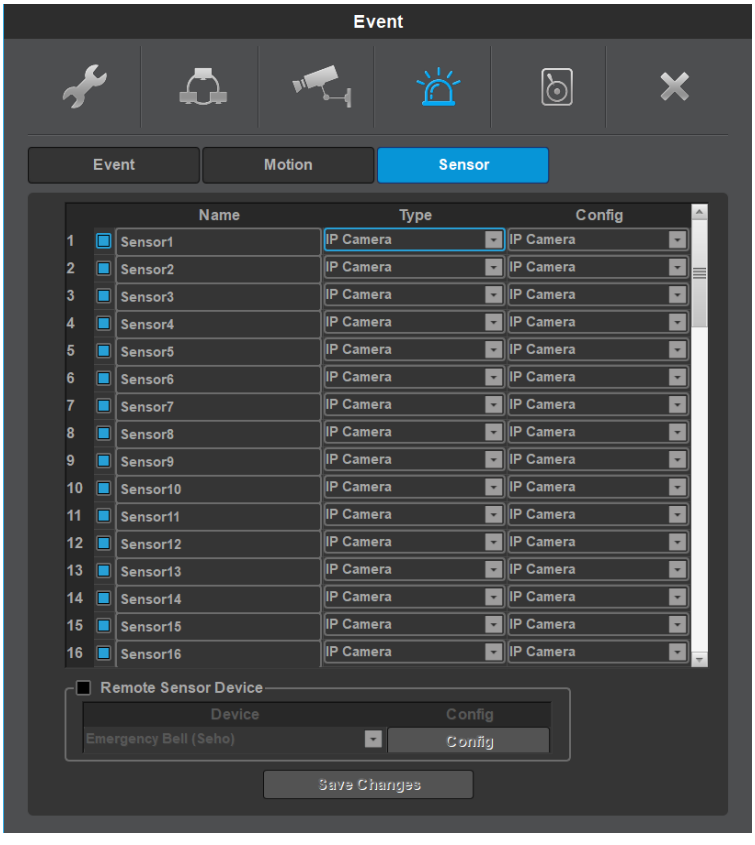
非常ベルカメラのマイクから入力された音声は Control Center のスピーカーに出力され、Control Center のマイクから入力された音声は非常ベルカメラのスピーカーに出力されます。

DVR 設定

1. 非常ベルカメラ 登録チャンネルの音声を IP カメラに変更します。

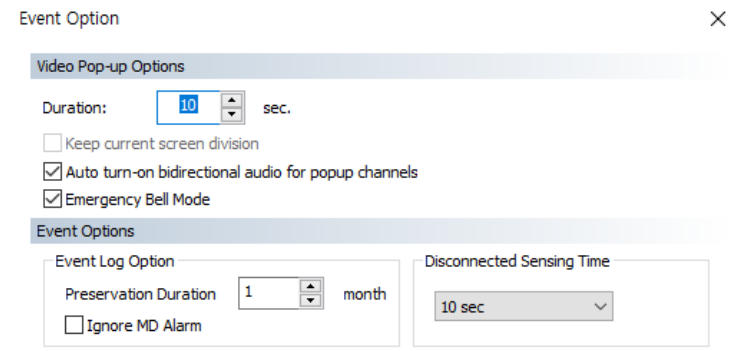


2. 非常ベルカメラ 登録チャンネルのセンサーを IP カメラに変更します。

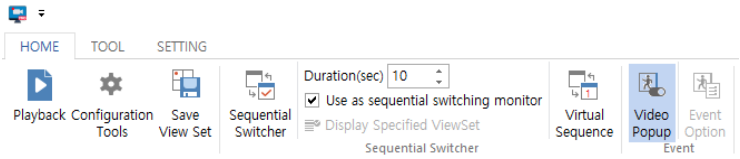


Control Center 設定
1. イベントオプションで非常ベルを設定

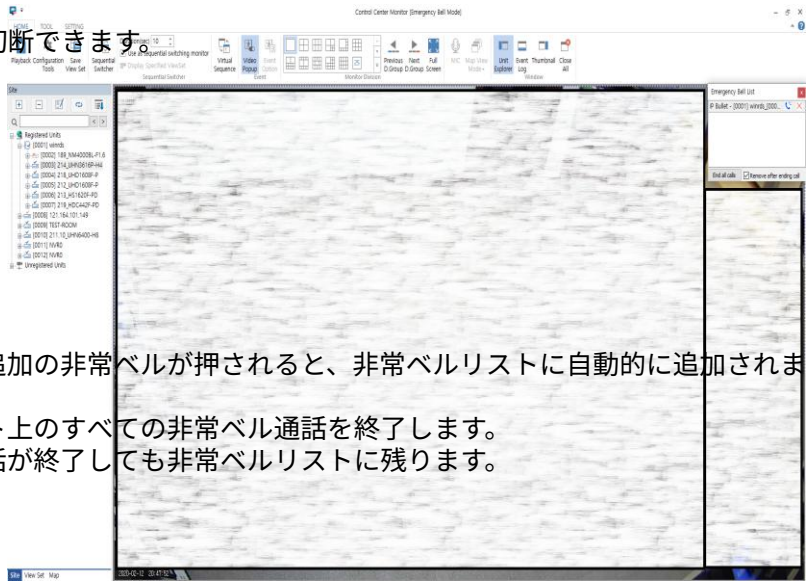
ポップアップチャンネルの双方向音声を自動でオン	ON
非常ベルモード	ON



2. 映像ポップアップを有効化



<参考>
1. 非常ベル機能を使用するには、PC にマイクとスピーカーを接続する必要があります。
2. 非常ベルカメラは「SC-ECS30CW」モデルに対応しています。 非常ベルの動作
1. 非常ベルカメラの非常ベルボタンを押すと、非常ベルカメラが登録されたチャンネルがポップアップし、非常ベルリストを確認できます。
2. 非常ベルリストのアイコンで音声を接続/切断できます。



<参考>
1. 非常ベルがポップアップしている状態で追加の非常ベルが押されると、非常ベルリストに自動的に追加されます。
2. 「すべての通話を終了」で非常ベルリスト上のすべての非常ベル通話を終了します。
3. 通話終了後の削除機能がオフの場合、通話が終了しても非常ベルリストに残ります。

双方向音声 通話中

魚眼カメラ

魚眼カメラはレンズの特性上、実際の映像を円形で表現するため、多くの映像情報を持っています。円形の映像をまっすぐに補正する画像補正機能をデワーピングと呼びます。

魚眼カメラの原画像 魚眼カメラの原画像とデワーピング画像の表示方法を選択できます。既定は魚眼カメラの円形の原画像です。

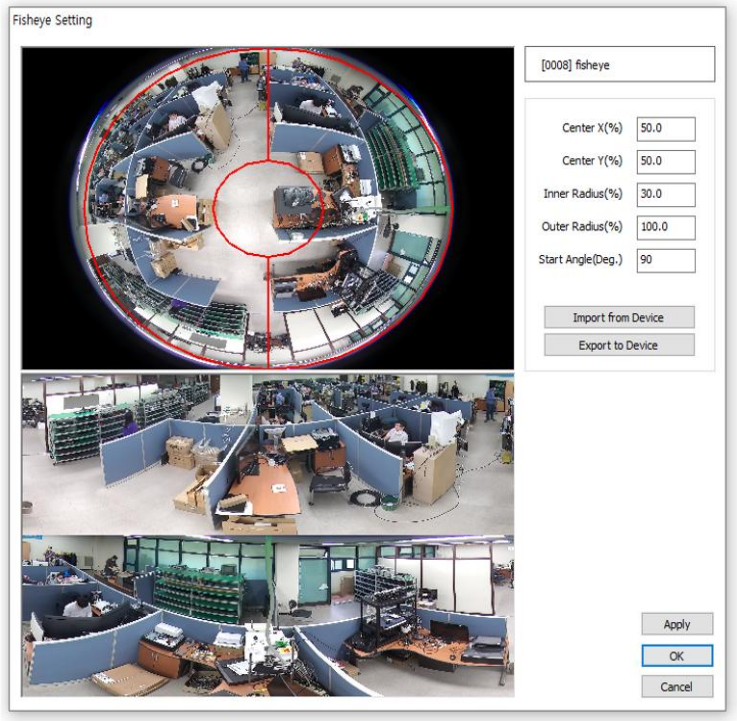


デワーピング 魚眼カメラの映像をデワーピングすると、一般的な長方形の映像を得られます。

■ 設定:魚眼チャンネル > 右クリック > Fisheye > Dewarp



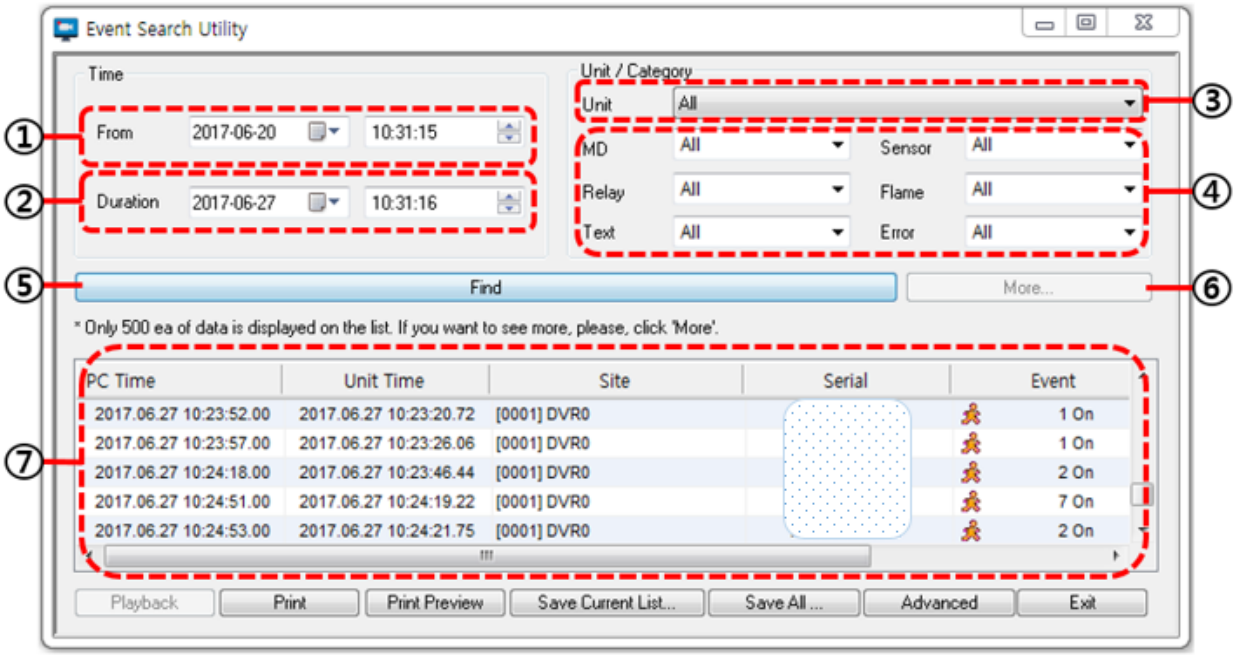
魚眼設定 ■ Center X:X 軸座標を設定します。 ■ Center Y:Y 軸座標を設定します。 ■ Inner Radius:内側の円のサイズを設定します。 ■ Outer Radius:外側の円のサイズを設定します。 ■ Start Angle:デワーピングの開始角度を設定します。 ■ Import from device:NVR のデワーピング設定を Control Center に取り込みます。 ■ Export to Device:Control Center で設定したデワーピング設定を NVR に書き出します。



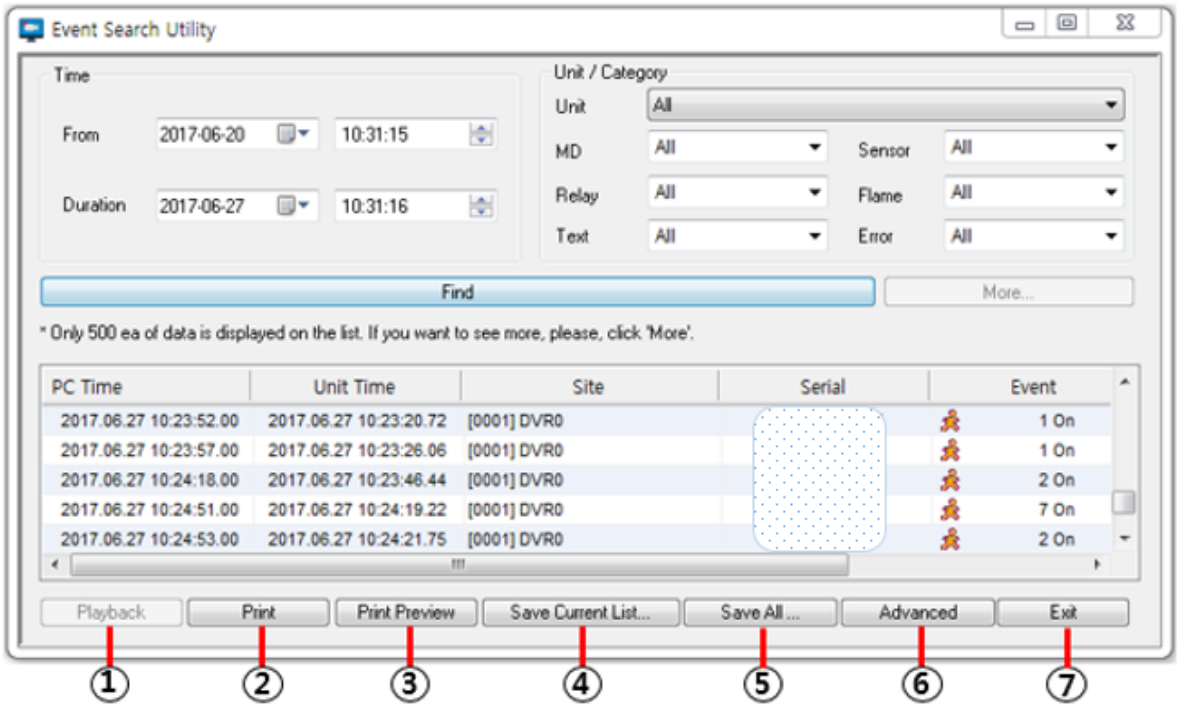
<注意>
1. Control Center Monitor でデワーピングを有効にすると、再生でもデワーピング映像が表示されます。
2. Control Center 再生でもデワープ機能のオン/オフ設定に対応しています。

イベント検索

イベント検索ユーティリティでイベントログを検索できます。特定のユニットや分類を選択して検索し、検索結果を印刷または保存できます。[イベント検索ユーティリティ] をクリックするか、ツールタブで「イベント検索ユーティリティ」を選択します。



1) 「イベント検索ユーティリティ」で ① 開始時刻、② 期間、③ ユニット、④ イベントカテゴリを選択します。
2) 検索条件をすべて設定したら ⑤ [検索] をクリックして検索を開始します。検索中は検索進行ウィンドウが表示され、検索を取り消すことができます。
3) 検索完了後、⑦ 検索結果を確認できます。検索結果は 40 件ずつ表示され、⑥ [さらに表示] をクリックすると残りの結果を確認できます。

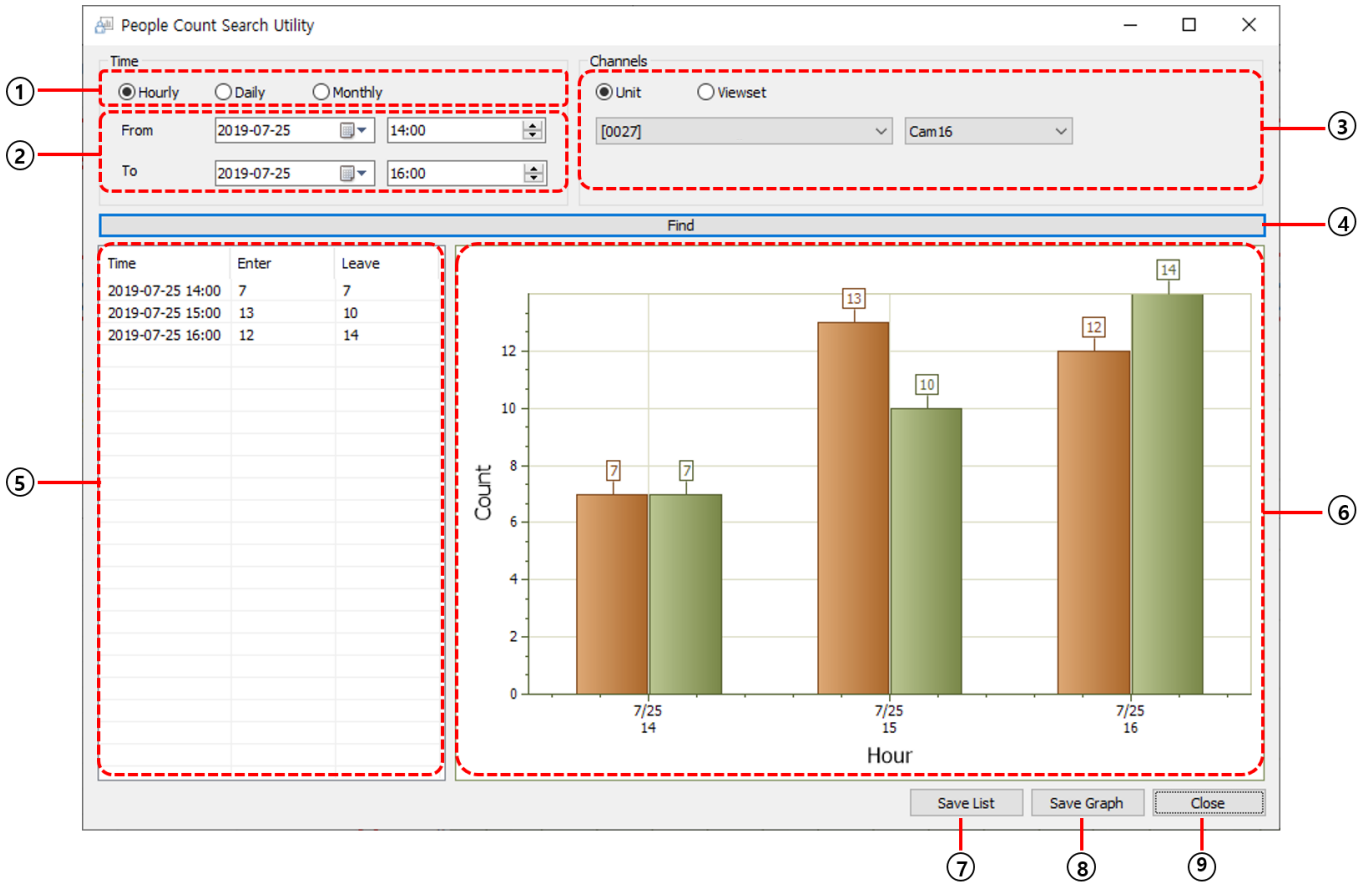


項目		説明
1	再生	選択した映像を再生します。
2	印刷	結果を印刷します。
3	印刷プレビュー	結果をプレビューします。
4	現在のリストを保存	現在の検索リスト(最大 500 件)を CSV ファイルに保存します。
5	すべて保存	すべての検索リストを CSV ファイルに保存します。
6	詳細	ログ削除(すべて/区間/MD のみ削除)と印刷設定ができます。

7	終了	イベント検索ユーティリティを終了します

人数カウント検索

Control Center では「人数カウント検索ユーティリティ」で人数カウント IP カメラチャンネルの人数カウント情報を検索できます。[人数カウント検索ユーティリティ] アイコンをクリックして実行します。特定チャンネルの人数カウント情報を時間別に検索します。チャンネルは人数カウントカメラのチャンネルである必要があります。ユニットまたはビューセット別にチャンネルを選択して検索します。結果はリストと棒グラフで表示され、リストとグラフを保存できます。



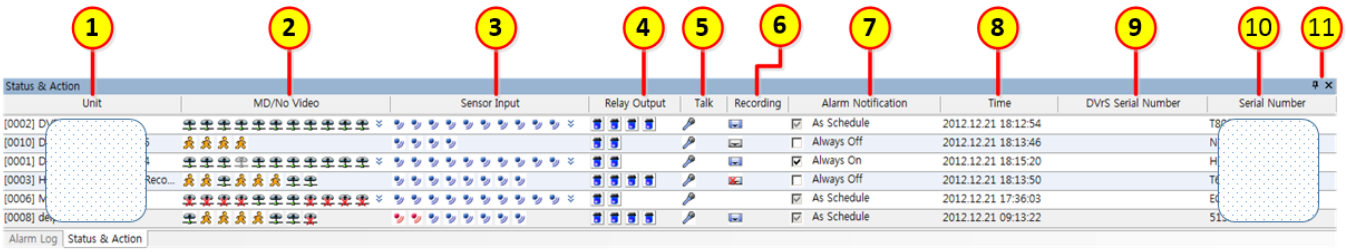
1) ① 時間別、日別、月別で人数カウント情報を表示します。
2) ② 開始時刻(from)と終了時刻(to)を設定します。また、ユニットまたはビューセットの ③ 人数カウント IP カメラチャンネルを選択し、④ [検索] をクリックします。
3) 検索結果が ⑤ リストと ⑥ 棒グラフで表示されます。
4) ⑦ [リスト保存] をクリックすると ⑤ リストを csv ファイルで保存します。⑧ [グラフ保存] をクリックすると ⑥ グラフを png ファイルで保存します。
5) ⑩ [閉じる] をクリックすると人数カウント検索ユーティリティを閉じます。

< 注意 >

1. 人数カウント検索は DVR/NVR v10.0 以降、Control Center Std v7.2 以降で使用できます。
2. 人数カウント IP カメラを含む DVR/NVR ユニットを登録してから 1 時間は、人数カウント情報が正しくない場合があります。

状態&アクション

「登録ユニット」に登録されたユニットの状態とアクションを確認できます。また、マイクとアラーム通知のスケジュールを設定できます。



項目		アイコン状態	説明
1	ユニット		ユニットリストウィンドウにユニット名を表示します。
2	MD/映像なし	(カメラ接続) (映像なし) (カメラ無効) (モーション検知)	ユニットが対応する映像チャンネルを表示します。映像チャンネルに対応するすべてのユニットとチャンネルの接続状態、モーション検知を表示します。
3	センサー入力	(センサー Off) (センサー On) (炎 Off) (炎 On) (熱 Off) (熱 On)	センサー対応ユニットとセンサーの動作状態を表示します。炎検知カメラが接続されている場合、アイコンが炎アイコンに変わります。
4	リレー出力	(リレー無効) (リレー Off) (リレー On)	リレー対応ユニットとリレーの 動作状態を表示し、アイコンをクリックしてリレーを制御できます。
5	通話	(マイク Off) (マイク On)	マイクアイコンを押すと音声出力に音声を送信できます。
6	録画	(録画なし) (エラーなし・録画中) (エラーなし・録画なし) (エラー・録画中)	ユニットの HDD 状態を表示します。
7	アラーム通知	As Schedule Always Off Always On	アラーム通知の動作状態を設定でき、設定に応じて音声アラームとモニター表示が動作します
8	時刻		現在の日付と時刻を表示します。
9	DVrS シリアル番号		DVrS/WinRDS のシリアル番号を表示します
10	シリアル番号		ユニットのシリアル番号を表示します。
11	自動非表示/閉じる		ウィンドウの自動非表示モードを設定または閉じます。

映像表示

状態&アクションリストをダブルクリックすると、ユニットの全チャンネルを監視します。ユニットのチャンネル数に応じて画面モードが自動選択されます。マップモードでは監視ウィンドウがポップアップ表示されます。

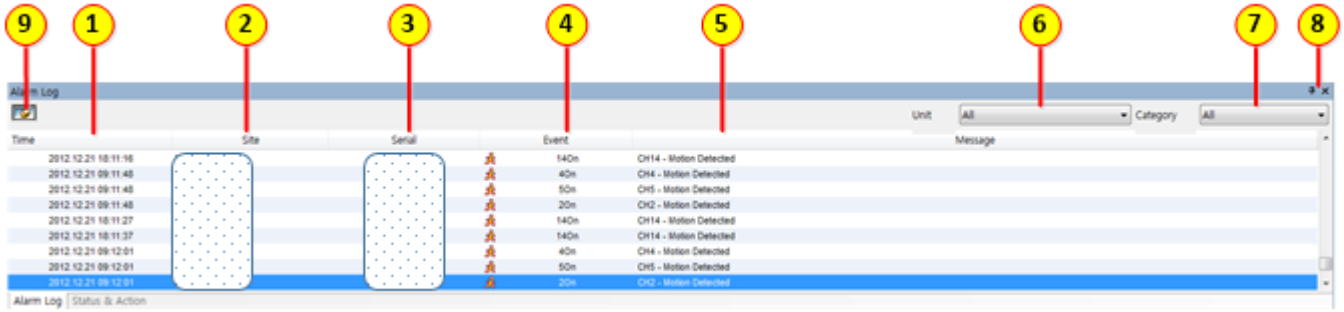
アラーム通知設定

右端の「アラーム通知」列をクリックしてアラーム通知方法を設定できます。「スケジュール適用」、

「常にオン」、「常にオフ」を選択できます。アラーム通知とスケジュールは [ツールバー > ホーム > イベントオプション > イベントオプション] で設定します

アラームログ

「登録ユニット」リストに登録されたユニットのアラームログを確認できます。リアルタイムログを表示し、ユーザーが必要な情報のみを表示するよう設定できます。



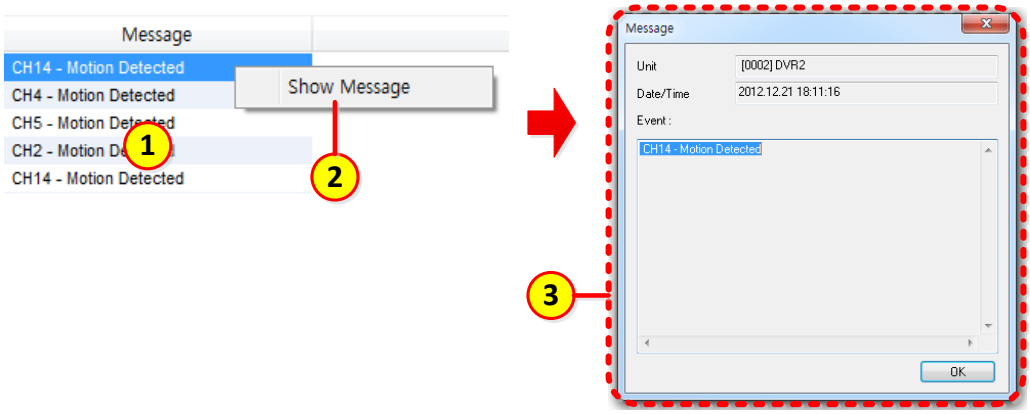
	項目	アイコン状態	説明
1	時刻		アラーム発生日時を表示します
2	サイト		アラームが発生したユニット名を表示します。
3	シリアル		アラームが発生したユニットのシリアル番号を表示します。
4	イベント	(モーション検知) (センサー Off/On) (炎 Off/On) (熱 Off/On) (リレー Off/On) (映像接続/切断) (テキスト入力) (ログイン失敗) (設定変更) (AI 検知)	アラーム発生情報のアイコンと番号を表示します。
5	メッセージ		アラーム発生情報のメッセージを表示します
6	ユニット		アラームログをユニット別に並べ替えられます。1 つのユニットのみ選択でき、「すべて」を選択すると全登録ユニットのアラームログを表示します。
7	カテゴリ		イベント、エラー、状態、テキストを選択してアラームログを表示できます。1 つのみ選択でき、「すべて」を選択すると全登録ユニットのアラームログを表示します。
8	自動非表示/閉じる		ウィンドウの自動非表示モードを設定または閉じます
9	リスト固定		更新されたアラームログリストを固定し、新しいアラーム情報が入っても固定したリストを維持します。

映像表示

リストをダブルクリックすると、イベントが発生したユニットのチャンネルを監視します。モーション検知の場合はモーションを検知したチャンネルのみを監視します。センサーやリレーの場合はユニットの全チャンネルを再生し、該当する分割チャンネルに切り替わります。選択したチャンネルがすでに監視中の場合は、そのユニットにモニターのフォーカスが移ります。マップモードの場合は監視ウィンドウがポップアップします。

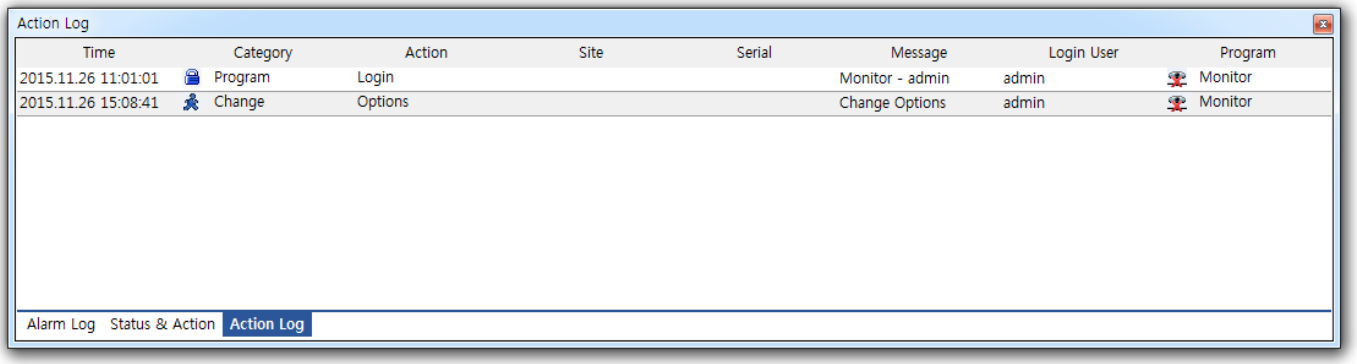
メッセージの詳細表示

メッセージが長い場合は一部のみ表示されます。メッセージ全体を確認するには「メッセージ表示」を使用します。



① リストで右クリックして ② [メッセージ表示] を選択すると、③ メッセージウィンドウが表示されます。

アクションログ

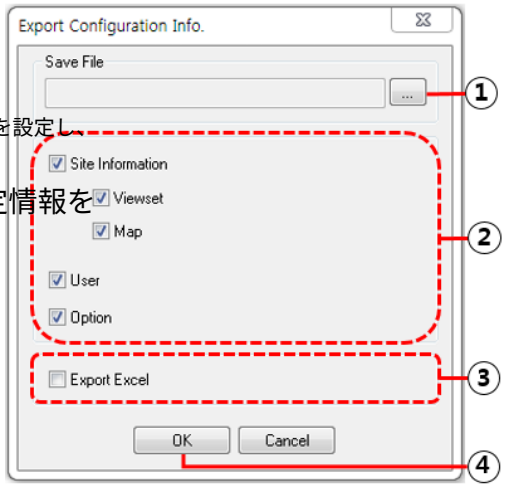


アクションログオプションでチェックした項目がアクションログに表示されます。

<注意> アクションログに記録する項目をチェックしない場合、アクションログ履歴には何も記録されません。

設定情報のエクスポート/インポート

Control Center の設定情報をエクスポート/インポートできます。



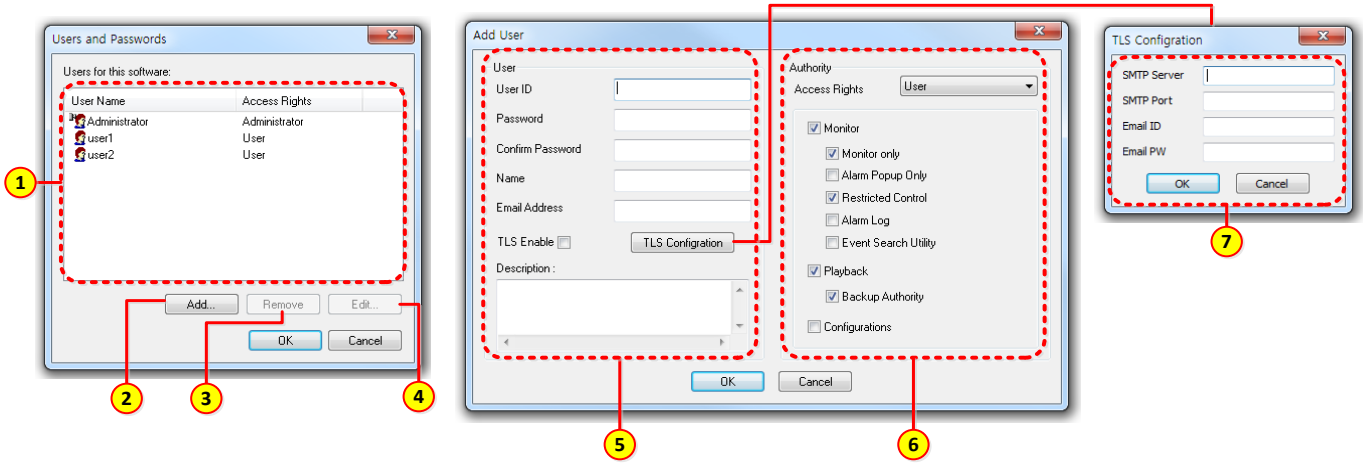
エクスポート

1) [ツールバー – ツール – エクスポート] を選択します。① 保存先パスとファイル名を設定し、② オプションを選択します。
2) ③ [Excel エクスポート] オプションをチェックすると、設定情報を CSV ファイルに保存します。
3) ④ [OK] をクリックすると zip ファイルに保存されます。

インポート [ツールバー – ツール – インポート] を選択します。ウィンドウが表示されたら保存した zip ファイルを選択して [開く] をクリックすると、プログラム再起動の確認ウィンドウが表示されます。[OK] をクリックするとインポートが完了します。

ユーザー設定

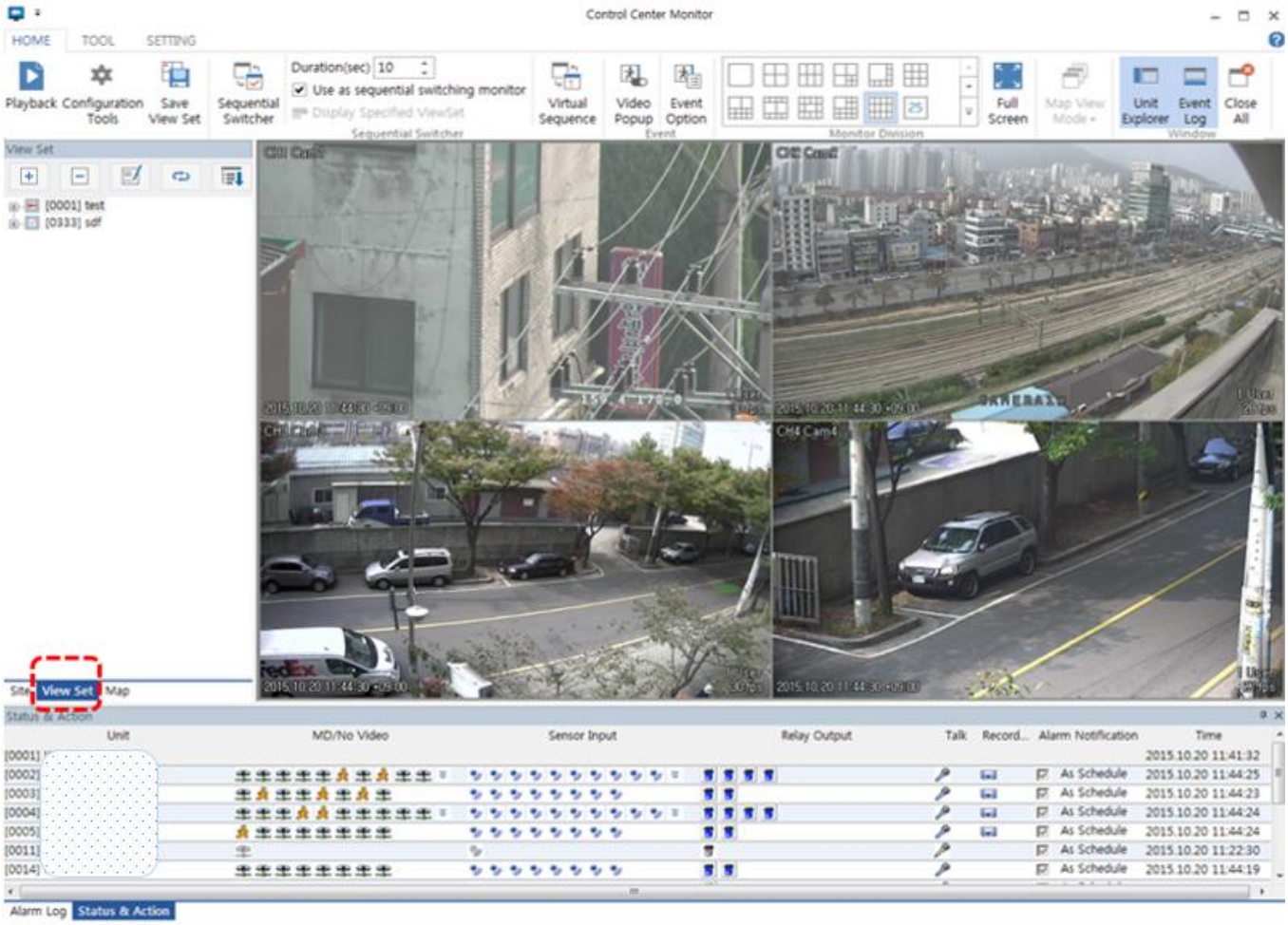
登録ユーザーは、管理者の変更や管理情報の利用にプログラムを使用できます。[ツールバー – 設定 – ユーザーアカウント] を選択すると、以下のウィンドウが表示されます。



項目			説明
1	本ソフトウェアのユーザー		プログラムに登録されたユーザーリストを表示します。既定の admin は削除できず、ユーザーアカウント情報も変更できません
2	追加		ユーザー追加ウィンドウが表示されます。ユーザー情報を入力してアカウントを追加します。最大 100 アカウントまで登録できます。
3	削除		ユーザーリストを選択し、ボタンをクリックしてユーザーを削除します。
4	編集		ユーザーリストを選択してボタンをクリックすると編集ウィンドウが表示されます。ユーザー情報を編集して保存すると更新されます
5	ユーザー		ユーザーのアカウント情報を設定します。ユーザー ID、パスワード、パスワード確認の入力が必要で、入力しないとアカウントを登録できません。
6	権限	アクセス権限	ユーザーまたは管理者を選択できます。管理者を選択すると、すべての権限を持つ管理者アカウントとして登録されます
		モニター	Control Center モニタープログラムを実行できます。
		モニターのみ	レイアウトを変更できず、管理者のサイト/ビューセット/マップリストを使用します
		アラームポップアップのみ	アラームポップアップ機能のみ使用できます。
		制限付き制御	管理者と同じユニット情報を使用できます。
		アラームログ	アラームログウィンドウにアラームログ情報を表示します。
		イベント検索ユーティリティ	イベント検索ユーティリティを実行できます
		再生	Control Center 再生プログラムを実行できます。
		バックアップ権限	録画データをバックアップできます。
		設定	Control Center 設定ツールプログラムを実行できます。
7	TLS 設定		TLS セキュリティサーバーおよびアカウントセキュリティサーバー情報

ビューセットモード

下図の「ビューセットタブ」をクリックするとビューセットモードに切り替わります。登録ユニットの任意のチャンネルをビューセットグループに追加して管理できます。また、ビューセットグループ単位で監視・再生できます。

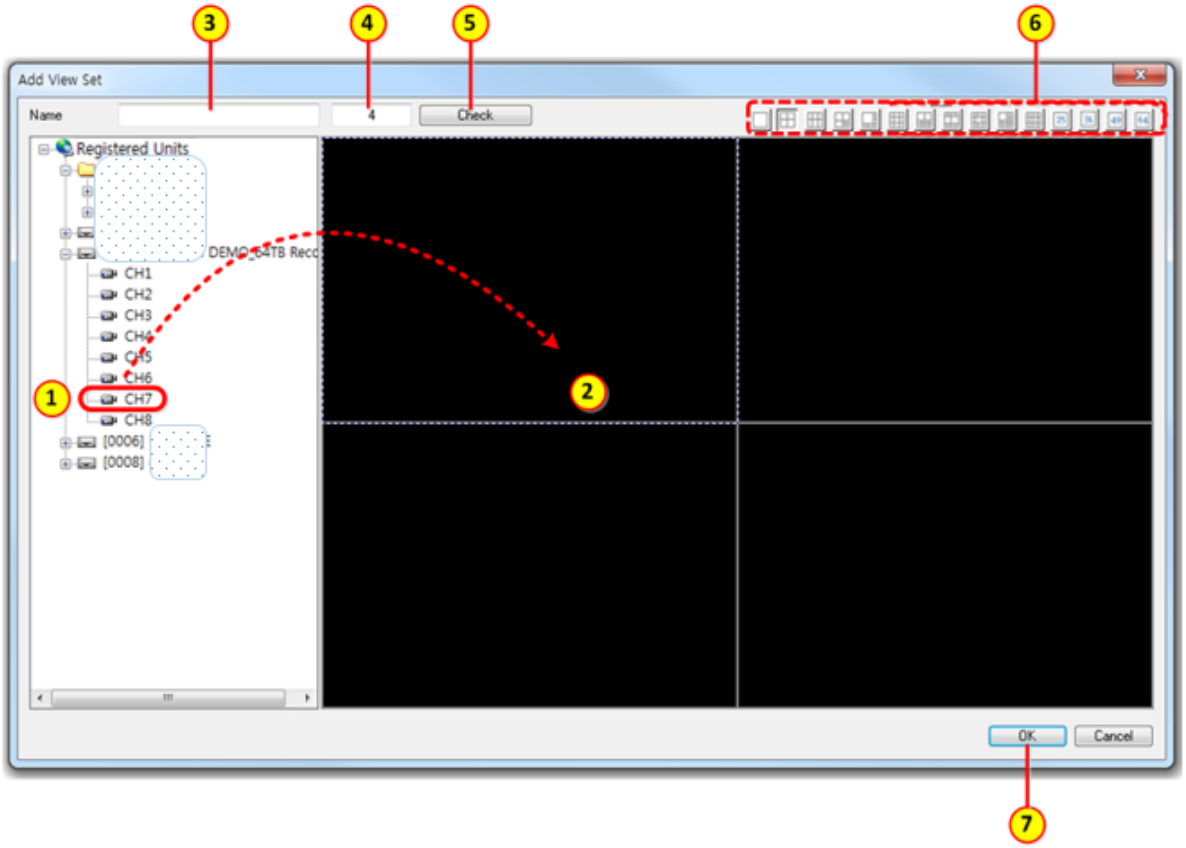


ビューセット登録

ビューセットモードで [追加] アイコンをクリックするか、右クリックして [ビューセット追加] を選択するとビューセットを登録できます。

サイトモードでのビューセット登録 サイトモードで「モニター分割」を選択し、目的のチャンネルをクリックします。アイコンをクリックするとビューセットとして登録されます。

ビューセットモードでの登録 ビューセットモードでアイコンをクリックするか、右クリックのポップアップメニューで [ビューセット追加] をクリックします。



1) 「ビューセット追加」ウィンドウで ⑥ アイコンをクリックしてモニター分割モードを決定します。映像ウィンドウ(②)をクリックし、映像ウィンドウに表示するカメラ(①)を選択します。① カメラを ② ウィンドウへドラッグ&ドロップすることもできます。
2) カメラ登録後、③ にビューセット名を入力し、⑤ [確認] をクリックして ③ の名前と ④ の番号が使用可能か確認します。
3) ⑦ [OK] をクリックするとビューセットリストウィンドウに保存されます。登録を取り消すには [キャンセル] をクリックします。

ビューセット編集

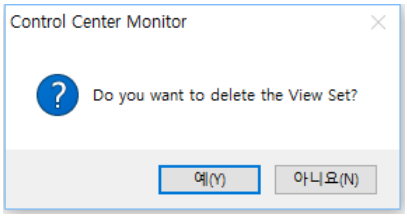
ビューセットリストを選択し、アイコンをクリックするか右クリックのポップアップメニューで [ビューセット編集] を選択すると、ビューセットを編集できます。



「ビューセット編集」ウィンドウでは、ビューセット名、モニター分割モード、各位置への映像チャンネルの割り当てを変更できます。編集操作はビューセット登録と同じです。

ビューセット削除

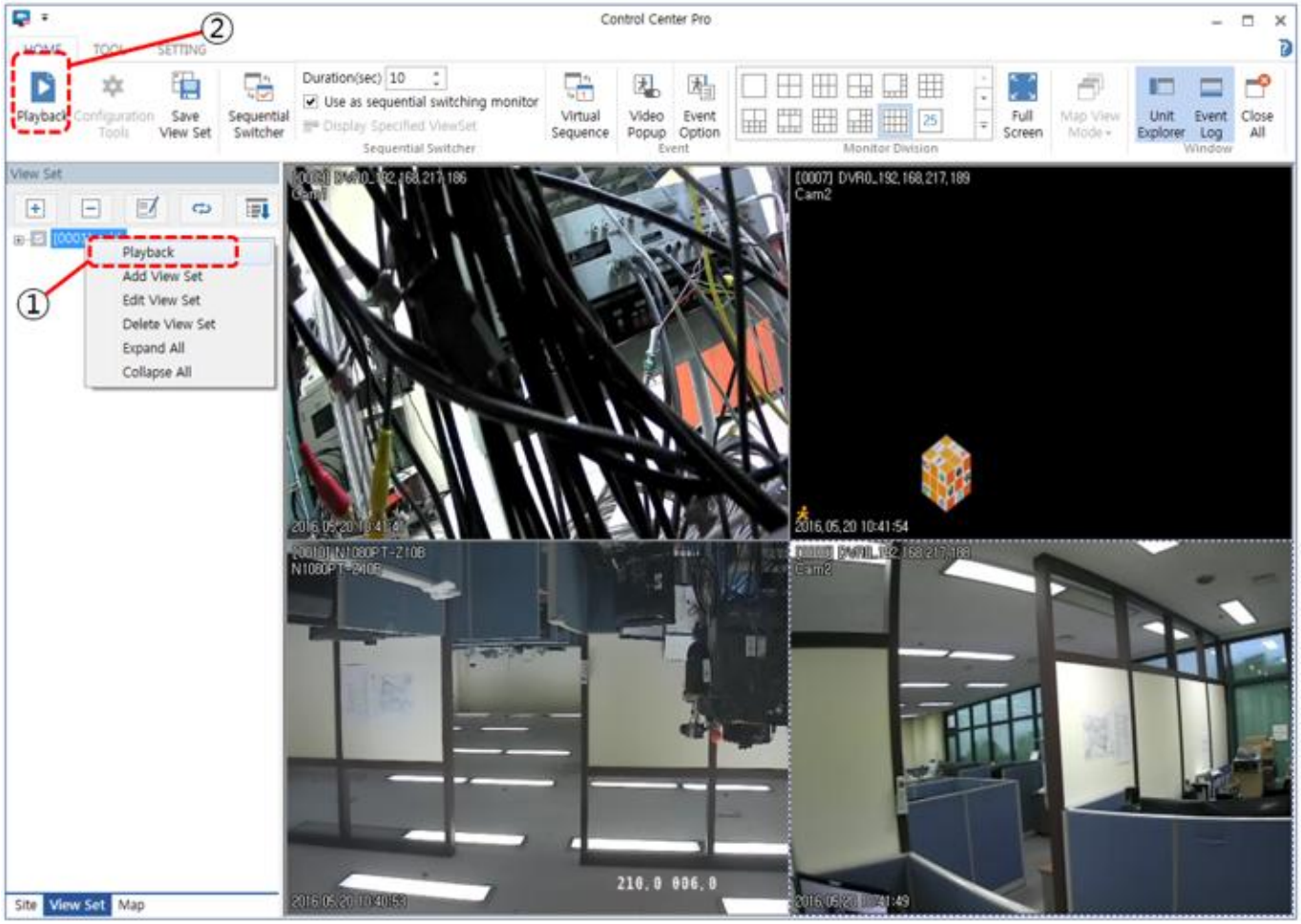
削除するビューセットリストを選択し、[削除] アイコンをクリックするか右クリックで [ビューセット削除] を選択すると、ビューセットを削除できます。



ビューセット削除の確認ウィンドウで [はい] をクリックするとリストからビューセットを削除し、[いいえ] をクリックすると削除を取り消します。

ビューセット再生

1 つのビューセットにさまざまな DVR のチャンネルを登録できます。ビューセット再生ではビューセット上のチャンネルを再生・検索できるため、複数 DVR のチャンネルを一度に再生・検索できます。利便性を大きく高める強力な機能です。

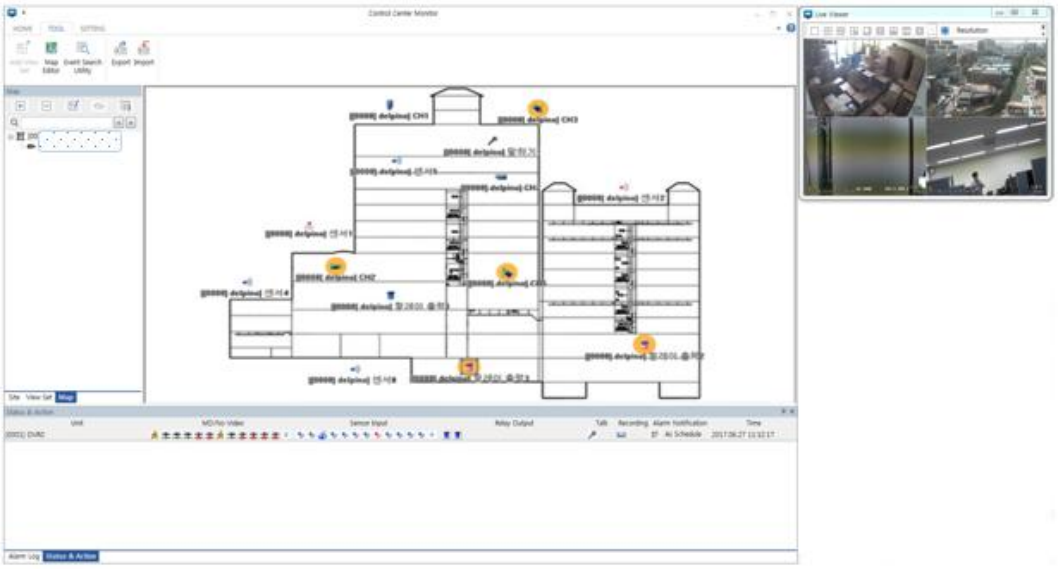


ビューセット再生を行うには、① ビューセットリストで右クリックして「再生」を選択するか、ビューセットリストを選択して ② 「再生」アイコンをクリックします。

<注意>
1. ビューセット上のチャンネルが録画されていない場合(DVR チャンネルおよび/または IP カメラチャンネル)、そのチャンネルは再生できません。
2. ビューセット再生の場合、Control Center は再生前に各チャンネルの映像をダウンロードする「プリロード」を実行します。
3. ビューセット再生は 17 チャンネル以上に対応していません。ビューセットのチャンネル数を 16 以下にしてください。
4. DVR の接続ユーザー数が最大許可数を超えた場合、その DVR に含まれるチャンネルは再生できません。

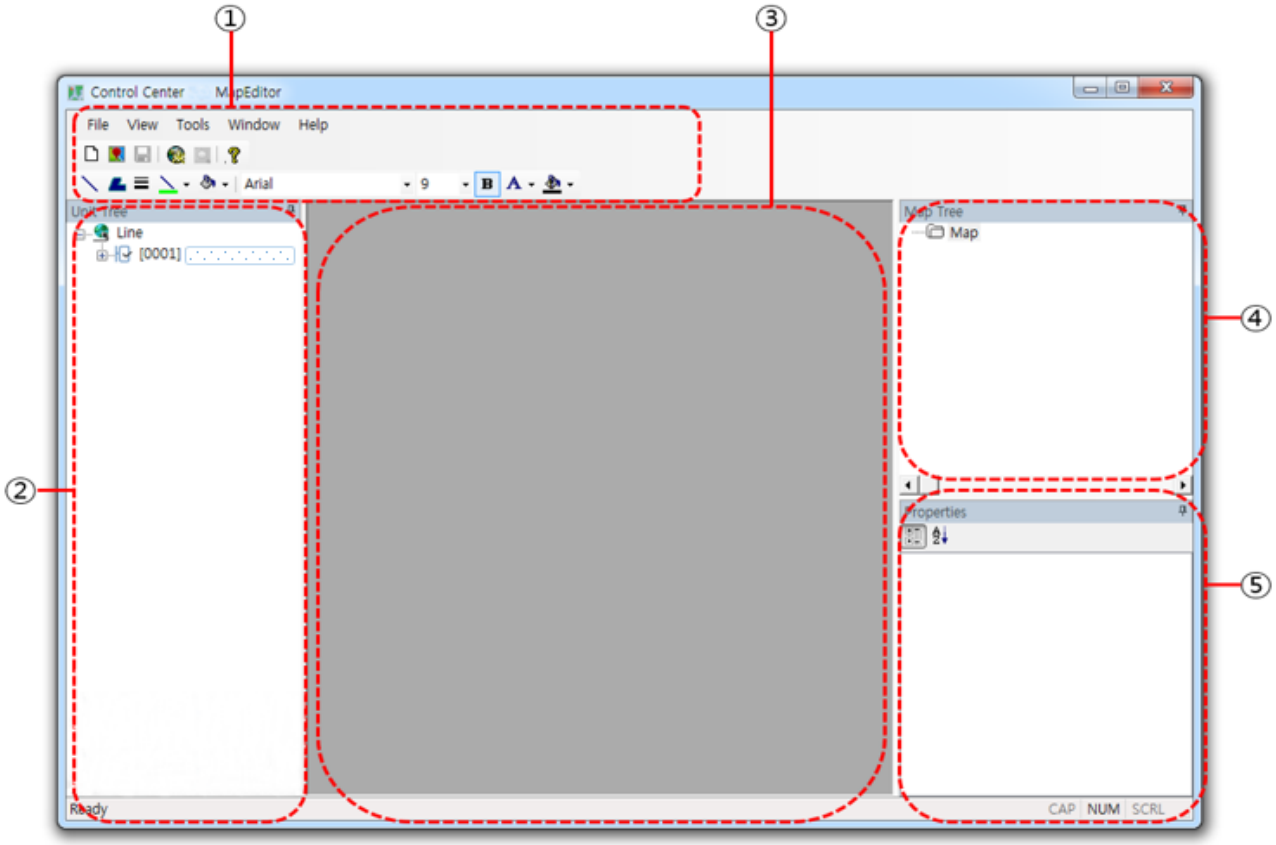
マップモード

ユニットリストウィンドウ下部の「MAP」タブをクリックするとマップモードに切り替わります。マップモードでは、カメラ、音声出力、リレー出力、センサー、マイクをマップ上に登録・制御でき、小さなマップを登録して階層型に拡張できるので便利です。動作状態やイベントの発生はマップ上に表示されるため、管理者は登録ユニットの状態をリアルタイムで確認できます。



マップエディター

マップモードでツールバーの ツール > [マップエディター] を選択すると、「マップエディター」でマップの追加・編集・削除ができます。



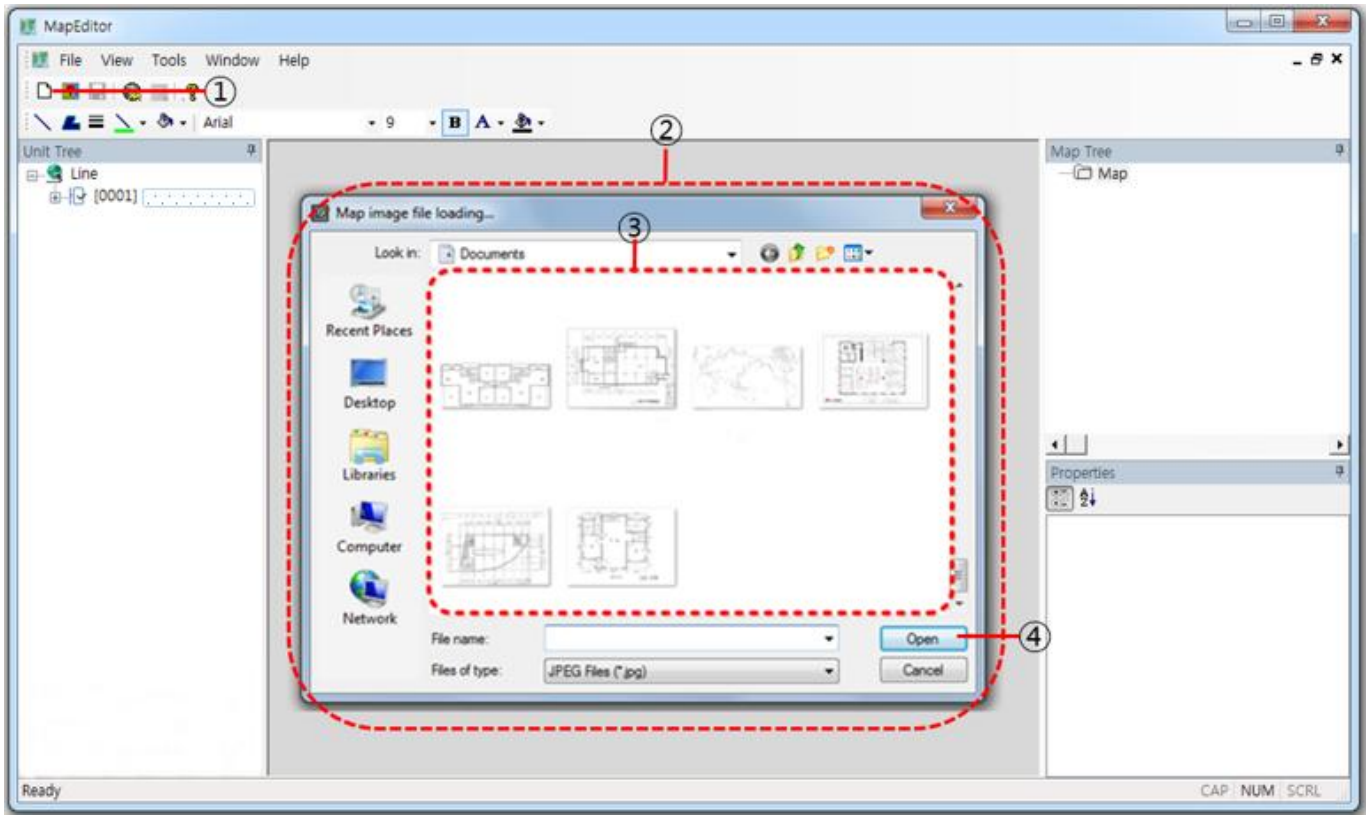
項目		説明
1	メニュー/ツールバー	プログラムのメニューと機能ボタンを表示し、クリックして使用できます
2	ユニットリストウィンドウ	登録ユニットに登録されたすべての設置機器を表示し、アイコンをドラッグしてマップに追加できます。
3	マップウィンドウ	マップリストウィンドウで選択したマップまたは新規マップを表示します。
4	マップツリーウィンドウ	登録済みマップリストを表示します
5	プロパティウィンドウ	登録済みマップの登録情報を表示し、編集できます。

マップ追加

マップモードで [追加] アイコンをクリックするか、右クリックメニューで [マップ追加] を選択するとマップエディターが起動します。マップエディターで新しいマップを追加できます。

マップエディターで新規マップを追加

新規マップを追加するには、PC に保存したマップファイルを開きます。マップ上にカメラ、センサー、リレー、マイクを配置して登録してください。



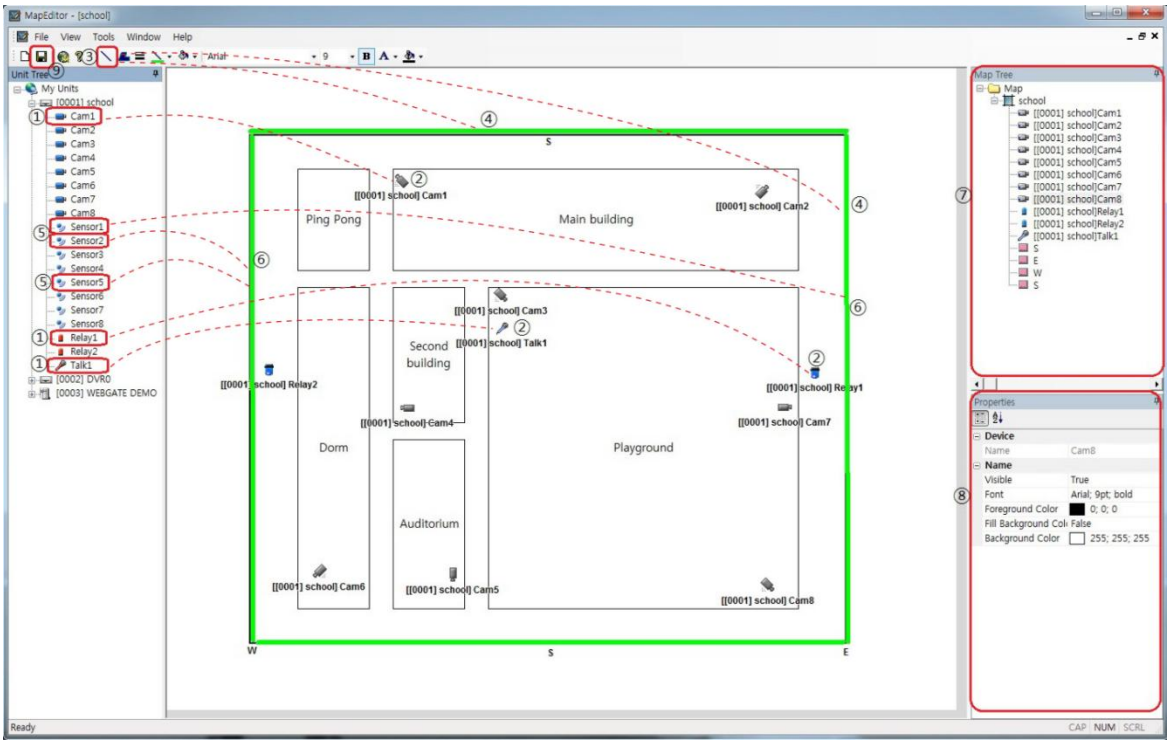
1) マップエディターで ① アイコンをクリックすると「マップ画像ファイル読み込み」ウィンドウが表示されます。マップのあるパスを選択し、③ マップファイルを選択して ④ [開く] ボタンをクリックすると、使用するマップがマップウィンドウに表示されます。

新規 GIS マップの追加

GIS マップを追加するには GIS サーバーに接続してマップファイルを読み込み、マップ上にカメラ、センサー、リレー、マイクなどを配置して登録します。

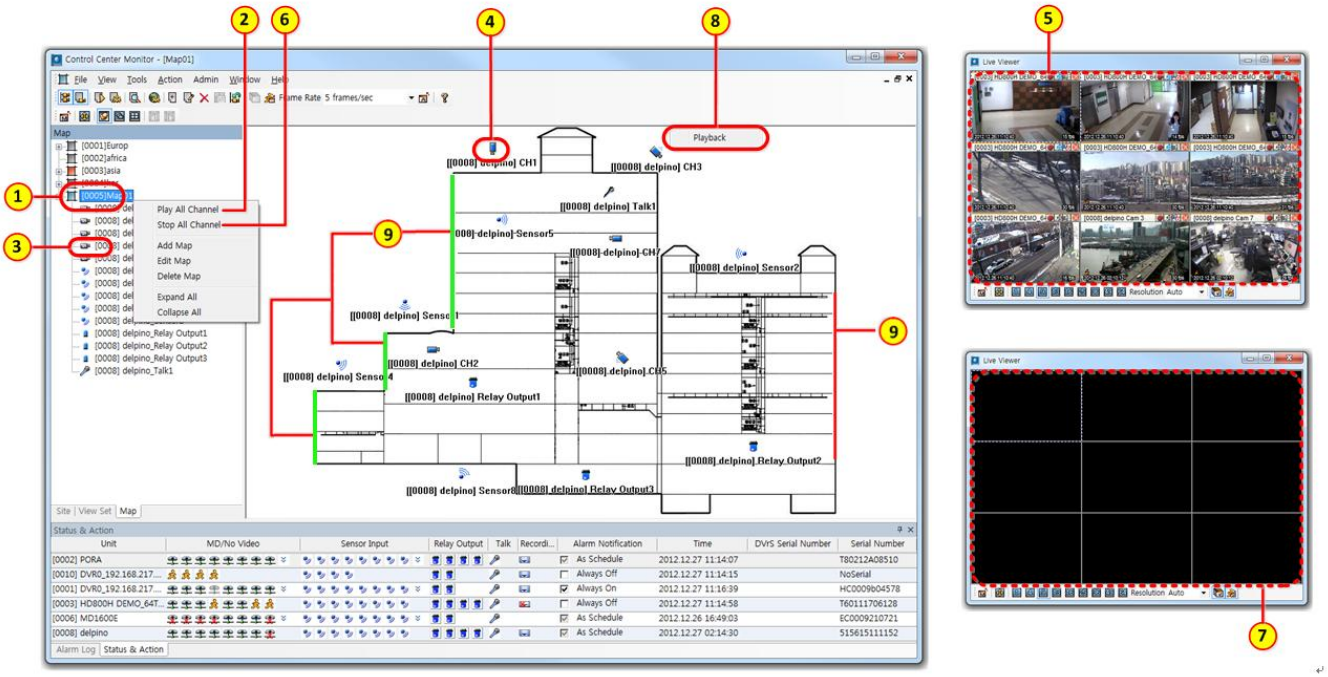
<注意> GIS マップは韓国の地図のみ
に対応しています。

新規マップへのデバイス追加



① アイコン(カメラ、リレー、マイク)をマップウィンドウにドラッグ&ドロップします。
② カメラ、リレー、マイクが登録されます。
③ ツールバーのゾーンアイコンをクリックします。
④ マップウィンドウにゾーン(緑の四角形)を追加します。
⑤ センサーアイコンをゾーン(緑の四角形)内にドラッグ&ドロップします。
⑥ センサーが追加されます。同じ方法で複数のセンサーを追加できます。
⑦ 登録したデバイスが「マップツリー」に表示されます。
⑧ ゾーン名と色、イベント発生時の色、背景色などを変更できます。
⑨ すべてのデバイスを登録したら [保存] アイコンをクリックしてマップを保存します。

マップ映像の表示



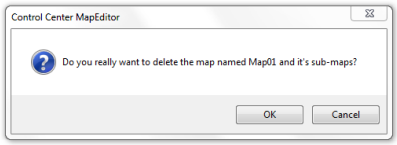
① マップを選択します。
② マップ上で右クリックし、[全チャンネル再生] を選択します。
⑤ 全チャンネルの映像がライブビューアに表示されます。
③~④ マップ上のカメラまたはカメラアイコンをクリックすると、そのカメラの映像を表示できます。
⑥ マップ上で右クリックし、[全チャンネル停止] を選択します。
⑦ ライブビューアのすべての映像が切断されます。
⑧ カメラアイコンを選択し、右クリックで [検索] を実行すると、Control Center 再生が起動し、選択したユニットに自動接続して録画映像を再生します。
⑨ センサーが動作すると、ゾーンの色が緑から赤に変わります。

マップエディター

マップリストウィンドウのポップアップで [マップエディター] を選択するか [エディター] アイコンをクリックすると「マップエディター」が起動します。編集方法はマップ追加と同じです。

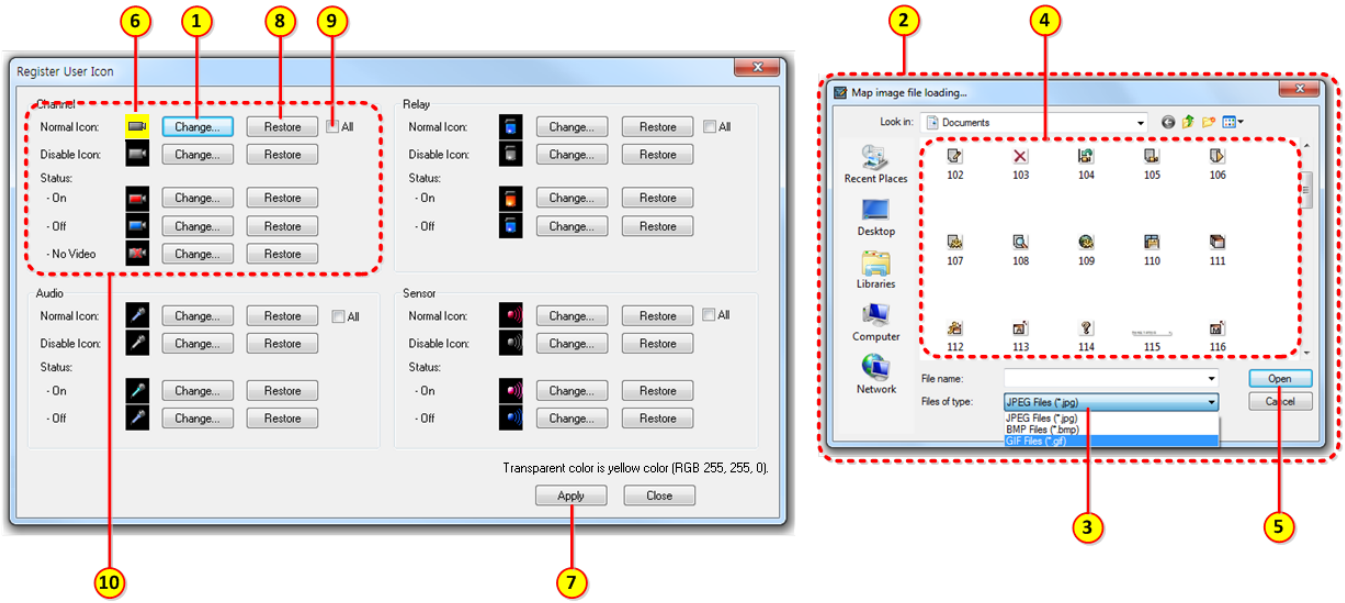
マップ削除

マップを削除するにはマップエディターを実行します。マップエディターのマップリストで右クリックしてポップアップメニューの [削除] をクリックします。



マップ削除の確認ウィンドウで [はい] をクリックするとリストからマップを削除し、[いいえ] をクリックすると削除を取り消します。

ユーザーアイコン登録 マップに登録する設置アイコンを任意のアイコンに登録して使用できます。
メニューツールバーの [ユーザーアイコン登録] を選択すると、「ユーザーアイコン登録」ウィンドウが表示されます。



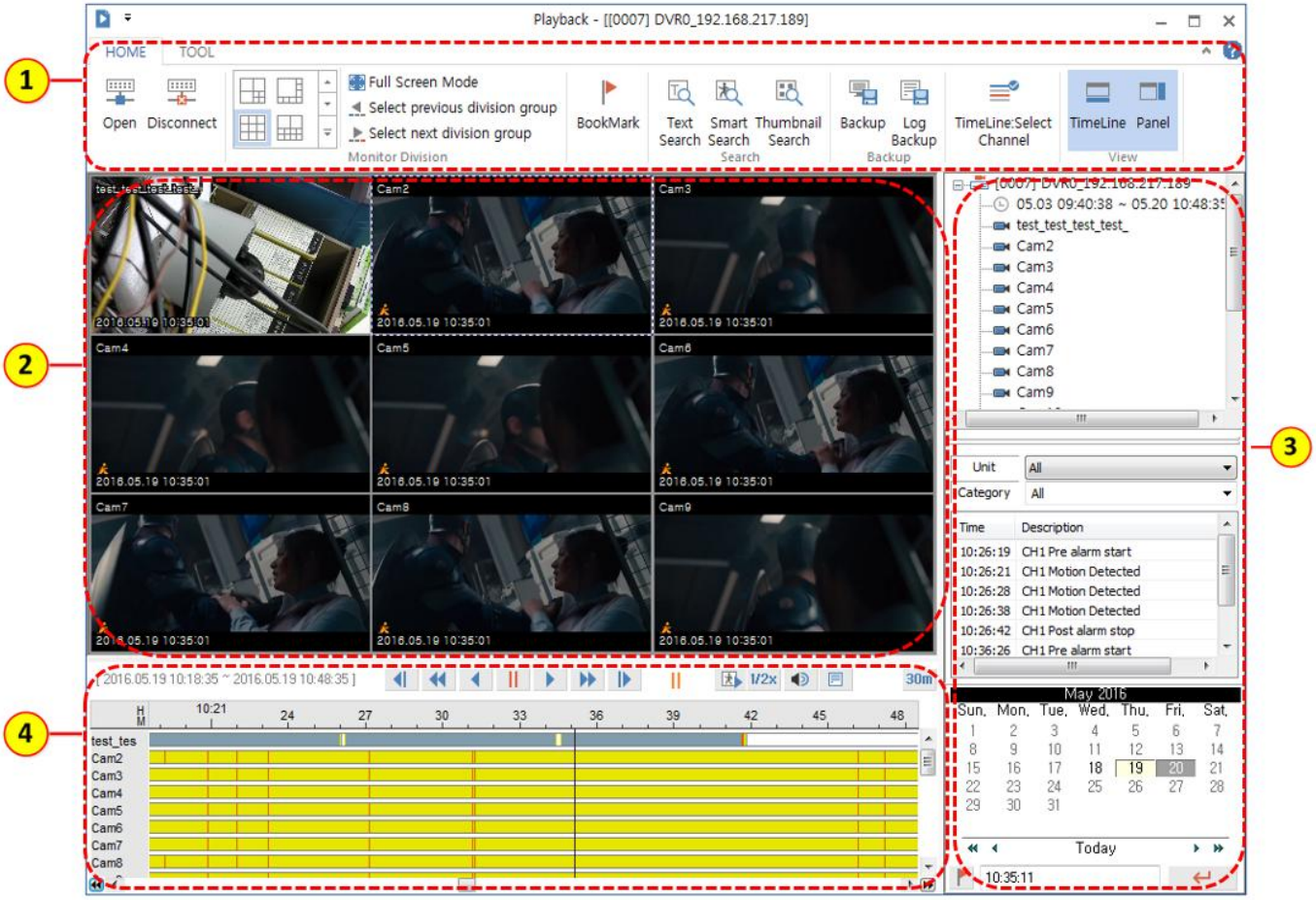
1) ユーザーアイコン登録で ① [変更] ボタンをクリックすると ② 「マップ画像ファイル読み込み」ウィンドウが表示されます。
③ ファイルの種類を選択します
2) 指定した種類のファイルから ④ ファイルを選択し、⑤ [開く] ボタンをクリックすると ⑥ アイコンが新しいものに設定されます。⑦ 下の [適用] ボタンをクリックすると該当項目に適用されます。
3) ⑧ [元に戻す] ボタンをクリックすると既定のアイコンに戻り、⑨ [すべて] を選択すると ⑩ グループ内のすべてのアイコンが新しいものに設定されます。

<注意> アイコンに黄色(RGB 255.255.0)を割り当てると、その部分は透明として扱われます。例えば、カメラアイコンをグレー、背景を黄色(RGB 255.255.0)にすると、カメラアイコンが透明な背景上に表示されます。

再生ビューア

画面構成と機能名

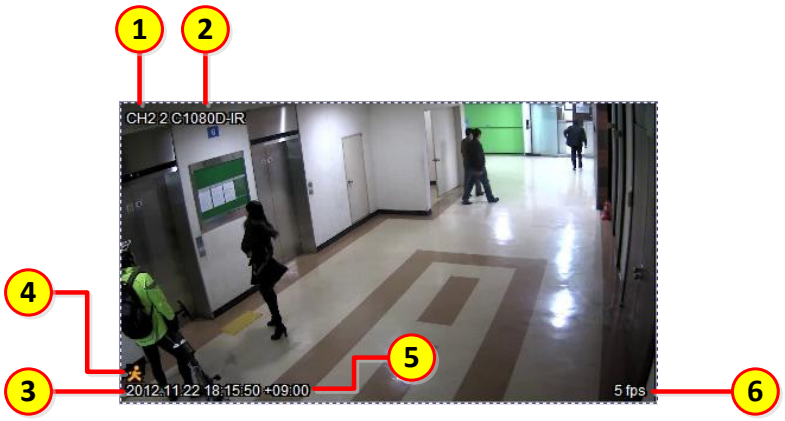
画面構成



項目		説明
1	メニュー/ツールバー	メニューと機能ボタンを表示します。
2	映像ウィンドウ	再生映像を表示します
3	ログビューア	読み込んだタイムライン区間に関するログを表示します。
	ディスク情報	ディスク使用情報と全録画区間を表示します
	チャンネル選択	再生するチャンネルを選択します
	ブックマーク(P)	DVR に保存されたブックマーク(チャンネル、時刻、メモ)を表示します
	カレンダー/時刻検索	カレンダーから日付を選択してデータを検索します。
4	再生コントロールボタン	ボタンで再生機能を操作します。
	タイムライン	ユニットの保存情報と検索タイムラインを表示します。

映像ウィンドウの表示情報

キャプション設定で再生映像の表示情報を設定します



項目		説明
1	チャンネル番号	チャンネル番号を表示します
2	チャンネル名	チャンネル名を表示します
3	時刻	ユニットの時刻を表示します
4	イベント	チャンネルのイベント情報を表示します
5	タイムゾーン	タイムゾーンの設定値を表示します
6	速度	チャンネルの映像再生フレーム情報を表示します

アイコン機能

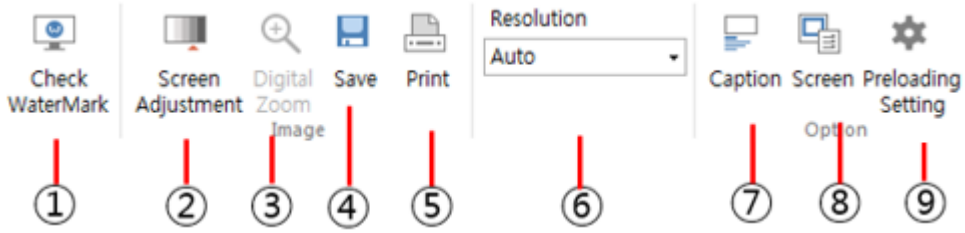
ツールバー – ホーム



項目		説明
1	開く	サイトに接続するか、保存したファイルを開きます。
2	切断	接続を終了します。
3	分割	さまざまな表示分割モードから 1 つを選択します。最大 144 チャンネルの映像の同時検索・再生に対応します。多分割には現在選択中のチャンネルが含まれます。
4	フルスクリーン	ツールバーなしで表示領域をモニター全体に表示します。
5	前の分割グループを選択 次の分割グループを選択	多分割モードで前または次の分割グループに移動します。例えば、現在選択中のチャンネルが ch6 で 4 分割モードの場合、ch5~ch8 が表示されます。「前の分割グループ」をクリックすると ch1~ch4、「次の分割グループ」をクリックすると ch9~ch12 が表示されます。
6	ブックマーク	DVR に保存されたブックマーク(チャンネル、時刻、メモ)を表示します
7	テキスト検索	検索期間内またはチャンネル別にテキストを検索します。
8	スマート検索	モーションを検出する関心領域を設定し、関心領域でモーションが検知された映像を検索できます。
9	サムネイル検索	特定チャンネルの間隔と期間を設定した後、

		サムネイル画像を使用して映像を検索できます。
10	バックアップ	登録ユニットに接続して映像をバックアップします。
11	ログバックアップ	登録ユニットに接続してイベントログをバックアップします。
12	タイムライン:チャンネル選択	このアイコンが ON の場合、再生チャンネルとして選択されていないチャンネルは ログおよびタイムラインウィンドウに表示されません。OFF の場合、再生チャンネルとして選択されていないすべてのチャンネルもログおよびタイムラインウィンドウに表示されます。
13	タイムライン	タイムラインの表示/非表示
14	パネル	チャンネル選択、ログ、カレンダーウィンドウの表示/非表示

ツールバー - ツール



項目		説明
1	ウォーターマーク確認	ウォーターマークを確認し、原画像と比較して改ざんを検出します。
2	画面調整	画面の明るさ、コントラスト、デインターレースを調整します。
3	デジタルズーム	デジタルズームを使用するには「設定」>「表示」>「DirectX Draw 使用」をチェックし、画面モードを シングルチャンネルモードにする必要があります。マウス操作で映像をズームできます。全体映像はミニマップに表示され、ミニマップ領域をクリックしてズーム領域を移動できます。
4	保存	現在の映像を JPEG または BMP ファイルで保存します。キャプション、名前、日時、イベント情報を選択して画像ファイルに含めることができます。
5	印刷	現在の映像を印刷します。基本的に、ユーザーが入力したキャプションメモ、チャンネル名、保存日時、イベント情報が一緒に印刷されます。
6	解像度	映像の解像度を選択できます。通常は高画質の元解像度を、ネットワークが遅い環境では 低画質の解像度を選択できます。この機能は 2 つ以上の解像度に対応するモデルでのみ使用できます。
7	キャプション	- キャプション:チャンネル番号、チャンネル名、時刻、イベント、タイムゾーン、伝送速度、炎/熱検知ハイライト、テキスト入力、ハードウェアデコードの表示/非表示を選択できます。 - すべて選択:すべてのキャプションを選択します。 - すべて解除:すべてのキャプションの選択を解除します。 - フォント色:フォントの色を変更できます。
8	画面	- チャンネル数に応じて分割画面モードを自動調整:チャンネルを選択するたびに、最大 16 チャンネルまで分割画面モードを自動調整します。 - 色空間:YUV と RGB に対応しています。 - ビューアモード:映像のアスペクト比(フルまたは元の比率)を選択します。
9	プリロード設定	- ドライブ:プリロードデータを保存する HDD を設定します。再生中は無効です。この設定を有効にするには ホーム > 切断 を実行してください。 - ファイルパス:プリロードデータのファイルパス - ディスク残量:ディスク残量を設定します。例えば 10GB に設定すると、ディスク残量が 10GB になるまでプリロードデータが HDD に保存されます。

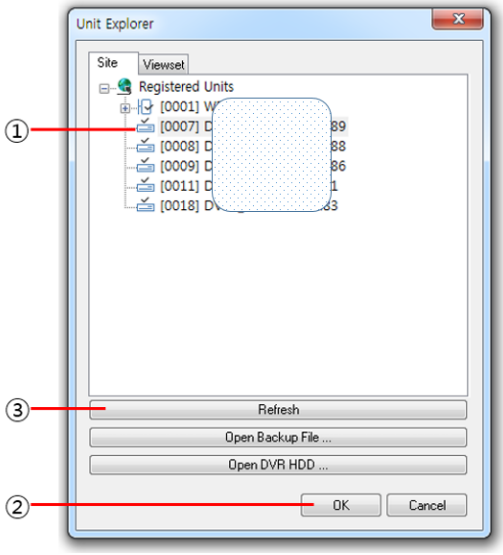
ユニット接続とファイルを開く

検索再生ビューアでは、登録ユニットにアクセスして録画映像を再生できます。また、バックアップファイルや、PC に直接接続した DVR HDD の録画映像を開くこともできます。「ユニットエクスプローラー」を実行するには、[ツールバー – ホーム – 開く] またはツールバーのアイコンをクリックします。

ユニット接続

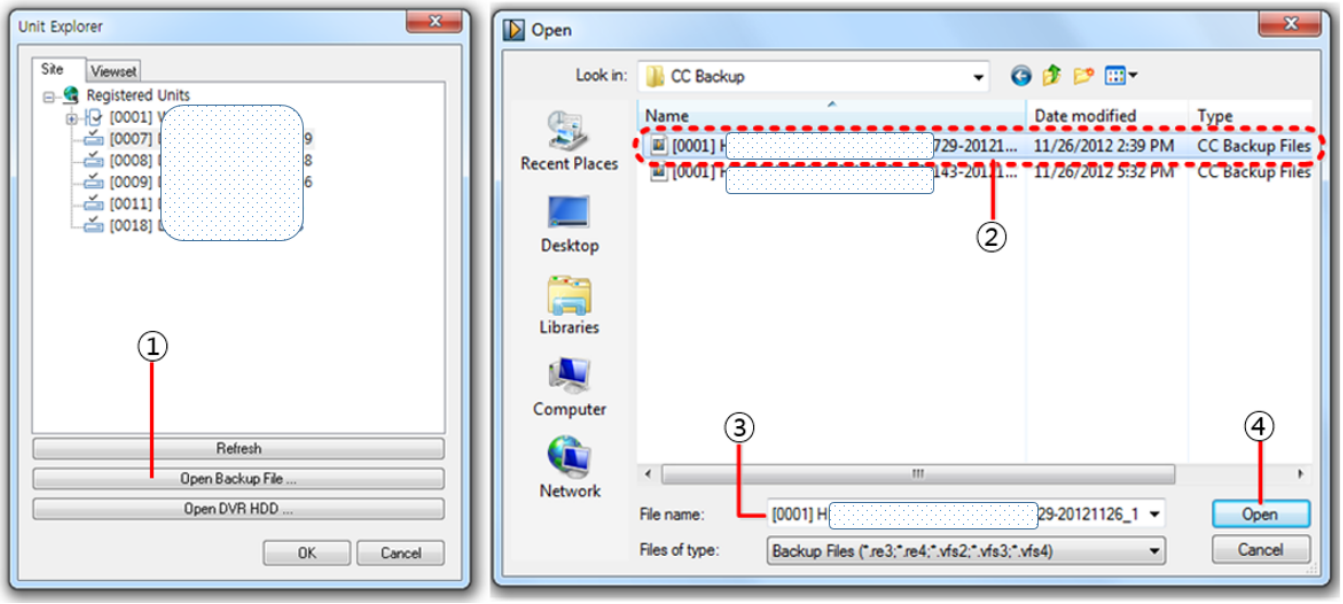
「登録ユニット」に登録されたユニットにアクセスして再生できます。

1) ① ユニットを選択して ② [OK] をクリックするか、「登録ユニット」の ① ユニットをダブルクリックします。保存された録画情報とログ情報が表示され、そのユニットの録画映像を再生できます。
2) ③ [更新] ボタンをクリックするとユニットリストを更新します。



ファイルを開く

バックアップファイルを開いて録画映像を再生できます。対応するバックアップファイルは「re3、RE4/EXE、vsf2、vsf3、vsf4」で、その他の形式には対応していません。ユニットに直接接続した場合と同じ情報をすべて確認できます。



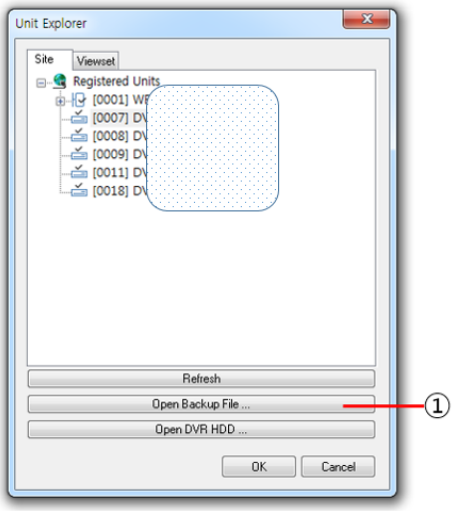
1) ユニットエクスプローラーで ① [バックアップファイルを開く] をクリックすると検索ウィンドウが表示されます。選択したフォルダーで ② ファイルを選択すると ③ ファイル名が表示されます。
2) ④ [開く] ボタンをクリックすると録画情報とログ情報が表示され、バックアップファイルを再生できます。また、バックアップファイルを再生ウィンドウにドラッグ&ドロップしても再生できます。

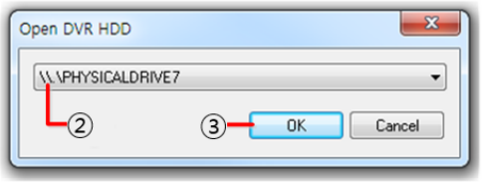
DVR HDD を開く

DVR HDD を PC に直接接続して、DVR HDD の録画映像を再生できます。DVR に直接接続した場合と同様に、録画データの再生や DVR ログの確認ができます。

1) ユニットエクスプローラーで ① [DVR HDD を開く] をクリックすると DVR HDD を選択できます。
2) DVR HDD リストで ② HDD を選択し ③ [OK] ボタンをクリックすると、録画情報とログ情報が表示されます。

<注意> DVR HDD を開くには、Control Center 再生を管理者権限で実行する必要があります。





<注意>

1. DVR HDD を開く機能は、H.264 SD DVR v2.14.10 以降およびすべての HD DVR で使用できます。MPEG SD DVR には対応していません。
2. DVR HDD のパーティションをフォーマット・編集したり、初期化したりしないでください。DVR HDD 接続後、検索再生ビューアプログラムを実行して「DVR HDD を開く」を選択します。
3. RAID に設定された HDD は開けません。

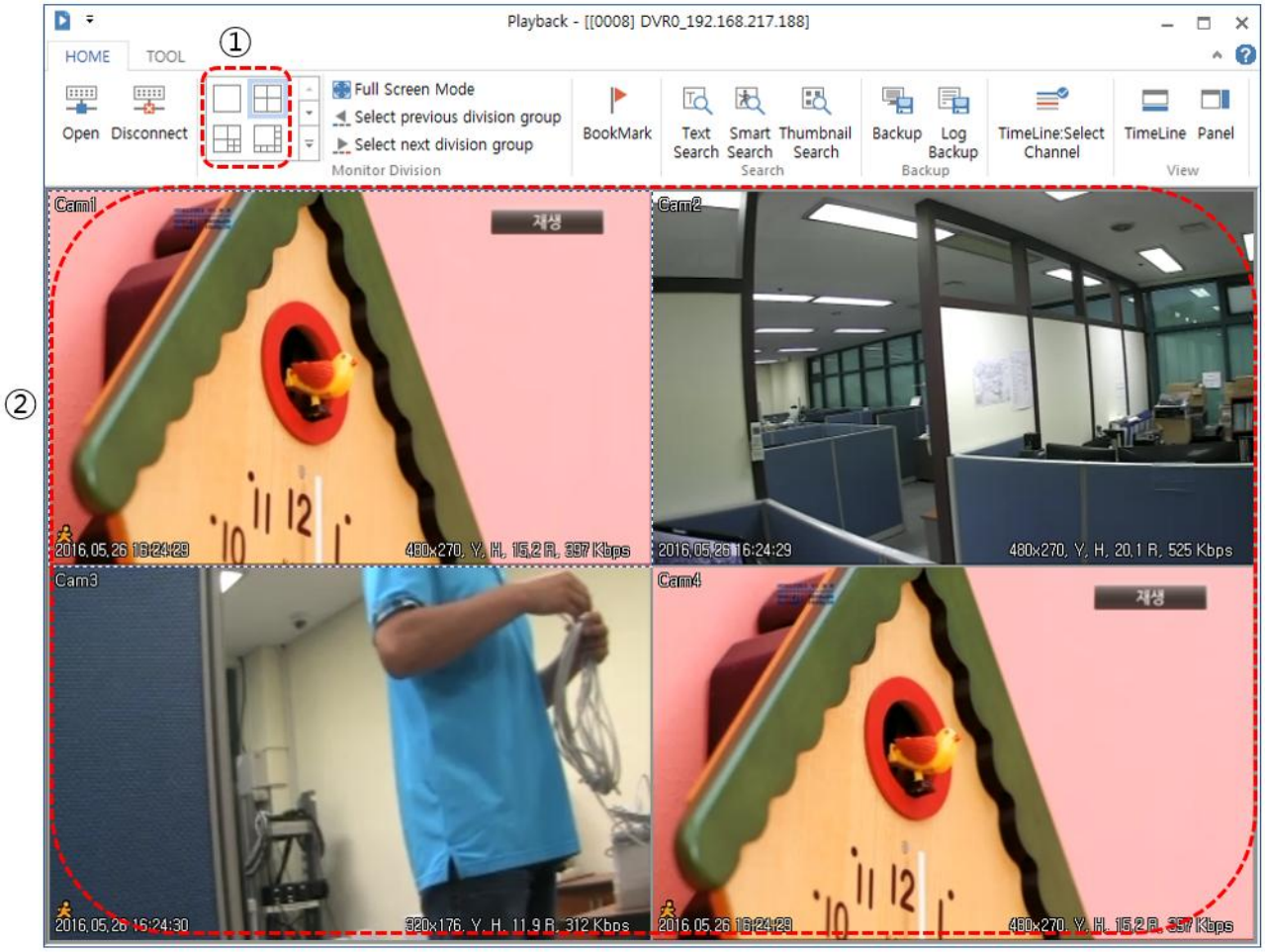
接続の終了(切断)

上部ツールバーの [切断] アイコンをクリックすると、DVR HDD、ユニット、またはバックアップファイルの接続を閉じます。

基本操作

画面分割モードの変更

1~64 分割画面に対応しており、① アイコンをクリックするか特定のチャンネルをダブルクリックして画面分割モードを変更できます。



① 分割アイコンをクリックすると多分割モードで表示されます。② 特定のチャンネルをダブルクリックするとシングルモードで表示され、もう一度ダブルクリックすると以前の分割モードに戻ります。

フルスクリーンモード

[フルスクリーンモード] アイコンをクリックするとフルスクリーンモードになり、[ESC] キーで終了します。フルスクリーンモードの左下に表示される ① 再生コントロールボタンで再生速度を制御できます。[X] ボタンをクリックするとフルスクリーンモードを終了します。



映像位置の変更

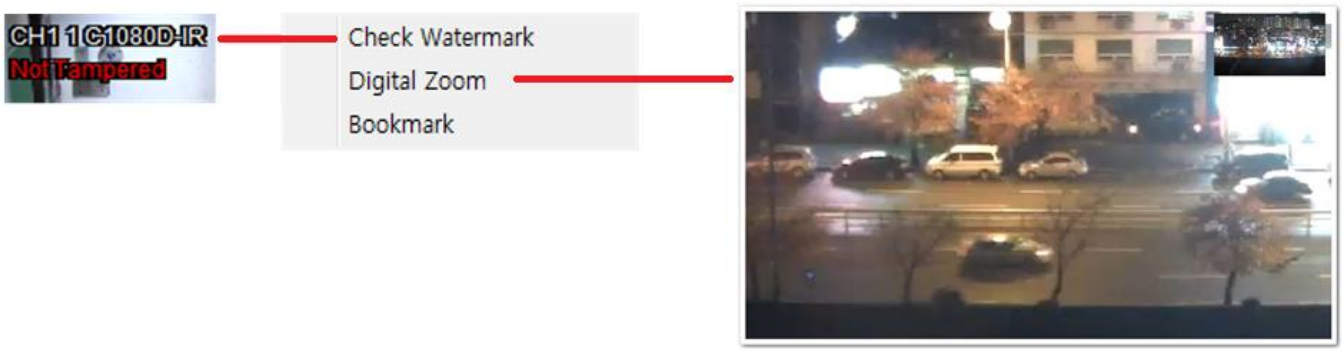
映像位置を移動するには、マウスで映像を選択して目的の位置へドラッグします。異なるモニター間での位置変更も可能です。



1) ① 映像を ② の位置へドラッグすると、① と ② が入れ替わります。

映像ウィンドウのポップアップメニュー

映像上で右クリックするとメニューが表示され、主要機能を使用できます。この操作は選択した映像にのみ適用されます。



項目		説明
1	ウォーターマーク確認	元データが破損しているかどうかを表示します。
2	デジタルズーム	デジタルズームを使用するには「設定」>「表示」>「DirectX Draw 使用」をチェックし、画面モードをシングルチャンネルモードにする必要があります。マウス操作で映像をズームできます。全体映像はミニマップに表示され、ミニマップ領域をクリックしてズーム領域を移動できます。
3	ブックマーク	ブックマークの保存時刻、チャンネル、メモを確認できます。(ビューセット再生中はブックマークは無効になります。)

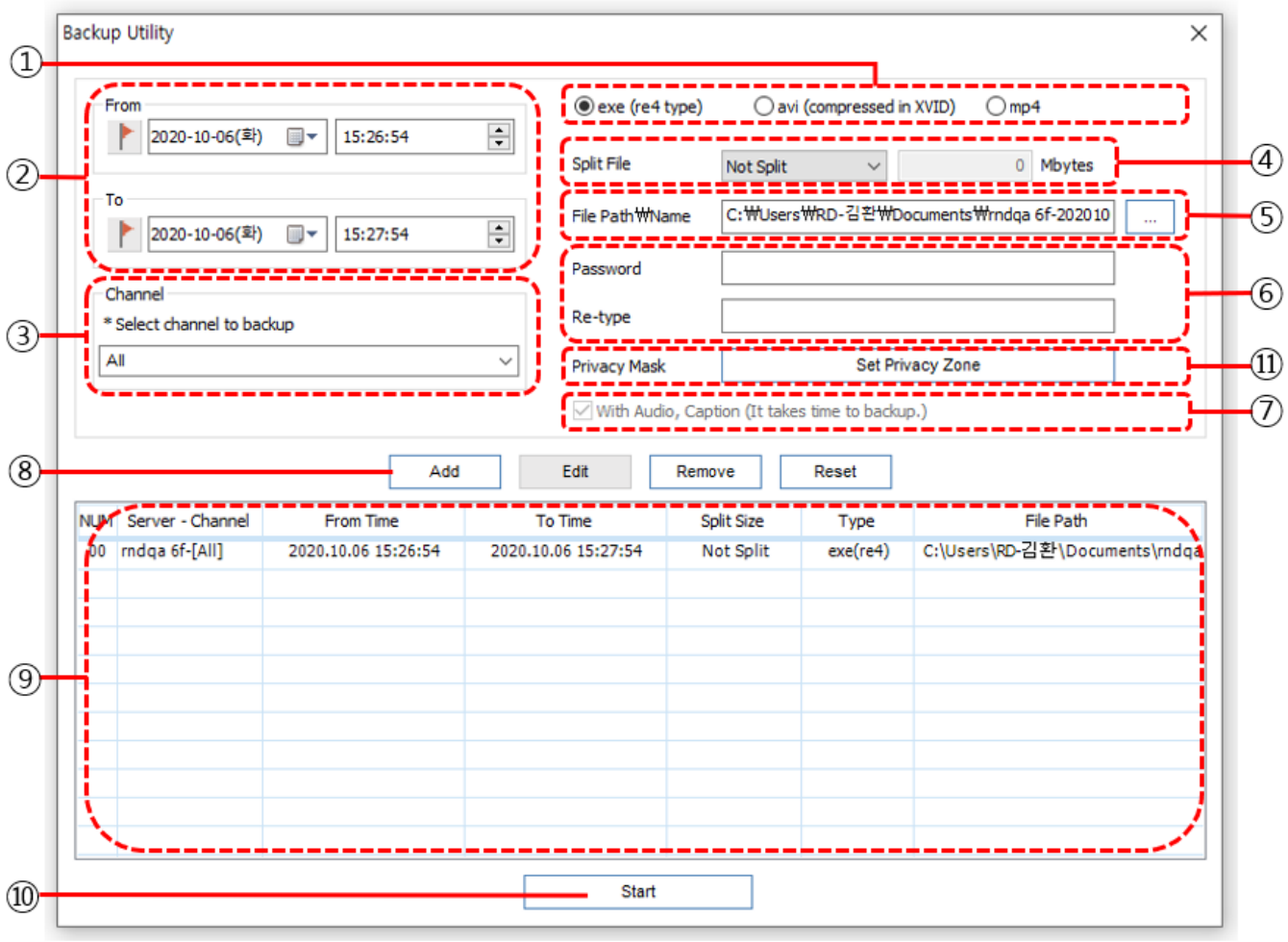
バックアップ

検索再生ビューアで登録ユニットにアクセスし、録画データやログ情報をバックアップします。また、バックアップファイルや DVR の HDD のファイルを開き、特定の区間を選択してバックアップできます。

映像バックアップ

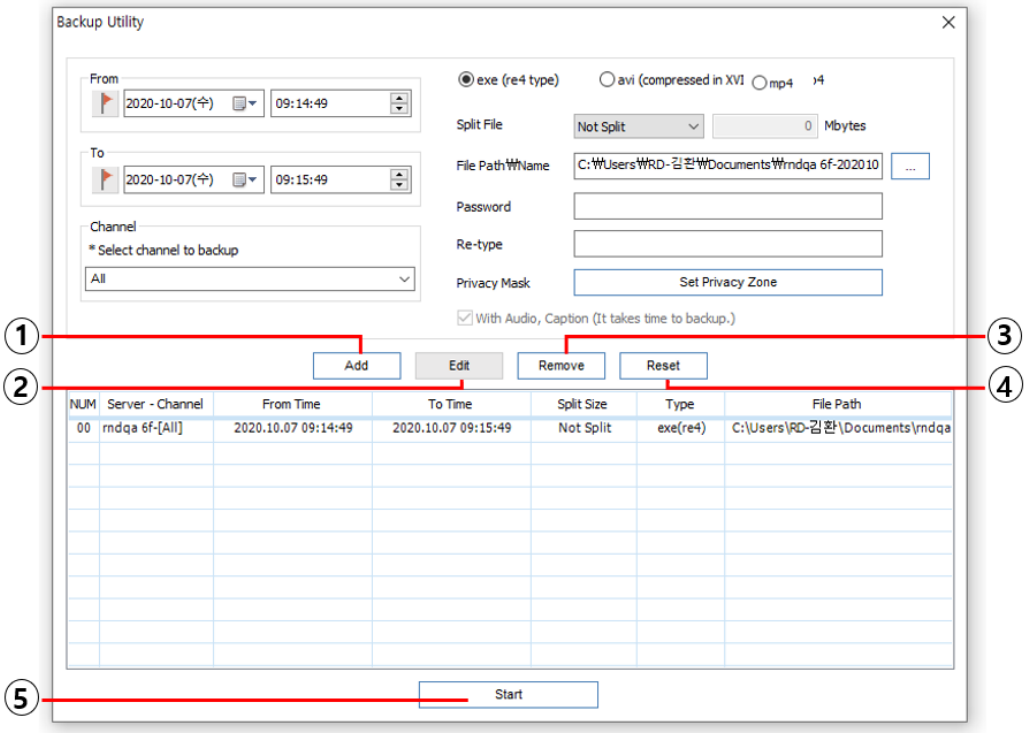
バックアップの形式は EXE(RE4)、AVI、MP4 があります。EXE(RE4)形式はマルチチャンネルのバックアップに対応し、イベント情報などもあわせてバックアップします。AVI、MP4 形式は一般的なプレーヤーで再生でき、シングルチャンネルのみ対応です。プログラム左側のコントロールパネルにある [バックアップ] アイコンをクリックすると「バックアップユーティリティ」が実行されます。

バックアップユーティリティ



1) ① バックアップファイル形式を [EXE]、[AVI]、[MP4] から選択します。② バックアップの開始時刻と終了時刻を設定します。終了時刻は開始時刻より前にできません。誤った時刻を入力した場合、終了時刻は自動的に開始時刻より後に設定されます。
2) ③ バックアップするチャンネルを選択します。バックアップファイル形式が AVI、MP4 の場合、選択できるのは 1 チャンネルのみです。
3) ④ 分割するファイルサイズを選択します。バックアップファイルのサイズが分割サイズより大きい場合、バックアップファイルは分割されます。
4) ⑤ [⋯] アイコンをクリックしてファイルパスとファイル名を変更します。既定のファイルパスは「マイドキュメント」、ファイル名は「ユニット番号-ユニット名-バックアップ開始時刻-バックアップ終了時刻」です。
5) ⑥ ファイルを暗号化できます。パスワードは最大 14 文字まで設定できます。
6) ⑦ AVI バックアップ時は、音声とキャプション(チャンネル名、日時)を含めてバックアップできます。
7) 設定が完了したら ⑧ [追加] ボタンをクリックして ⑨ バックアップリストに追加します。バックアップリストウィンドウには、バックアップ番号、サーバー-チャンネル、開始時刻、終了時刻、分割サイズ、バックアップファイル形式、ファイルパスが表示されます。
8) ⑩ [開始] ボタンをクリックするとバックアップを開始します。バックアップ中は処理中のバックアップリストに赤い枠が重なって表示され、進行状況を示します。完了したバックアップリストは緑の枠に変わります。すべてのバックアップが完了するとポップアップウィンドウが表示されます。
9) ⑪ プライバシー領域を設定すると、バックアップ映像で隠す必要がある領域が黒でマスクされます。

<注意>
1. アイコンをクリックするとブックマークリストが表示され、ブックマーク時刻を 1 つ選択できます。
2. プライバシーマスクは 1 チャンネルにのみ設定できます。



	項目	説明
1	追加	現在設定したバックアップをバックアップリストに追加します。
2	編集	バックアップリストを選択してバックアップ設定を変更します。[編集] ボタンをクリックすると変更したバックアップ設定が適用されます。
3	削除	削除するバックアップリストを選択し、[削除] ボタンをクリックして削除します。
4	リセット	[リセット] ボタンをクリックすると、選択したバックアップリストのバックアップ設定を初期化します。「開始時刻」と「終了時刻」以外のすべての設定が初期化されます。
5	開始/停止	[開始] ボタンをクリックするとバックアップを開始します。バックアップ中はこのボタンが [停止] に変わります。[停止] ボタンをクリックするとバックアップを停止します。

ログバックアップ

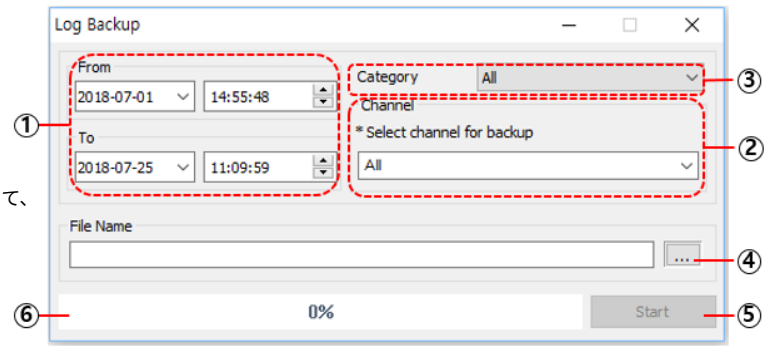
ログバックアップは、ユーザーが選択したチャンネル単位で CSV ファイルに保存できます。プログラム左側のコントロールパネルにある [ログバックアップ] アイコンをクリックすると「バックアップユーティリティ」が実行されます。

1) ログバックアップウィンドウで ① バックアップ区間の開始時刻と終了時刻を設定します。開始時刻を終了時刻より後に設定することはできません。誤って設定した場合、終了時刻が開始時刻より後になるよう自動調整されます。

2) ③ 分類メニューで ② バックアップするチャンネルと項目(すべて、イベント、プリ/ポストアラーム、テキスト)を選択します。

3) ④ […] をクリックすると「名前を付けて保存」ウィンドウが表示されます。保存先とファイル名を入力して [保存] ボタンをクリックすると、ウィンドウが閉じて保存先とファイル名が確定します。

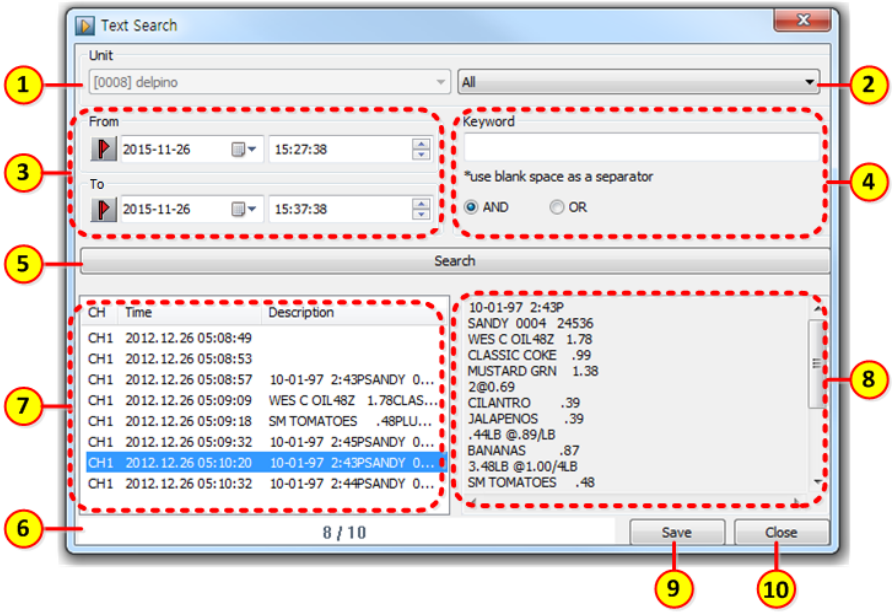
4) ログファイルは CSV 形式で保存されます。
⑤ [開始] ボタンをクリックするとバックアップを開始します。
⑥
バックアップの進行状況が % で表示されます。



検索

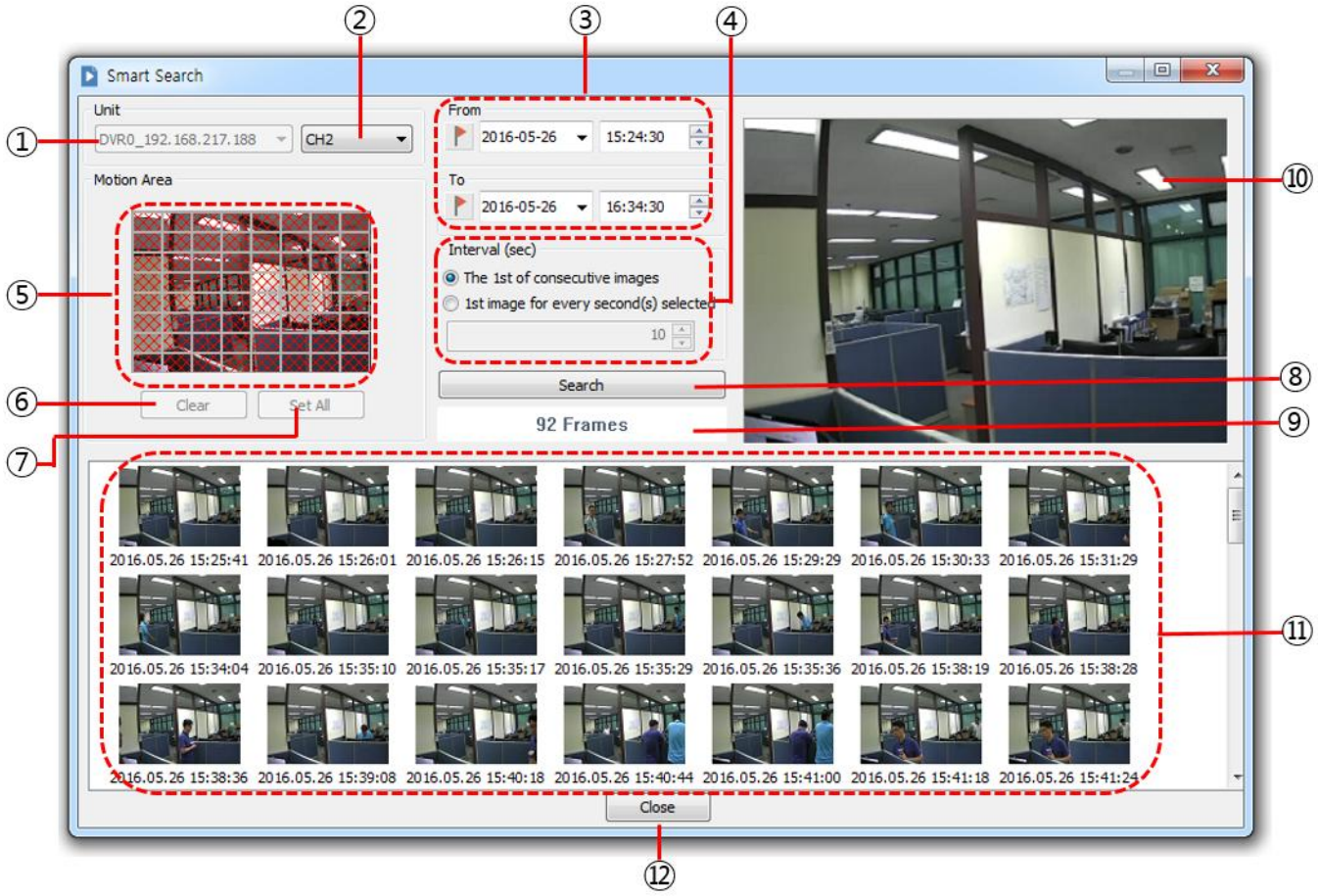
検索再生ビューアでは、すばやく簡単に検索できるさまざまな検索モードに対応しています。テキスト検索では特定の時間に記録されたテキストを、スマート検索ではモーションが検知された映像を検索でき、サムネイル検索ではユーザーが設定した特定の区間を検索できます。

テキスト検索



1) テキスト検索ウィンドウに ① 接続中のユニット名が表示されます。
2) ② 検索チャンネルを選択し、③ 検索区間の開始時刻と終了時刻を設定します。開始時刻を終了時刻より後に設定することはできません。誤って設定した場合、終了時刻が開始時刻より後になるよう自動調整されます。
3) ④ キーワード検索が可能です。キーワード検索を行わない場合は空欄のまま ⑤ [検索] ボタンをクリックします。⑥ ステータスバーに検索状態が表示され、検索が完了すると ⑦ 検索されたテキストリストが表示されます。
4) テキストリストを選択すると ⑧ テキストの内容が表示されます。リストをダブルクリックするとタイムラインに移動し、テキストに関連する映像を表示します。
5) ⑨ [保存] ボタンをクリックすると検索したテキストを TXT 形式で保存し、⑩ [閉じる] ボタンをクリックするとテキスト検索を終了してウィンドウを閉じます。

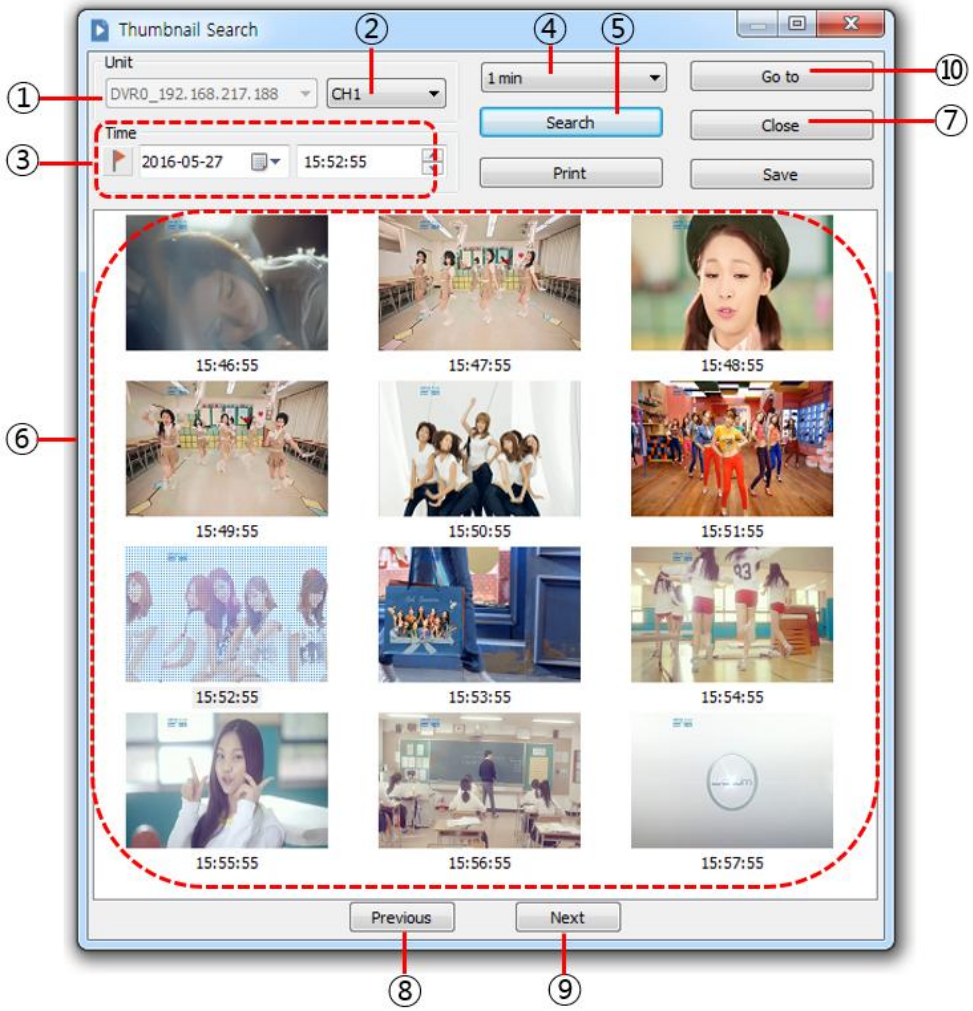
スマート検索



1) ① 接続中のユニット名を表示します。
2) ② 検索チャンネルを選択し、③ 検索の開始時刻と終了時刻を設定します。開始時刻は終了時刻より前に設定する必要があります。誤って設定した場合、終了時刻が開始時刻より後になるよう自動調整されます。

3) ④ 検索間隔を設定できます。「連続画像の 1 枚目」を選択すると、すべての画像(フレーム)でモーションを検索し、連続する画像の 1 枚目を表示します。「選択した秒数ごとの 1 枚目」を選択すると、設定した秒数ごとにモーションを検索し、最初にモーションを検知した画像を表示します。
4) ⑤ モーションを検知する領域を選択します。その領域でモーションがある画像のみが検出されます。検索速度を上げるのに非常に役立つ機能です。
5) ⑥ [クリア] ボタンですべての領域をクリアし、⑦ [すべて設定] ボタンですべての領域をモーション検知領域に設定します。
6) ⑧ [検索] ボタンをクリックすると検索を開始し、⑨ プログレスバーに検索状態が表示されます。検索完了後、検索された画像フレーム数がプログレスバーに表示されます。
7) 検索された画像は ⑪ にサムネイルで表示されます。特定のサムネイルをクリックすると ⑩ ウィンドウに表示されます。⑪ サムネイルをダブルクリックすると、再生ウィンドウの時刻がそのサムネイルの時刻に移動します。
8) ⑫ [閉じる] ボタンをクリックするとスマート検索を終了して検索ウィンドウを閉じます。

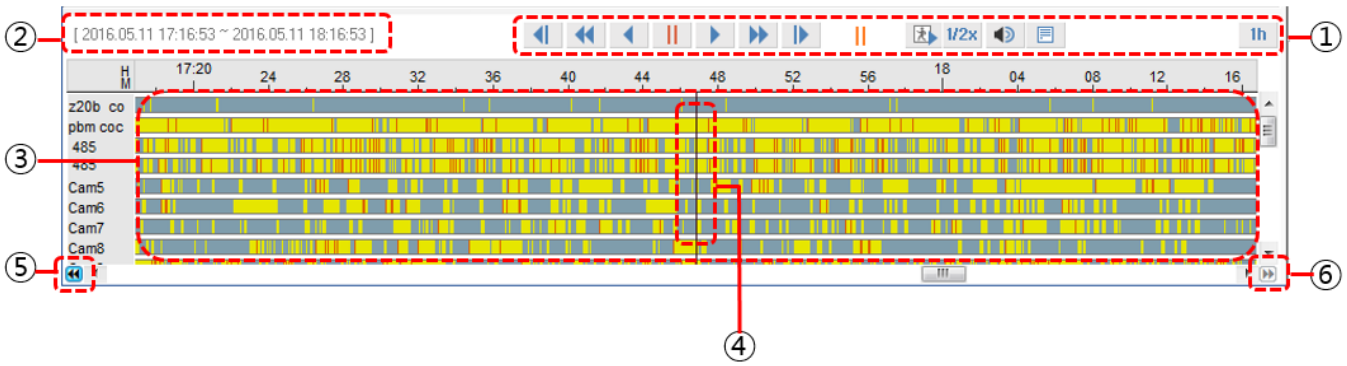
サムネイル検索



1) サムネイル検索ウィンドウに ① 接続中のユニット名が表示されます。
2) ② 検索するチャンネルを選択し、③ 検索の開始時刻を設定します。
3) ④ サムネイル間の間隔を設定し、⑤ [検索] ボタンをクリックして検索を開始します。検索が完了すると、設定に従って ⑥ サムネイル画像が表示されます。
4) 検索結果(サムネイル画像)は ⑥ 検索結果ウィンドウに表示可能な数だけ表示されます。⑧ [前へ] と ⑨ [次へ] ボタンで検索を続けます。
5) サムネイル画像をダブルクリックするか、サムネイル画像をクリックして ⑩ [移動] ボタンをクリックすると、再生ウィンドウの時刻がそのサムネイルの時刻に移動します。
6) ⑦ [閉じる] ボタンをクリックするとサムネイル検索を終了して検索ウィンドウを閉じます。

タイムライン

タイムラインビューアでは、通常録画区間とイベント録画区間をグラフィカルに表示します。マウスで任意の区間を選択でき、このタイムラインウィンドウで再生に関するさまざまな機能と操作を選択できます。



1) タイムラインビューアの ① 再生コントロールボタンで映像の再生を操作できます。再生コントロールボタンの説明は下表を参照してください。
2) ② タイムラインに表示される検索区間の日付/時刻情報を示します。
3) タイムラインは ③ グラフで表示され、④ スライドバーで検索区間を選択すると再生できます。タイムラインのログ属性は色で区別されます(グレー:通常録画、黄:モーション検知、赤:センサー入力、オレンジ:イベントプリ/ポスト、ワインレッド:テキスト)。
4) ⑤ ボタンをクリックすると検索時刻を維持したまま 1 日前に、⑥ ボタンで 1 日後に移動します。
5) タイムラインが再読み込みされ、移動した日付の時刻情報が表示されます。

再生コントロールボタンの説明

ボタン	説明
	1 コマ戻した映像を表示します
	映像を逆再生します
	再生を停止します。
	映像を順再生します。
	1 コマ進めた映像を表示します
/	再生モードを「イベントのみ」または「すべての映像」に設定します。アイコンをクリックすると再生モードを切り替えます。
/	再生速度を 1x、2x、4x、8x、16x、24x、32x、64x に設定します。
All 1/2x 1/4x	- ALL:映像の全フレームを最大速度で再生します。再生速度は PC の性能とネットワーク速度に依存します。 - 1/2:映像を 1/2 速度で再生します。 - 1/4:映像を 1/4 速度で再生します。
10m ~ 24h	タイムラインに表示する区間(10 分、30 分、1 時間、3 時間、6 時間、12 時間、24 時間)を選択できます。 タイムライン上に選択した時間の録画区間を表示し、ログの読み込み状態を示すポップアップウィンドウが表示されます。 タイムラインログの読み込み中に取り消すことができます。

ジョグ&シャトルとショートカットキーの使用

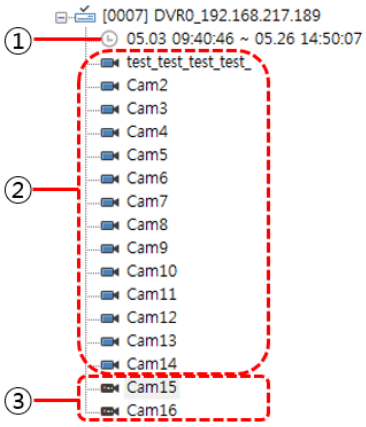
Control Center 再生は、ジョグ&シャトルキーボードなどの外部コントローラーとショートカットキーに対応しているため、再生機能を簡単に操作できます。また、ショートカットキー対応の外部コントローラーでは、ショートカットキーを割り当てることで簡単に再生を操作できます。

キーマップ			
入力	**値**	**動作**	**キー値**
ジョグ	時計回り	順方向コマ送り再生	Alt+Shift+Right
	反時計回り	逆方向コマ送り再生	Ctrl+Shift+Left
シャトル	移動して中央へ	1 倍速逆再生	Ctrl+Shift+`
	左 1	2 倍速逆再生	Ctrl+Shift+1
	左 2	4 倍速逆再生	Ctrl+Shift+2
	左 3	8 倍速逆再生	Ctrl+Shift+3
	左 4	16 倍速逆再生	Ctrl+Shift+4
	左 5	32 倍速逆再生	Ctrl+Shift+5
	左 6 以上	64 倍速逆再生	Ctrl+Shift+6
	移動して中央へ	1 倍速順再生	Alt+Shift+`
	右 1	2 倍速順再生	Alt+Shift+1
	右 2	4 倍速順再生	Alt+Shift+2
	右 3	8 倍速順再生	Alt+Shift+3
	右 4	16 倍速順再生	Alt+Shift+4
	右 5	32 倍速順再生	Alt+Shift+5
	右 6 以上	64 倍速順再生	Alt+Shift+6
ボタン	左端	逆方向コマ送り再生	Alt+Shift+Left
	左	逆再生	Alt+Shift+<
	中央	一時停止	Alt+Shift+?
	右	順再生	Alt+Shift+>
	右端	順方向コマ送り再生	Alt+Shift+Right

録画区間とチャンネル表示

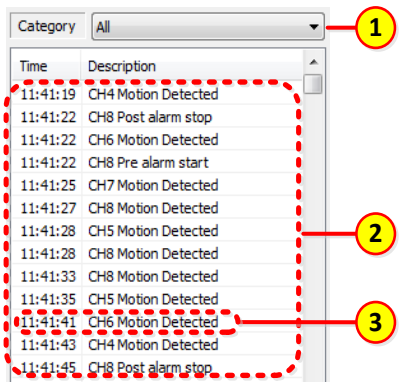
現在接続中のディスクの録画区間と有効なチャンネルを表示します。選択したチャンネルのみ再生されます。

① 録画映像の開始時刻と終了時刻を表示します。
② 再生するよう選択したチャンネルを表示します。
③ 再生対象として選択されていないチャンネルを表示します。



ログビューア

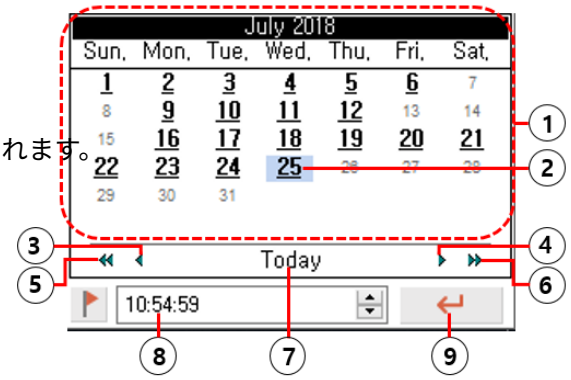
ログビューアには、タイムラインに読み込んだ検索区間のログリストが表示されます。選択したチャンネルのログ情報が表示され、分類を選択して絞り込めます。ログリストのログをダブルクリックすると、そのログの録画データに移動して録画映像を確認できます。



1) ログビューアウィンドウには、タイムラインに読み込んだ区間の ② ログリストが表示されます。
2) ① 分類で すべて/プリ・ポストアラーム/テキスト/モーション/センサー/炎/映像状態/録画状態 を選択して、目的のログデータを分類して表示します。
3) ③ ログリストをダブルクリックすると、そのログの再生区間に移動して録画映像を確認できます。

カレンダー検索

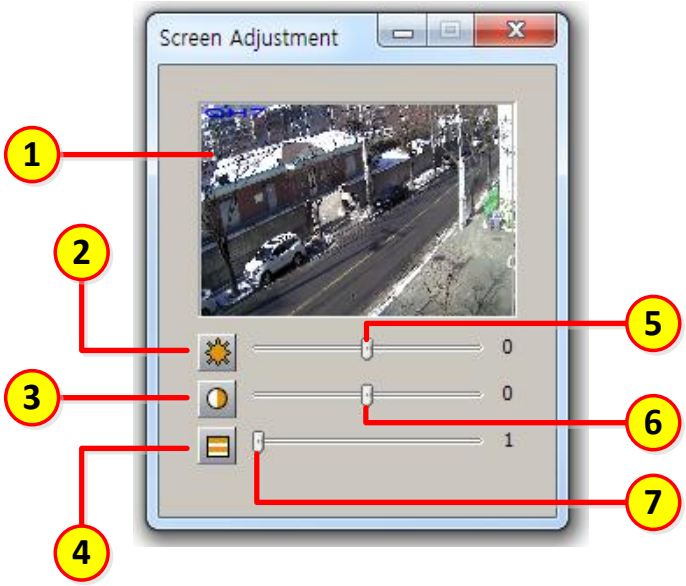
録画された日付を示します。日付を選択するか時刻を入力して録画データを直接検索します。



1) カレンダーが表示され、録画された日付は ① 太字/下線で表示されます。選択した日付は ② 青い網掛けで表示されます。
2) ③ 前年へ移動。④ 翌年へ移動。⑤ 前月へ移動。⑥ 翌月へ移動。⑦ 今日のカレンダーへ移動。⑧ 選択した日付で検索する時刻を入力します。
3) ⑨ ボタンをクリックすると入力した時刻で検索し、タイムラインに表示します。

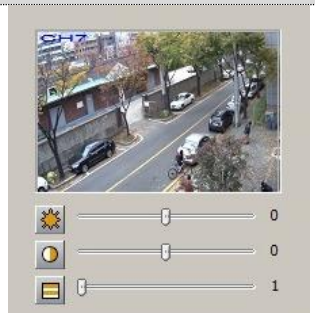
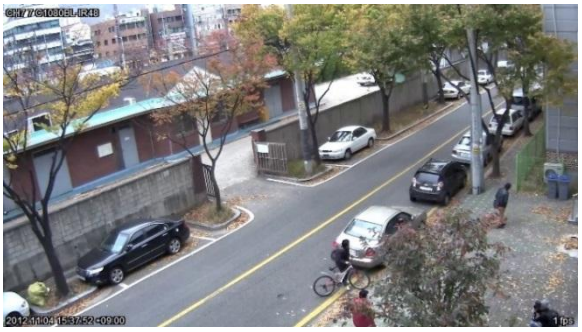
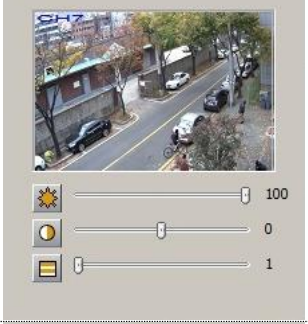
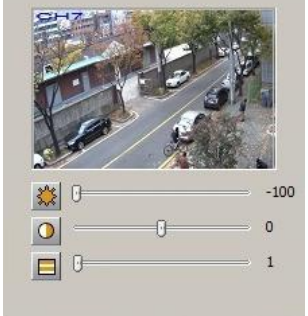
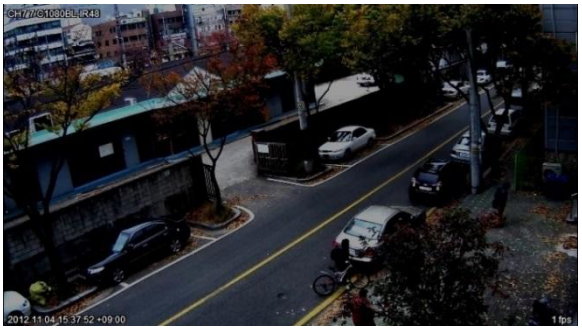
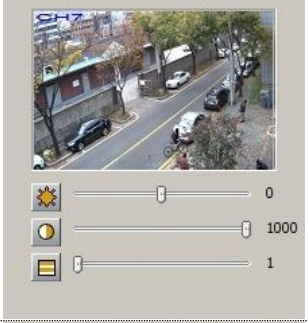
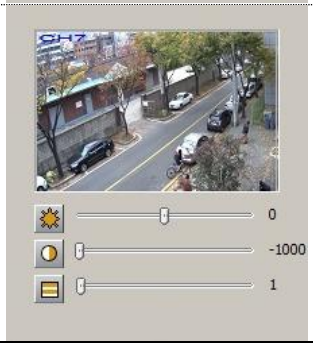
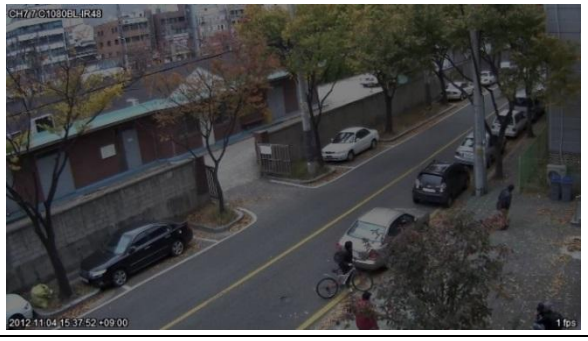
<注意> ブックマーク時刻へ移動するにはブックマークアイコン( )を使用してください。 

映像調整



項目		説明
1	映像表示	選択した映像チャンネルを表示します。
2	明るさ初期値	明るさを初期値に戻します。初期値は 0 です。
3	コントラスト初期値	コントラストを初期値に戻します。初期値は 0 です。
4	デインターレース初期値	デインターレースを初期値に戻します。初期値は 1 です。(入力映像がインターレース映像の場合のみ有効です。)
5	明るさ調整バー	映像の明るさを調整します。範囲は -100~100 です。
6	コントラスト調整バー	映像のコントラストを調整します。範囲は -1000~1000 です。
7	デインターレース調整バー	デインターレース機能の使用を調整します。0 はデインターレース OFF で、範囲は 0~100 です。

映像調整の例

項目		説明
初期値		
明るさ		
		
コントラスト		
		

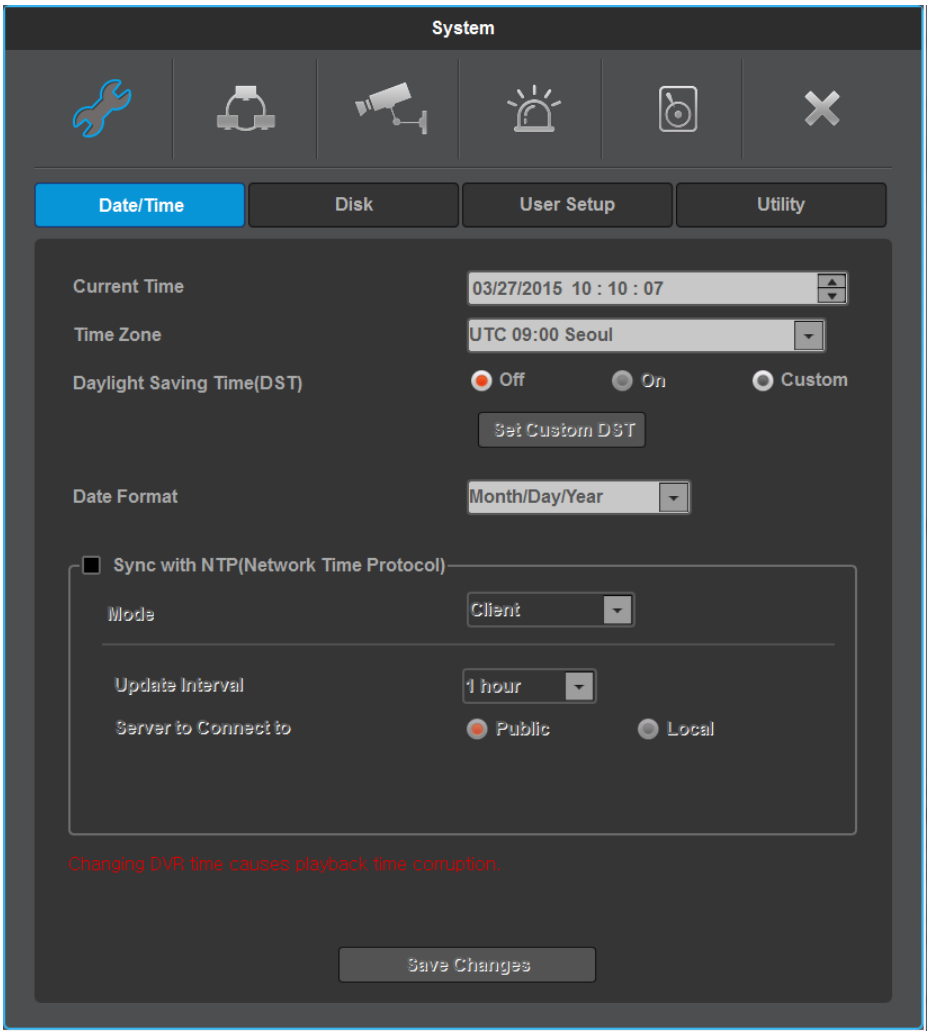
デインターレース		
		

設定ツール

Control Center への登録や、ローカルネットワーク経由で接続したユニットの設定が可能です。WESP プロトコルに対応するすべてのユニットで使用でき、効率的かつ統合的な管理を実現します。

画面構成

ユニットを選択し、ツールバーの「設定ツール」アイコンをクリックすると CONFIG が実行されます。



設定メニューは DVR/NVR と同じです。設定については DVR/NVR のマニュアルを参照してください。Config 用の追加プラグインは、DVR に接続すると自動的にダウンロード・インストールされます。

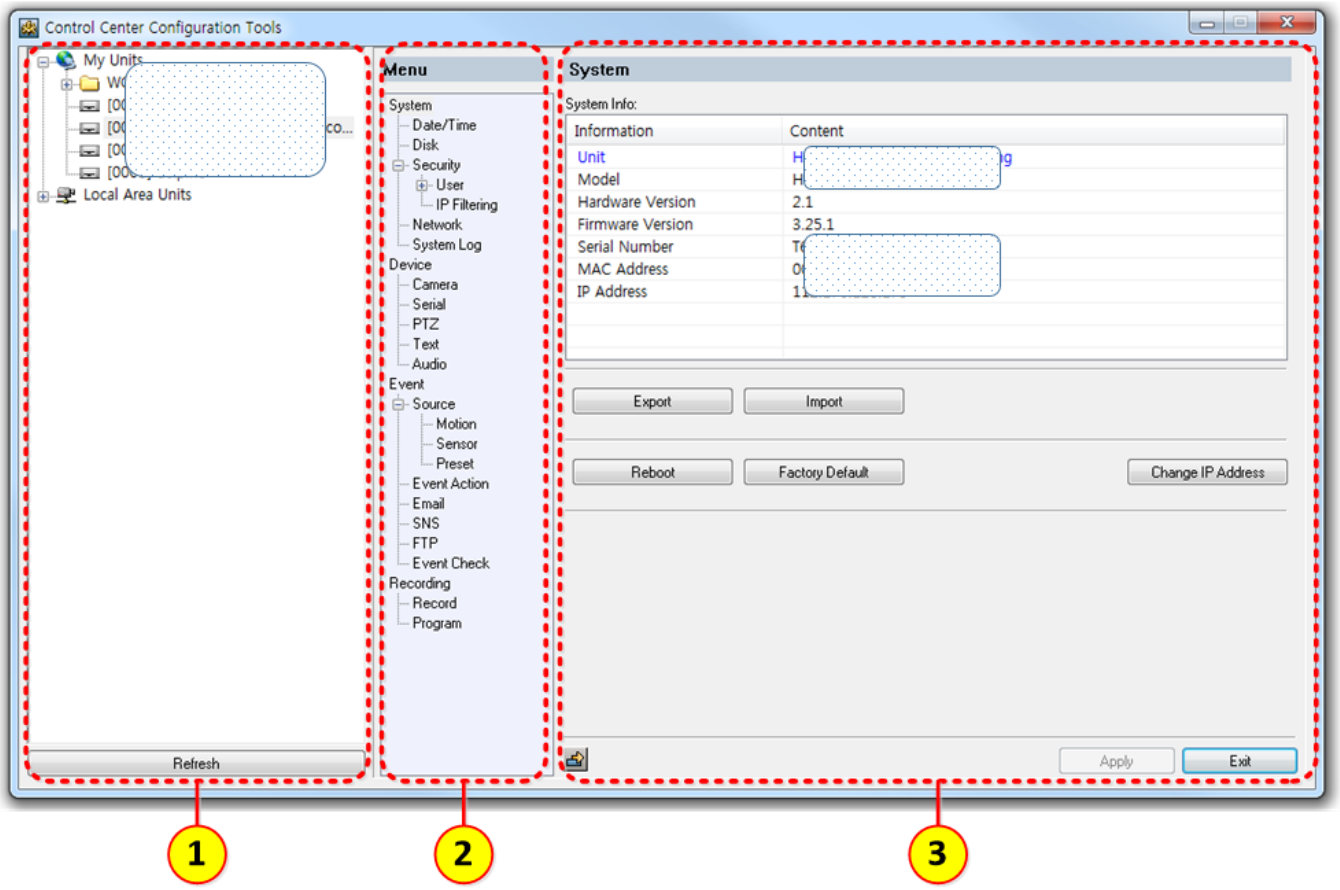
< 参考 >

1. この UI は FW バージョン v4.x 以降で対応しています。
2. UI を実行できない場合は、「C:\ProgramData\Digital Image World\Control Center\config」以下のファイルとフォルダーを削除して再度お試しください。

旧モデルの設定

ユニットのファームウェアバージョンが V4.x 以前の場合、「設定ツール」では以下の UI が提供されます。

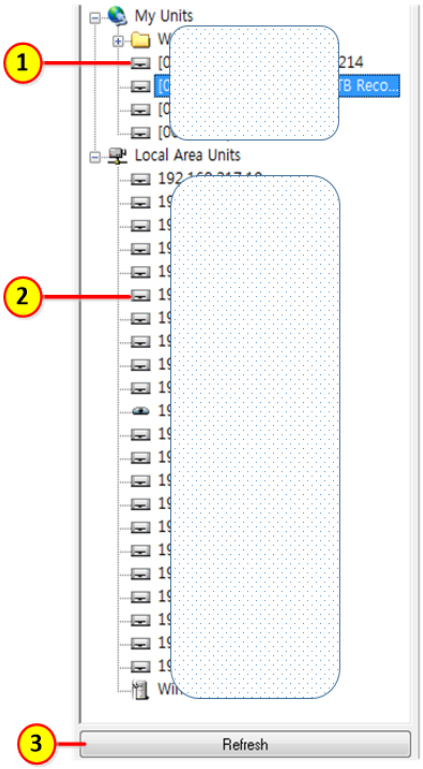
画面構成



項目		説明
1	ユニットリストウィンドウ	ユーザーのアカウントに登録されたユニットを表示します。ユニットをクリックするとアクセスします。
2	メニューウィンドウ	メニューのリストを表示します。クリックするとそのメニューに接続します。接続したモデルによってメニューが異なります。
3	システムウィンドウ	選択したメニューの設定情報を表示し、設定値を変更できます。各項目の設定の詳細は、各モデルのユーザーガイドを参照してください。

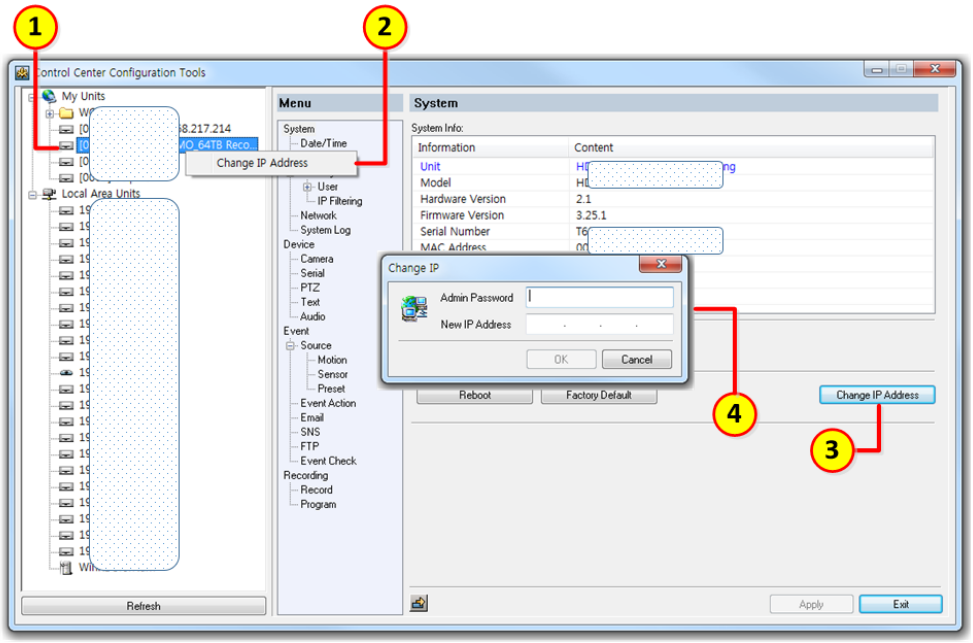
ユニット接続

ライブビューアの「登録ユニット」に登録されたユニットリストを共有します。「登録ユニット」に登録されていないユニットに接続する場合は、使用するために認証が必要です。



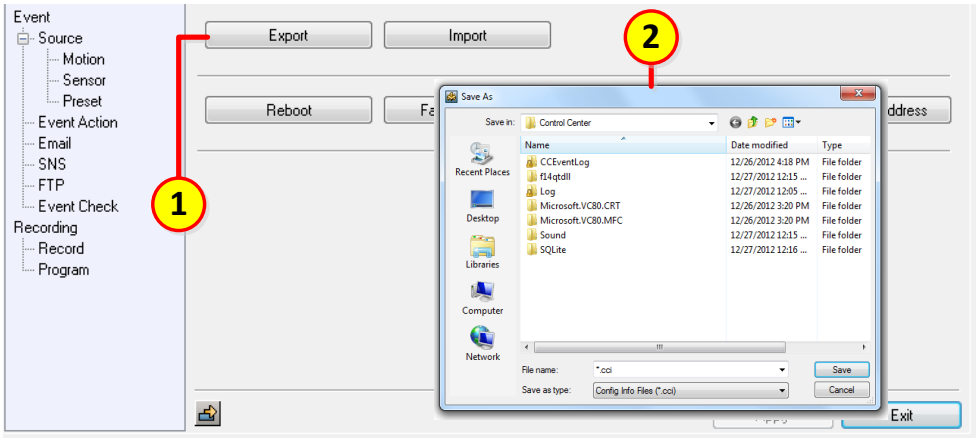
1) ユニットリストウィンドウで「登録ユニット」に登録済みのユニットを選択すると、ユニットにアクセスできます。「未登録ユニット」のユニットを選択すると、管理者パスワードを求めるウィンドウが表示され、入力したパスワードが認証されるとユニットにアクセスできます。
2) ユニットにアクセスすると、メニューウィンドウにユニットのメニューが表示されます。
3) ③ [更新] ボタンをクリックするとユニットリストを更新します。

IP アドレスの変更



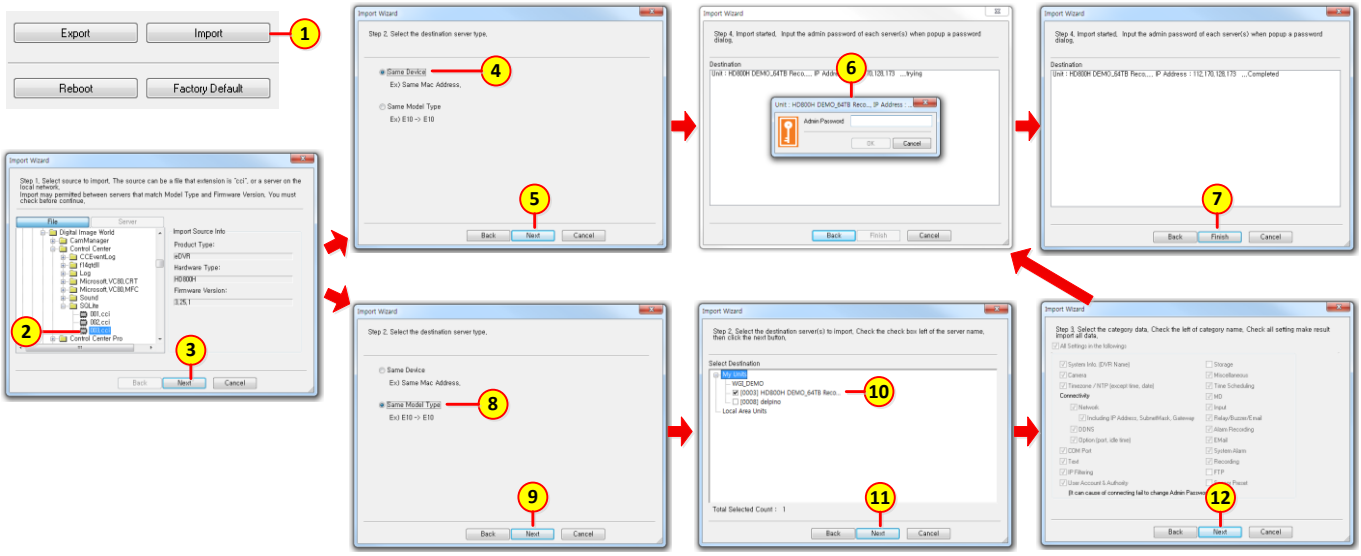
ユニットリストウィンドウで ① ユニットを選択し、右クリックしてポップアップメニューの ② [IP アドレス変更] または設定ウィンドウのシステム情報メニューの ③ [IP アドレス変更] をクリックすると ④ IP 変更ウィンドウが表示されます。管理者パスワードと変更する IP アドレスを入力し、[OK] ボタンをクリックすると IP アドレスが変更されます。

ユニット設定のエクスポート



設定ウィンドウで ① [エクスポート] ボタンをクリックすると ② 「名前を付けて保存」ウィンドウが表示されます。保存先を選択してファイル名を入力し、[保存] ボタンをクリックすると保存されます。

ユニット設定のインポート



同一デバイスの設定をインポート 設定ウィンドウで ① [インポート] ボタンをクリックするとインポートウィザードが起動します。②

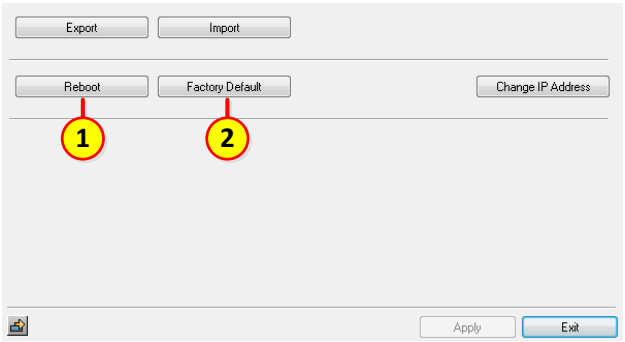
1) 「エクスポート」で保存したファイルを選択し、③ [次へ] ボタンをクリックします。
2) ステップ 2 で ④ [同一デバイス] を選択し、⑤ [次へ] ボタンをクリックします。
3) ステップ 4 に進むと ⑥ 「管理者パスワード」を求めるポップアップが表示されます。パスワードを入力して [OK] ボタンをクリックすると設定のインポートが実行されます。
4) ⑦ [完了] ボタンをクリックすると設定のインポートが完了し、ウィンドウが閉じます。

同一製品ファミリーの設定をインポート

1) 設定ウィンドウで ① [インポート] ボタンをクリックするとインポートウィザードが起動します。② 「エクスポート」で保存したファイルを選択し、③ [次へ] ボタンをクリックします。
2) ステップ 2 で ⑧ [同一モデルタイプ] を選択し、⑨ [次へ] ボタンをクリックします。⑩ 設定を適用するユニットを選択し、⑪ [次へ] ボタンをクリックします。
3) ステップ 3 に進むと、設定を適用する項目が表示されます。⑫ [次へ] をクリックしてステップ 4 に進みます。
4) ⑥ 「管理者パスワード」ウィンドウが表示されます。パスワードを入力して [OK] ボタンをクリックすると設定のインポートが実行されます。
5) ⑦ [完了] ボタンをクリックすると設定のインポートが完了し、ウィンドウが閉じます。

ユニットの再起動と工場出荷時設定

設定ツールでユニットの再起動と工場出荷時設定への初期化を行えます。工場出荷時設定に戻すとすべての設定値が復元できなくなるため、設定エクスポート機能で設定値を保存しておくことを推奨します。



1) 設定ウィンドウで ① [再起動] ボタンをクリックし、[適用] ボタンをクリックするとユニットが再起動します。
2) ② [工場出荷時設定] ボタンをクリックし、[適用] ボタンをクリックするとユニットが工場出荷時設定に戻ります。

ツリーを非表示

をもう一度クリックするとユニットリストウィンドウが非表示になり、アイコンに変わります。アイコン
ユニットリストウィンドウ
が表示されます。

ツール

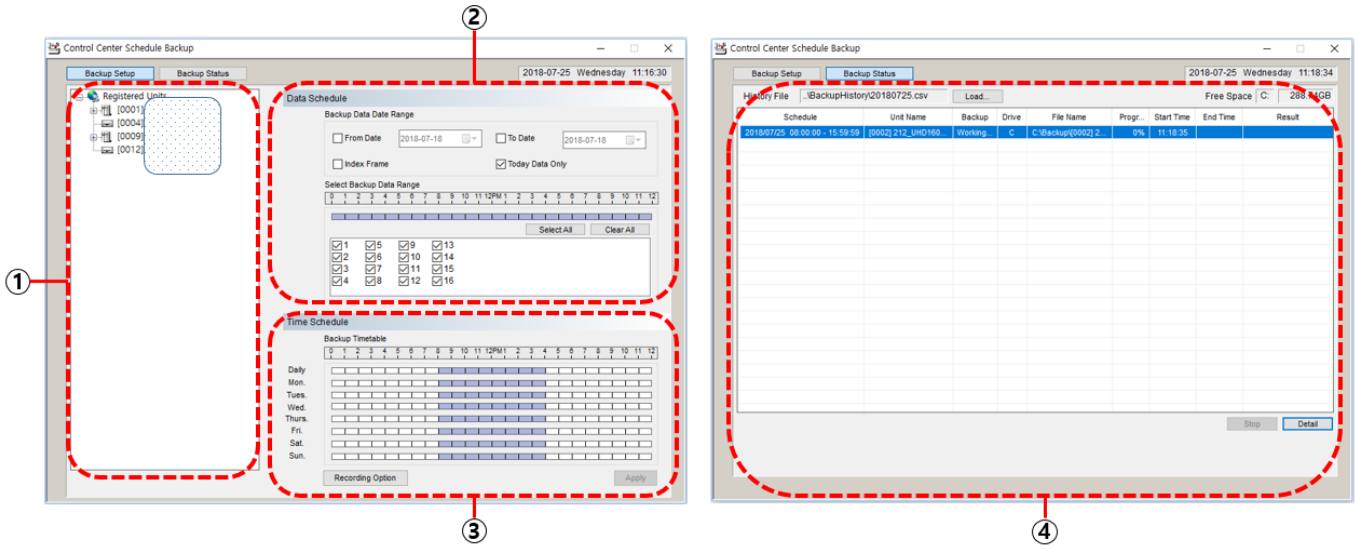
スケジュールバックアップ

スケジュールバックアッププログラムで、DVR または WinDVrS の録画データを PC にバックアップできます。スケジュールバックアップは管理者アカウントのみ使用できます。スケジュールバックアップは予約が可能で、予約したスケジュールに従って自動実行されます。バックアップを実行するには、スケジュールバックアッププログラムをバックグラウンドで実行しておく必要があります。Control Center が正しくインストールされていれば、スケジュールバックアップは自動的に登録され、PC 起動後に実行されます。スケジュールバックアップは同時に 1 台の PC で 1 台のユニットに対してのみ動作し、1 台のユニットについてバックアップを予約できる管理者は 1 人のみです。作成したバックアップファイルは Control Center 再生プログラムで再生できます。

<注意>

スケジュールバックアップ PC と DVR は同じタイムゾーンである必要があります

画面構成

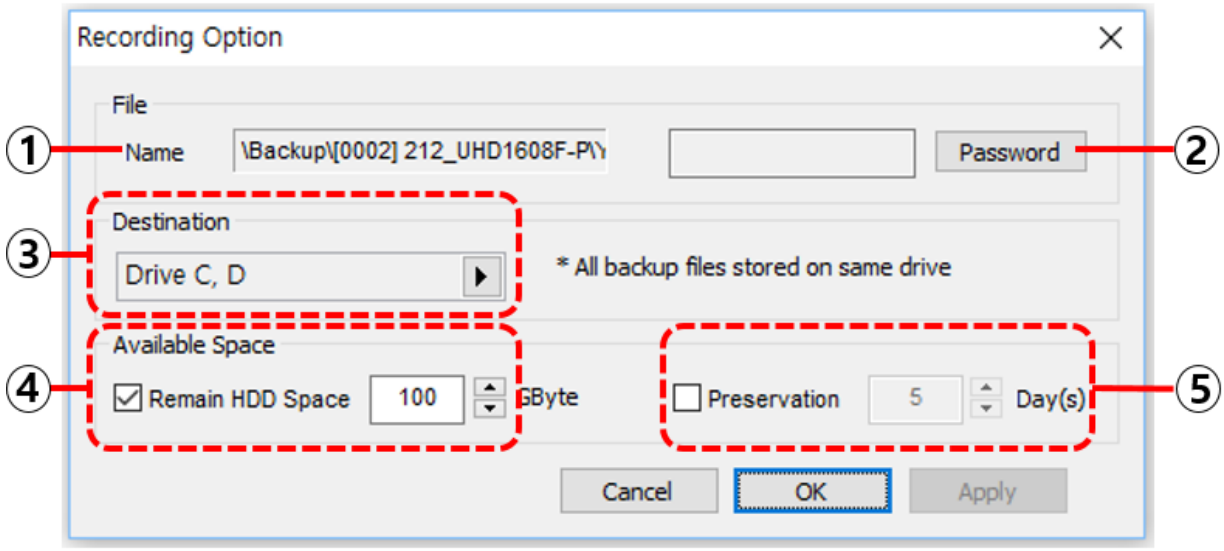


機能		説明
1	ユニットリスト	ユニットリストを表示します。クリックするとユニットに接続します。
2	バックアップデータ設定ウィンドウ	バックアップするチャンネルとバックアップ期間を設定できます。
3	バックアップスケジュール設定ウィンドウ	時間スケジュールを設定します。同時に設定できるユニットは 1 台のみです。
4	バックアップ状態ウィンドウ	バックアップの進行状況と完了状態を表示します。履歴ファイルを開いて日付ごとの詳細を確認できます。

バックアップ設定

録画オプション

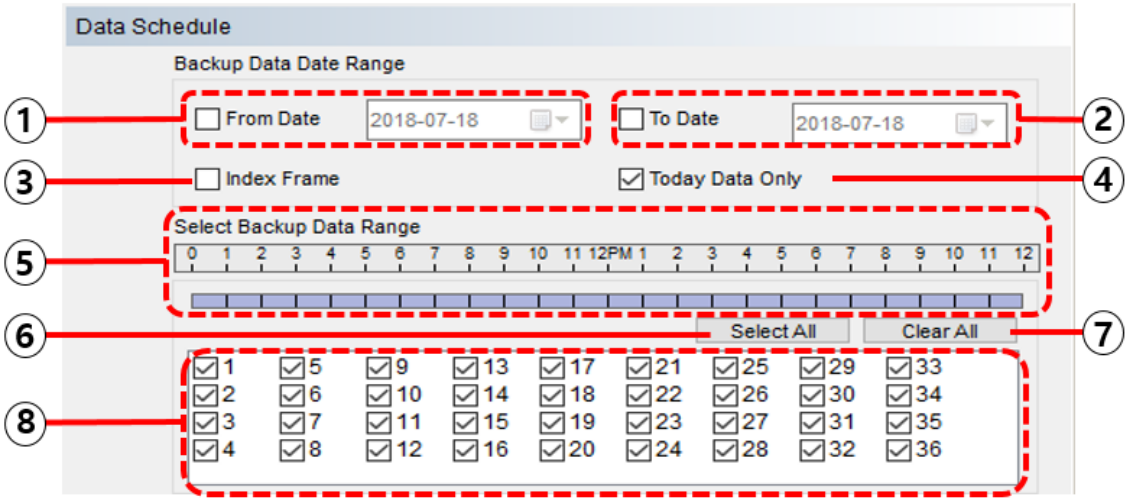
バックアップファイルの保存ドライブ、バックアップファイルのパスワード、HDD の最小空き容量の確保、バックアップファイルの保存期間を設定できます。ドライブ設定はすべてのユニットに適用され、その他の設定はユニットごとに個別に適用されます。[録画オプション] ボタンをクリックすると、以下の録画オプションウィンドウが表示されます。



	項目	説明
1	ファイルパスと名前	バックアップファイルの名前とパスは自動的に決定され、ユーザーは変更できません。録画パスは /Backup/ユニット名/ で、ファイル名は YYYYMMDD_HH_MM_SS 形式になります。ユニット名を変更すると録画パスも変わるのでご注意ください。
2	パスワード	バックアップファイルにパスワードを設定できます。初期状態ではパスワードがないため、パスワードを設定する場合は現在のパスワード欄を空欄のままにしてください。パスワードで保護されたファイルは、正しいパスワードを入力すると再生できます。
3	録画ドライブ	バックアップファイルを保存するドライブを指定できます。選択したドライブは「Drive C, D」のように表示されます。同時に複数のドライブを指定でき、このドライブ設定はすべてのユニットに適用されます。
4	HDD 空き容量	空き容量が不足すると、古いバックアップファイルが自動的に上書きされます。確保する最小ディスク容量を GB 単位で指定すると、バックアップ処理はその容量を維持します。範囲は 1~100GB です。
5	保存期間	バックアップファイルの保存期間を指定できます。期間を過ぎたファイルは自動的に削除されます。範囲は 1~365 日です。保存期間はバックアップファイルの最初のフレームの録画時刻から計算されます。

バックアップデータの設定

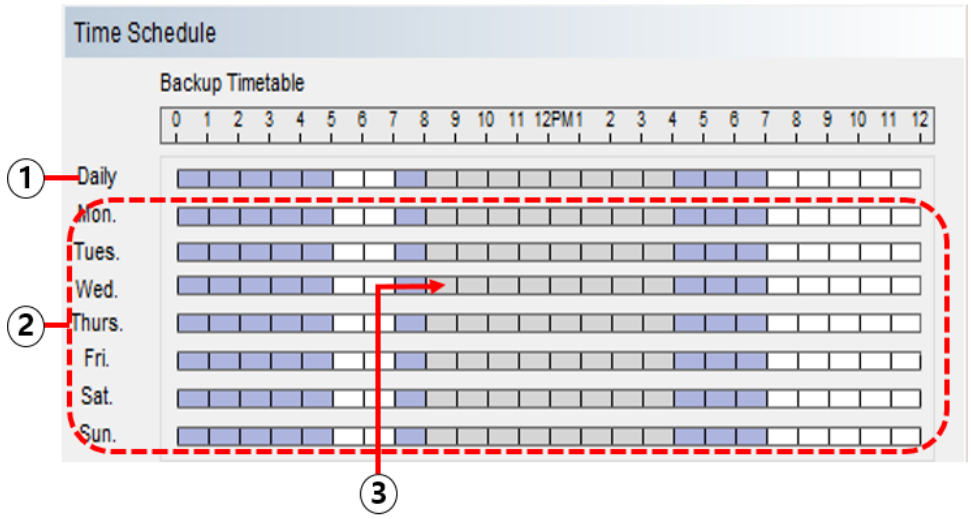
さまざまなバックアップ設定を行えます。ユニットごとに、バックアップ期間、チャンネル、日付、時刻、インデックスフレームバックアップの使用有無を設定できます。



1) バックアップ期間はユニットに記録された日付を基準に設定します。① 「開始日」をチェックすると日付入力欄が有効になり、バックアップの開始日を指定できます。
2) ② 「終了日」をチェックすると日付入力欄が有効になり、指定した日付までバックアップが実行されます。③ 「インデックスフレーム」をチェックすると、インデックスフレームのみバックアップされます。④ 「当日データのみ」をチェックすると、当日の録画データのみバックアップされます。
3) バックアップデータの範囲は時間単位で設定できます。白いブロックはバックアップ未指定を表し、白いブロックをクリックすると青に変わります。⑥ [すべて選択] ボタンですべてのチャンネルを選択し、⑦ [すべてクリア] ボタンですべてのチャンネルの選択を一度に解除します。
4) ⑧ バックアップ可能なチャンネルのみが有効になり、バックアップしたいチャンネルをチェックできます。

バックアップスケジュールの設定

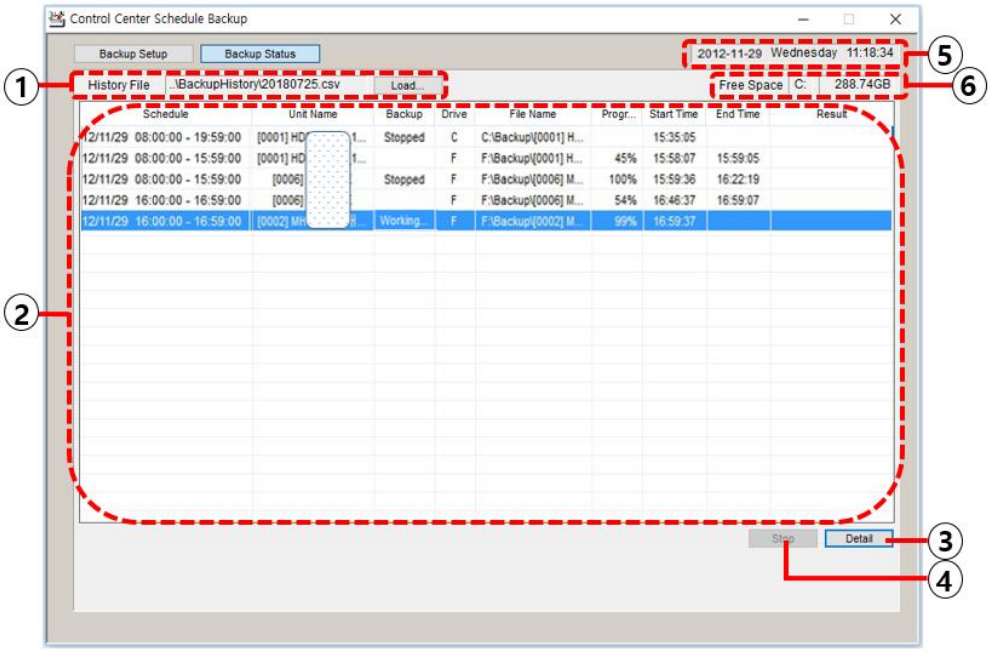
PC でバックアップスケジュールを設定できます。あるユニットがすでに使用しているスケジュールは、他のユニットと共有できません。

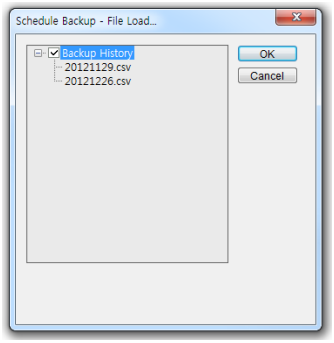
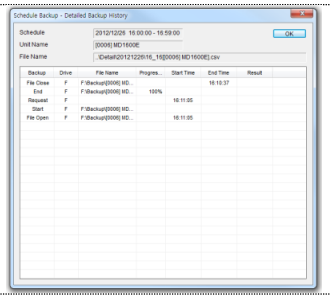


1) バックアップタイムテーブルでは、白いブロックはバックアップ未割り当て、青いブロックは他のユニットのバックアップに割り当て済みであることを示します。白いブロックをマウスで選択すると青に変わり、割り当てたバックアップスケジュールを示します。
2) ① 「毎日」を選択すると、すべての曜日が同時に変更されます。または、
② 曜日ごとに時間を選択することもできます。バックアップ割り当て済みのブロックは青で表示され、ブロックにマウスを合わせるとツールチップにユニット名が表示されます。

バックアップ状態

[バックアップ状態] ボタンをクリックすると、バックアップの詳細を確認できます。完了済みおよび進行中のすべてのバックアップ処理が表示され、履歴ファイルを開いてさらに詳細を確認できます。



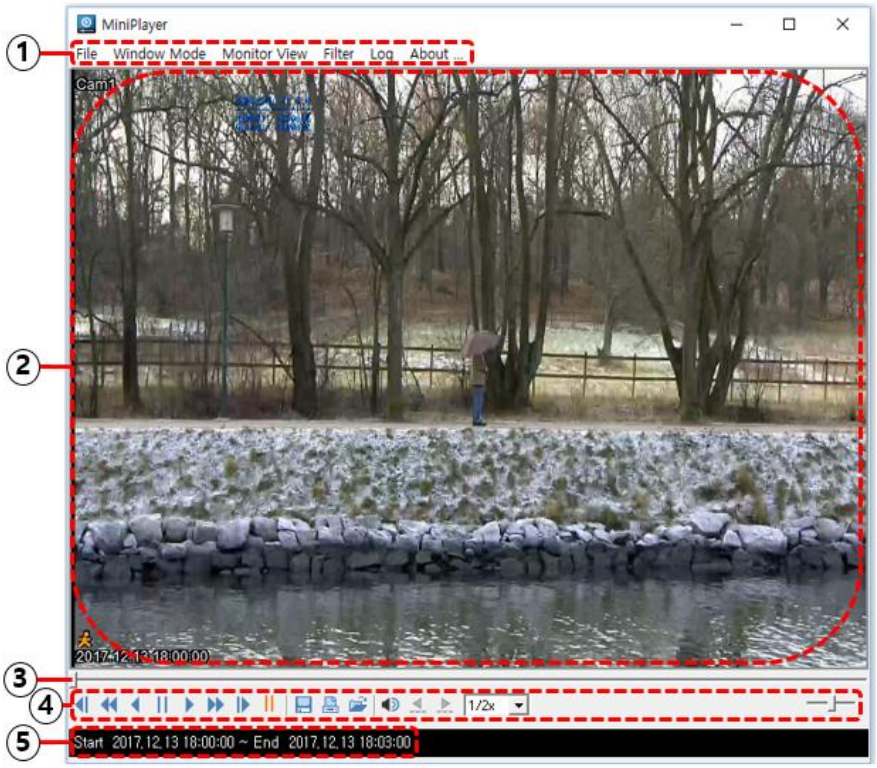
項目		説明	
1	履歴ファイル	履歴ファイルのパスと名前を表示します。日付を選択すると詳細を確認できます。	
2	バックアップリストウィンドウ	完了済みまたは進行中のバックアップの状態を表示します。	
3	詳細	バックアップリストを選択すると詳細を確認できます。バックアップスケジュール、ユニット名、ファイル名を表示し、バックアップの進行状況をステップごとに確認できます。	
4	停止	バックアップを停止します。他のスケジュールがある場合は、次のバックアップが開始されます。	
5	日付/時刻	日付と時刻を表示します	
6	バックアップディスク情報	バックアップディスクとその空き容量を表示します	

トレイアイコン

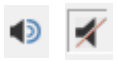
PC 起動後、スケジュールバックアッププログラムはバックグラウンドプログラムとして自動実行され、アップ中も動作します。右クリックでポップアップメニューを開き、や設定ができます。

MiniPlayer

MiniPlayer は Re4 ファイルを再生できます。Control Center をインストールできない環境で便利で、映像バックアップを作成した際に簡単に再生できます。MiniPlayer を実行すると「開く」ダイアログが自動的に表示されるので、再生する Re4 ファイルを選択します。

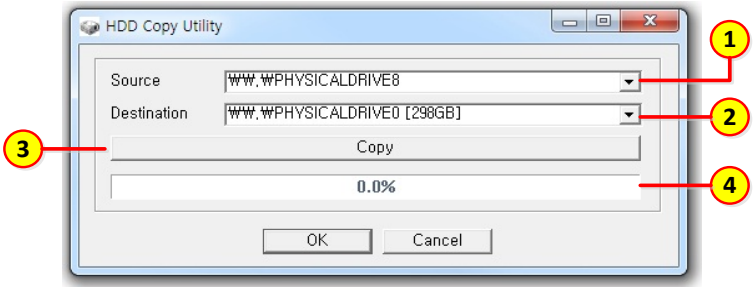


項目			説明
1	メニュー	ファイル	ファイルを開く、またはプログラムを終了します(開く/終了)
		ウィンドウモード	分割表示モードを変更します。(1/4/9/16/36/64 チャンネル)
		モニター表示	映像の比率を選択します。(フル/比率)
		詳細	1. デインターレースモードを有効にできます。 - デインターレースモードは D1 解像度映像の再生時のみ動作します。 2. ハードウェアデコード使用 1) グラフィックカード(GPU)のハードウェアデコーダーを使用して映像を表示する機能です。ハードウェアデコード使用時は、より多くのチャンネルをリアルタイム(フルフレーム)で監視できます。(既定:OFF) <注意> - GPU の使用可能メモリが 4GB 以下の場合、正常に動作しないことがあります。 - ハードウェアデコード機能は Intel(R) Core(TM) i7-6700 CPU @ 3.40GHz 以上、Intel® HD Graphics 530 以上、RAM 8GB 以上で正常に動作します。(Intel 以外のグラフィックカードは今後対応予定です。) - Intel 以外のグラフィックカードを使用している場合、ハードウェアデコードを ON にすると映像が表示されないことがあります。 - ハードウェアデコード性能を超えた場合、残りのチャンネルは自動的にソフトウェアデコードに切り替わります。(デインターレース/画面調整/HW デコード)

		ログ	ログビューアを開きます。ログは映像とともに記録されます。(ログ表示)
		バージョン情報…	バージョン、著作権などのソフトウェア情報を表示します。
2	表示ウィンドウ		映像を再生します このウィンドウで右クリックすると、ウォーターマークとデジタルズーム機能を使用できます。
3	タイムライン		スライダーバーで再生位置を移動できます。
4	再生、画像保存、印刷、音声、チャンネル切替ボタン		ボタンをクリックして再生方法を変更できます。(コマ戻し/高速逆再生/逆再生/一時停止/順再生/高速順再生/コマ送り)
			現在の映像を BMP 形式で保存します。キャプション、名前、日時、イベント情報を任意で保存できます。
			現在の映像を印刷します。映像とともにチャンネル名、録画時刻、イベント情報が印刷され、キャプションにメモを追加できます。
			「開く」ダイアログを表示します。ファイルを選択できます。
			音声をオン/オフします。
			他のチャンネルがある場合、前/次のチャンネルに移動します。
			音量を調整します。
5	ファイルの録画区間		選択したファイルの開始・終了日時情報を表示します。

DVR HDD Manager

DVR のハードディスクを PC に接続してデータをコピーできます。ディスク全体をバックアップしたい場合に使用する、最も高速なバックアップ方法です。



項目		説明
1	コピー元	元データが保存されているディスクを選択します。
2	コピー先	コピーしたデータを保存するディスクを選択します。選択するディスクは元のディスクより大きな空き容量が必要です。
3	コピー	コピーボタンを押すと、コピーを実行するか確認するポップアップウィンドウが表示されます。管理者パスワードを入力するとコピーが開始されます。
4	プログレスバー	コピーの進行状況を表示します。

付録

WESP SDK の紹介

WESP SDK(WEBGATE Embedded System Protocol Software Development Kit)は、WEBGATE 製品と連携するソフトウェアアプリケーションをプログラマーが簡単に開発できるよう支援します。WESP SDK には Control Center が提供するすべての機能が含まれているため、独自のアプリケーションを簡単に作成できます。この SDK により、製品のすべての設定の管理、ライブ監視映像や再生映像の取得が可能です。また WESP SDK は Microsoft COM 技術をベースにしており、Visual Basic、Visual C++、Visual Basic Script、Java Script、.Net などさまざまな開発言語に対応しています。WEBGATE のすべての製品は WESP プロトコルで設計されているため、開発したアプリケーションはすべての WEBGATE 製品で使用できます。

主な機能

✓ すべての WEBGATE 機器に同一の命令を提供 簡単な開発
✓ 環境と開発方法 製品のすべての機能に対応
✓

SDK の構成

SDK は Monitor、Discovery、Event、Config、PTZ、Playback コンポーネントで構成されています。

SDK の例

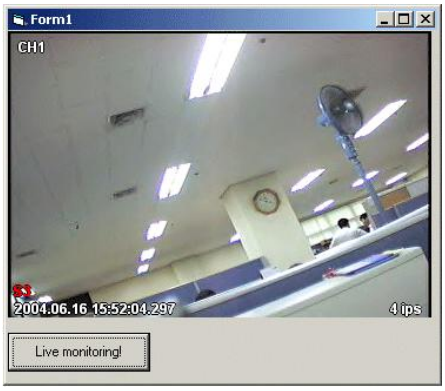
ライブ監視の例

ネットワークカメラや DVR から映像を取得する場合、Monitor コンポーネントを使用して簡単に実装できます。次の例では、「Live monitoring!」ボタンをクリックすると、IP アドレス、ポート、ID、パスワードを入力して製品に接続します。接続後、チャンネル 1 の映像を通常画質・30 フレーム/秒で表示します。

< **visual basic 6.0**>

```
‘ If button clicked, try the connection
Private Sub Command_connect_Click()
      Call MonitorCtrl.Connect(“192.168.63.1”, 80, “guest”, “guest_password”)
End Sub
‘ After connection, request the video
Private Sub MonitorCtrl_AckReceived(ByVal ackCode As Long, ByVal param As Long)
   If AckCode = ACK_CONNECT Then
      Call MonitorCtrl.PlayVideo(1, RESOLUTION_NORMAL, 30)
   End If
End Sub
```

< サンプルコードの実行 >



録画の例

ライブ監視中に現在の映像を録画する場合は、次のコードを使用します。

< visual basic 6.0>

```
Private Sub start_recording_Click()
   Call MonitorCtrl.StartRecording("c:\quickRec\", "testRecording.re3")
End Sub

Private Sub stop_recording_Click()    MonitorCtrl.StopRecording
End Sub
```

PTZ 制御の例

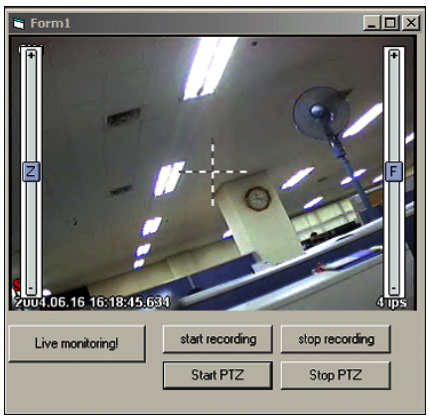
PTZ が接続されている場合、次のコードでライブ監視中に PTZ 制御機能をオン/オフできます。

< visual basic 6.0>

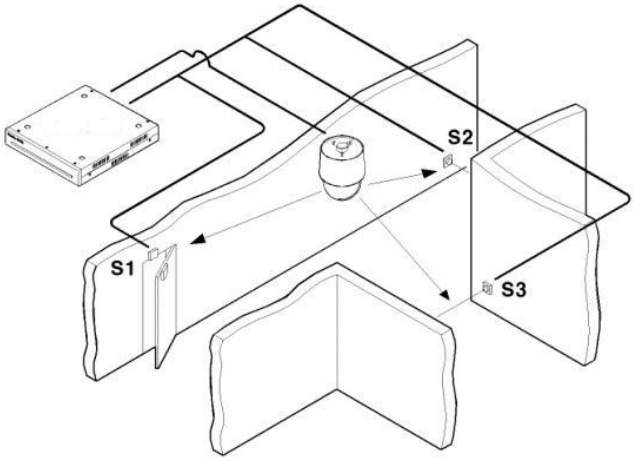
```
Private Sub start_ptz_Click()
   ‘ Input the PTZ channel number to parameter
   Call MonitorCtrl.StartPTZ(1)
End Sub

Private Sub stop_ptz_Click()
   MonitorCtrl.StopPTZ
End Sub
```

<サンプルコードの実行>



コンポーネント連携の例



次の例は Monitor、PTZ、Event コンポーネントを使用し、センサーアラームが発生すると PTZ があらかじめ指定したプリセット位置に移動します。

1) 上図はドームカメラとセンサーの位置を示しています。
2) ドームカメラのプリセット位置を設定します。(プリセット設定は Config コンポーネントで実行できます)
3) 次のコードにより、アラームセンサー入力に応じて PTZ が対応するプリセット位置に移動します。

< visual basic 6.0>

```
‘ If start button is clicked, Event, Monitor, and PTZ ActiveX component connect to
the equipment.
Private Sub Command_start_Click()
   Call Event1.Connect(“192.168.63.1”, 80, “guest”, “guest_password”, 0)
   Call Monitor1.Connect(“192.168.63.1”, 80, “guest”, “guest_password”)
   Call PTZ1.Connect(“192.168.63.1”, 80, “guest”, “guest_password”)
End Sub
‘ If stop button is clicked, close the connection.
Private Sub Command_stop_Click()
   Monitor1.Disconnect
   PTZ1.Disconnect
   Event1.Disconnect
End Sub

‘ When a event is occurred at server, below function will be executed.
‘ If Event category is 1 and Event ID is 16 then,
‘ Sever executes preset command 16 which is correspond to sensor input
Private Sub Event1_EventReceived(ByVal pIEvent As WESPEVENTLibCtl.IEvent)
  If pIEvent.EventCategory = 1 And pIEvent.EventID = 16 Then
       Call  PTZ1.GotoPreset(pIEvent.NumberField)
  End If

  If pIEvent.EventCategory = 1 And pIEvent.EventID = 17 Then
     ‘ If Sensor input is Off, it will not work.
  End If
End Sub
 ‘ After Monitor component succeeded to the connection, it displays video.
Private Sub Monitor1_AckReceived(ByVal AckCode As Long, ByVal Param As Long)
   If AckCode = ACK_CONNECT Then
      Monitor1.PlayVideo 1, 3, 15
   End If
```

製品のオープンソースライセンスに関する報告

本製品に含まれるソフトウェアには、GPL/LGPL に基づいてライセンスされた著作権のあるソフトウェアが含まれています。本製品の最終出荷から 3 年間、< mycctv@gmail.com > へ電子メールでご連絡いただくと、対応する完全なソースコードを入手できます。CD-ROM などの物理メディアで対応する完全なソースコードを入手する場合は、ソース配布の物理的な実費を請求することがあります。 LGPL : Miniplayer.exe, WespMonitor.dll, WespPlayback.dll, WESPRecorder.dll BSD License : Configuration.dll, AuthCodeGenerator.lib, UserManager.dll, libcdkey.lib, XCrashReport.exe Copyright (c) 1998-2000 University College London All rights reserved.

GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE

Version 2.1, February 1999

Copyright (C) 1991, 1999 Free Software Foundation, Inc.
51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA
Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies
of this license document, but changing it is not allowed.

[This is the first released version of the Lesser GPL. It also counts as the successor of the GNU Library Public License, version 2, hence the version number 2.1.]

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public Licenses are intended to guarantee your freedom to share and change free software--to make sure the software is free for all its users.

This license, the Lesser General Public License, applies to some specially designated software packages--typically libraries--of the Free Software Foundation and other authors who decide to use it. You can use it too, but we suggest you first think carefully about whether this license or the ordinary General Public License is the better strategy to use in any particular case, based on the explanations below.

When we speak of free software, we are referring to freedom of use, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish); that you receive source code or can get it if you want it; that you can change the software and use pieces of it in new free programs; and that you are informed that you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid distributors to deny you these rights or to ask you to surrender these rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the library or if you modify it.

For example, if you distribute copies of the library, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that we gave you. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. If you link other code with the library, you must provide complete object files to the recipients, so that they can relink them with the library after making changes to the library and recompiling it. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with a two-step method: (1) we copyright the library, and (2) we offer you this license, which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the library.

To protect each distributor, we want to make it very clear that there is no warranty for the free library. Also, if the library is modified by someone else and passed on, the recipients should know that what they have is not the original version, so that the original author's reputation will not be affected by problems that might be introduced by others.

Finally, software patents pose a constant threat to the existence of any free program. We wish to make sure that a company cannot effectively restrict the users of a free program by obtaining a restrictive license from a patent holder. Therefore, we insist that any patent license obtained for a version of the library must be consistent with the full freedom of use specified in this license.

Most GNU software, including some libraries, is covered by the ordinary GNU General Public License. This license, the GNU Lesser General Public License, applies to certain designated libraries, and is quite different from the ordinary General Public License. We use this license for certain libraries in order to permit linking those libraries into non-free programs.

When a program is linked with a library, whether statically or using a shared library, the combination of the two is legally speaking a combined work, a derivative of the original library. The ordinary General Public License therefore permits such linking only if the entire combination fits its criteria of freedom. The Lesser General Public License permits more lax criteria for linking other code with the library.

We call this license the "Lesser" General Public License because it does Less to protect the user's freedom than the ordinary General Public License. It also provides other free software developers Less of an advantage over competing non-free programs. These disadvantages are the reason we use the ordinary General Public License for many libraries. However, the Lesser license provides advantages in certain special circumstances.

For example, on rare occasions, there may be a special need to encourage the widest possible use of a certain library, so that it becomes a de-facto standard. To achieve this, non-free programs must be allowed to use the library. A more frequent case is that a free library does the same job as widely used non-free libraries. In this case, there is little to gain by limiting the free library to free software only, so we use the Lesser General Public License.

In other cases, permission to use a particular library in non-free programs enables a greater number of people to use a large body of free software. For example, permission to use the GNU C Library in non-free programs enables many more people to use the whole GNU operating system, as well as its variant, the GNU/Linux operating system.

Although the Lesser General Public License is Less protective of the users' freedom, it does ensure that the user of a program that is linked with the Library has the freedom and the wherewithal to run that program using a modified version of the Library.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow. Pay close attention to the difference between a "work based on the library" and a "work that uses the library". The former contains code derived from the library, whereas the latter must be combined with the library in order to run.

TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License Agreement applies to any software library or other program which contains a notice placed by the copyright holder or other authorized party saying it may be distributed under the terms of this Lesser General Public License (also called "this License"). Each licensee is addressed as "you".

A "library" means a collection of software functions and/or data prepared so as to be conveniently linked with application programs (which use some of those functions and data) to form executables.

The "Library", below, refers to any such software library or work which has been distributed under these terms. A "work based on the Library" means either the Library or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Library or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated straightforwardly into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".)

"Source code" for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For a library, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the library.

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running a program using the Library is not restricted, and output from such a program is covered only if its contents constitute a work based on the Library (independent of the use of the Library in a tool for writing it). Whether that is true depends on what the Library does and what the program that uses the Library does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Library's complete source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and distribute a copy of this License along with the Library.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Library or any portion of it, thus forming a work based on the Library, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

- **a)** The modified work must itself be a software library.
- **b)** You must cause the files modified to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.
- **c)** You must cause the whole of the work to be licensed at no charge to all third parties under the terms of this License.
- **d)** If a facility in the modified Library refers to a function or a table of data to be supplied by an application program that uses the facility, other than as an argument passed when the facility is invoked, then you must make a good faith effort to ensure that, in the event an application does not supply such function or table, the facility still operates, and performs whatever part of its purpose remains meaningful.

  (For example, a function in a library to compute square roots has a purpose that is entirely well-defined independent of the application. Therefore, Subsection 2d requires that any application-supplied function or table used by this function must be optional: if the application does not supply it, the square root function must still compute square roots.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Library, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Library, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Library.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Library with the Library (or with a work based on the Library) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may opt to apply the terms of the ordinary GNU General Public License instead of this License to a given copy of the Library. To do this, you must alter all the notices that refer to this License, so that they refer to the ordinary GNU General Public License, version 2, instead of to this License. (If a newer version than version 2 of the ordinary GNU General Public License has appeared, then you can specify that version instead if you wish.) Do not make any other change in these notices.

Once this change is made in a given copy, it is irreversible for that copy, so the ordinary GNU General Public License applies to all subsequent copies and derivative works made from that copy.

This option is useful when you wish to copy part of the code of the Library into a program that is not a library.

4. You may copy and distribute the Library (or a portion or derivative of it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange.

If distribution of object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place satisfies the requirement to distribute the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

5. A program that contains no derivative of any portion of the Library, but is designed to work with the Library by being compiled or linked with it, is called a "work that uses the Library". Such a work, in isolation, is not a derivative work of the Library, and therefore falls outside the scope of this License.

However, linking a "work that uses the Library" with the Library creates an executable that is a derivative of the Library (because it contains portions of the Library), rather than a "work that uses the library". The executable is therefore covered by this License. Section 6 states terms for distribution of such executables.

When a "work that uses the Library" uses material from a header file that is part of the Library, the object code for the work may be a derivative work of the Library even though the source code is not. Whether this is true is especially significant if the work can be linked without the Library, or if the work is itself a library. The threshold for this to be true is not precisely defined by law.

If such an object file uses only numerical parameters, data structure layouts and accessors, and small macros and small inline functions (ten lines or less in length), then the use of the object file is unrestricted, regardless of whether it is legally a derivative work. (Executables containing this object code plus portions of the Library will still fall under Section 6.)

Otherwise, if the work is a derivative of the Library, you may distribute the object code for the work under the terms of Section 6. Any executables containing that work also fall under Section 6, whether or not they are linked directly with the Library itself.

6. As an exception to the Sections above, you may also combine or link a "work that uses the Library" with the Library to produce a work containing portions of the Library, and distribute that work under terms of your choice, provided that the terms permit modification of the work for the customer's own use and reverse engineering for debugging such modifications.

You must give prominent notice with each copy of the work that the Library is used in it and that the Library and its use are covered by this License. You must supply a copy of this License. If the work during execution displays copyright notices, you must include the copyright notice for the Library among them, as well as a reference directing the user to the copy of this License. Also, you must do one of these things:

- **a)** Accompany the work with the complete corresponding machine-readable source code for the Library including whatever changes were used in the work (which must be distributed under Sections 1 and 2 above); and, if the work is an executable linked with the Library, with the complete machine-readable "work that uses the Library", as object code and/or source code, so that the user can modify the Library and then relink to produce a modified executable containing the modified Library. (It is understood that the user who changes the contents of definitions files in the Library will not necessarily be able to recompile the application to use the modified definitions.)
- **b)** Use a suitable shared library mechanism for linking with the Library. A suitable mechanism is one that (1) uses at run time a copy of the library already present on the user's computer system, rather than copying library functions into the executable, and (2) will operate properly with a modified version of the library, if the user installs one, as long as the modified version is interface-compatible with the version that the work was made with.
- **c)** Accompany the work with a written offer, valid for at least three years, to give the same user the materials specified in Subsection 6a, above, for a charge no more than the cost of performing this distribution.
- **d)** If distribution of the work is made by offering access to copy from a designated place, offer equivalent access to copy the above specified materials from the same place.
- **e)** Verify that the user has already received a copy of these materials or that you have already sent this user a copy.

For an executable, the required form of the "work that uses the Library" must include any data and utility programs needed for reproducing the executable from it. However, as a special exception, the materials to be distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

It may happen that this requirement contradicts the license restrictions of other proprietary libraries that do not normally accompany the operating system. Such a contradiction means you cannot use both them and the Library together in an executable that you distribute.

7. You may place library facilities that are a work based on the Library side-by-side in a single library together with other library facilities not covered by this License, and distribute such a combined library, provided that the separate distribution of the work based on the Library and of the other library facilities is otherwise permitted, and provided that you do these two things:

- **a)** Accompany the combined library with a copy of the same work based on the Library, uncombined with any other library facilities. This must be distributed under the terms of the Sections above.
- **b)** Give prominent notice with the combined library of the fact that part of it is a work based on the Library, and explaining where to find the accompanying uncombined form of the same work.

8. You may not copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

9. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Library or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Library (or any work based on the Library), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Library or works based on it.

10. Each time you redistribute the Library (or any work based on the Library), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute, link with or modify the Library subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties with this License.

11. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Library at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Library by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Library.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply, and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

12. If the distribution and/or use of the Library is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Library under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

13. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the Lesser General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Library specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Library does not specify a license version number, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

14. If you wish to incorporate parts of the Library into other free programs whose distribution conditions are incompatible with these, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

15. BECAUSE THE LIBRARY IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE LIBRARY, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE LIBRARY "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE LIBRARY IS WITH YOU. SHOULD THE LIBRARY PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

16. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE LIBRARY AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE LIBRARY (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE LIBRARY TO OPERATE WITH ANY OTHER SOFTWARE), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Libraries

If you develop a new library, and you want it to be of the greatest possible use to the public, we recommend making it free software that everyone can redistribute and change. You can do so by permitting redistribution under these terms (or, alternatively, under the terms of the ordinary General Public License).

To apply these terms, attach the following notices to the library. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

one line to give the library's name and an idea of what it does.
Copyright (C) *year name of author*

This library is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU Lesser General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2.1 of the License, or (at your option) any later version.

This library is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU Lesser General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU Lesser General Public License along with this library; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the library, if necessary. Here is a sample; alter the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the library `Frob' (a library for tweaking knobs) written by James Random Hacker.

signature of Ty Coon, 1 April 1990

Ty Coon, President of Vice

That's all there is to it!

Configuration.dll, AuthCodeGenerator.lib, UserManager.dll, libcdkey.lib,

XCrashReport.exe license:

Copyright (c) 1998-2000 University College London

All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, is permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement:
   This product includes software developed by the Computer Science Department at University College London
4. Neither the name of the University nor of the Department may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE AUTHORS AND CONTRIBUTORS ``AS IS'' AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

Copyright (c) 1991 Bell Communications Research, Inc. (Bellcore)

Permission to use, copy, modify, and distribute this material for any purpose and without fee is hereby granted, provided that the above copyright notice and this permission notice appear in all copies, and that the name of Bellcore not be used in advertising or publicity pertaining to this material without the specific, prior written permission of an authorized representative of Bellcore. BELLCORE MAKES NO REPRESENTATIONS ABOUT THE ACCURACY OR SUITABILITY OF THIS MATERIAL FOR ANY PURPOSE. IT IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES.

The World's first certified by HDcctv Alliance

Premium to your **HD-CCTV**

WEBGATE

WEBGATE Inc.

6F, Hanlim Venture Town B/D, 284, Gongdan-ro, Gunpo-si, Gyeonggi-do, Korea (15809)

Tel +82. 31. 428. 9383

Fax +82. 31. 455. 3955

sales@webgateinc.com

www.webgateinc.com